

第二回水產博覽會審查報告

第一卷第二冊

第一部 漁業

第一區 鹹水漁業

第二區 淡水漁業

第二類乃至第十一類

第十三類乃至第二十一類

訂 正

本書中雜漁具ノ部ハ釣具類ノ次ニ編入スヘキ筈ナリシカ印刷ノ際其順序ヲ誤レリ看者諒焉

十三頁 八行 鯉釣ノ下(第八十四版)ヲ脱ス

十四頁 二行 (第八十四版)ヲ(第八十五版)ニ改ム

全 十三行 (第八十五版)ヲ(第八十六版)ニ改ム

十五頁 八行 (第八十六版)ヲ(第八十七版)ニ改ム

十六頁 七行 (第八十七版)ヲ(第八十八版)ニ改ム

五十九頁 八行 (第八十九版)ヲ(第八十九版(一))ニ改ム

全 十一行 (第九十版)ヲ(第八十九版(二))ニ改ム

全 十四行 (第九十一版)ヲ(第九十版)ニ改ム

百六十八頁 九行 (第九十版)ハ(第九十七版)ノ衍

第二回水産博覽會審查報告 第一卷第二册

例 言

一 本書ハ主トシテ擔當審查官ノ提供セル意見ニ基キ且出品解説書其他ノ事項ヲ參酌シテ編述セリ

一 編纂ノ主旨ハ單ニ列品ノ優劣ニ就キ論評ヲ下スニ止マラス兼テ既往ノ沿革變遷ニ徴シ將來ノ希望ヲ陳述シテ今後ノ發達改良ヲ圖ルノ參考ニ資センコトヲ期セリ

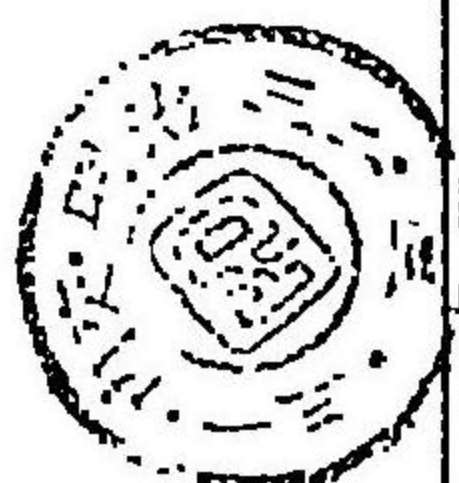
一 本書項目ノ區分ハ編纂上ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メタルカ爲メ出品部類目錄ト同シカラサルモノアリ

一 審査ノ顛末ニ關スル事項ハ事務報告ニ掲記セルモ審査官ノ姓名ハ參照ノ爲メ尙之レテ卷首ニ表記ス

一 本書ノ編纂ニ際シ漁船及釣具ノ部ハ審查書記山脇宗次主トシテ其起稿ニ從事シタリ

第一部審查報告員

明治三十一年七月 第二回水産博覽會審查官 金田 歸逸誌
同 丹羽 平太郎



審查分擔表

第一部 漁業		審查部長從三位勳二等 田中芳男	
區	類	審	查官
第一類	築磯、濱柴、罾、濱等ノ魚類招聚ノ方法及空籠、壺等ノ漁具、篝火具、集魚燈等ノ器具並其ノ裝置使用ノ方法、圖畫、雜形	從四位勳三等	丹羽平太郎 江澤潤一郎 鏑木余三男
第二類	銛、釣具、馬刀、突、鰻、插、介、卷、介、挾、採、藻、具、其ノ他ノ雜漁具及電氣裝置ノ漁具並其ノ使用、方法、圖畫、雜形	從六位	長谷川貞雄 松原新之助 丹羽平太郎 江澤潤一郎
第三類	延繩、曳繩、手釣、竿釣、空釣、擬餌、釣、其ノ他ノ釣具並其ノ使用方法、圖畫、雜形	從七位	金田歸逸 伊藤一隆 中村利吉
第四類	臘虎、臘、豚、獸、鯨、海、豚、其、他ノ海、獸、獵、具、並、獵、法	從七位	伊藤一隆

區		鹹		水		漁	
第五類	圖畫、雛形	第六類	網地、網絲、縹絲、網、釣鉤、釣竿、浮子、沈子、其ノ他 天蠶絲等ノ漁具製作原料	第七類	釣餌、撒餌等ノ各種餌料、標本及其ノ使用方 法、並餌料容器、生活物、(第六部)	第八類	漁船、船具、帆、楫、鎖、艫、權ノ類、並使用方法、圖畫、雛形
				第九類	船材、船釘、金具、帆布、帆、蓆、滑車、索具等漁船船具ノ製作原料及標本		
				第十類	樹皮、澁液、單尼、越幾斯、多兒等漁具、漁船ノ塗		
從七位	金田 歸逸 鏑木余三男	從七位	金田 歸逸 和 田 健三 丹羽平太郎 中村利吉	從四位勳三等 正七位 理學博士	長谷川 貞雄 岸上 錄吉 中村 利吉	正五位勳六等 從六位 工學博士	三好 晋六郎 松原 新之助 金田 歸逸 江澤潤一郎
				從七位	丹羽平太郎	從七位	金田 歸逸 塚本 道遠
正八位	塚本 道遠						

業		第		二	
第十一類	羅針盤、船燈、望遠鏡、水眼鏡、寒暖計、晴雨計、測深具、探繩器、污水唧筒、信號器、轉轆、魚籃、潛水器、等漁業及漁船用器具、附屬具、並魚見櫓、網庫等ノ漁業用建設物ノ雛形	第十二類	漬柴、鰻倉等ノ魚類招聚ノ方法及釜、筒等ノ漁具、並其ノ裝置使用ノ方法、圖畫、雛形	第十三類	摺鉤具、鰻挾、其ノ他ノ雜漁具、並其ノ使用方 法、圖畫、雛形
				第十四類	延繩、手釣、竿釣、友釣、擬餌鉤、其ノ他ノ釣具、並其ノ使用方法、圖畫、雛形
				第十五類	漁業用 鵜 飼ノ方法、器具、圖畫、
從七位	伊藤 一隆 內村 達次郎 丹羽平太郎	從七位	丹羽平太郎 江澤潤一郎 鏑木余三男	從四位勳三等 從六位	長谷川 貞雄 松原 新之助 丹羽平太郎 江澤潤一郎
				從七位	金田 歸逸 伊藤 一隆 中村 利吉
				從四位勳三等	長谷川 貞雄

區		淡		水		漁	
第十六類 雛形		第十七類 網地、網絲、縲絲、網、釣鉤、釣竿、浮子、沈子、其ノ他 ノ漁具製作原料		第十八類 釣餌、撒餌等ノ各種餌料標本及使用ノ方法 並餌料容器生活物ハ第六部		第十九類 漁船、船具並其ノ使用方法、 圖畫、雛形	
從六位 松原新之助 丹羽平太郎 江澤潤一郎	從七位 金田歸逸 和田健三 丹羽平太郎 中村利吉	從四位勳三等 長谷川貞雄 岸上鎌吉 中村利吉	正七位理學博士 正五位勳六等工學博士 從六位 松原新之助 金田歸逸 江澤潤一郎	從七位 丹羽平太郎 金田歸逸	從七位 丹羽平太郎 金田歸逸		

業		法	
第二十一類 魚籠、漁臺、日覆、雨覆、排水器等ノ漁業及漁船 用器具附屬具並四ツ手網臺、網庫等漁業用 建築物ノ雛形		正八位 塚本道遠 江澤潤一郎	
從七位 伊藤一隆 內村達次郎 丹羽平太郎	從七位 丹羽平太郎 內村達次郎		

第二回水產博覽會審查報告 第一卷第二冊

目次

釣具類	一
釣鉤類	一
延繩類	六
手釣類	一〇
海獸獵	五
漁具原料	九
纖維料	九
網糸及網	九
網地	九
縉糸	一〇
釣鉤、釣竿	一一
浮子、沈子	一二
類聚品	一六
漁業用餌料	一七
漁船	三三

總論	一三三頁
網船	一三八頁
鯉船	一四五頁
打瀬船	一四九頁
網船	一五四頁
西洋形漁船	一五六頁
雜漁船	一五七頁
漁具漁船塗染料	一六九頁
樹皮	一六九頁
柿澱	一八〇頁
塗船料	一八二頁
漁業用建設物器具類	一八五頁
建設物	一八八頁
器具類	一九一頁
雜漁具	一九七頁

第二回水産博覽會審查報告

第一卷第二册

第一部 漁業

第一區第四類第六類及第二區第十五類第十七類

● 釣具類

釣具ニ關スル出品ハ前回ニ比シ著シキ改良進步ノ蹟ヲ見スト雖モ一般水産事業ノ漸進スルニ從ヒ漁具トシテ重要ノ位置ニアル釣具ノ如キモ大ニ世人ノ注意ヲ促スニ至レリ今回各府縣ヨリ出品セル釣具ヲ以テ之ヲ他ノ出品ニ比スレハ各府縣共比較的其數夥多ナリ是各地一般ニ此漁業ヲ營ムモノ多キノミナラス逐年著シク營業者ノ増加セシカ故ナリ斯ノ如キハ漁業發達ニ伴フ自然ノ趨勢ナリト雖モ抑モ亦此種漁業ハ他ノ漁業ニ比シ資力ヲ要セス漁業ノ組織簡單ナルヲ以テ細民ノ營ミ易キハ之カ増加ヲ來セシ自然ノ結果トス今回ノ出品ニ徵スルモ是等釣具ニハ最モ製作巧妙ノモノアルヲ見ル殊ニ釣鉤ニ錫鍍金ヲ施シ錆止ヲナセルモノ及ヒ天蠶糸ヲ利用スルモノ、如キハ年々著シク其數増加セリ又擬餌釣ノ類ニハ種々ノ考案ヲ施シタルモノ尠ナカラス元來釣漁ハ他ノ網漁業ト異リ概シテ其規模狭小ナリト雖モ遠海ニ出漁シ漁利ヲ收ムルニ至テハ網漁業ト其趣ヲ異ニセリ是ヲ以テ古來我邦ニテ遠洋漁業トモ稱スヘキモノハ皆釣漁ニアルノミナラス將來遠洋漁業ノ擴張スルニ從ヒ益々斯業ノ改良發達ヲ計ルヲ以テ最モ急務トス

釣具ノ出品ニ關スル審査報告書記載ノ便ヲ圖リ之ヲ大別シテ第一釣鉤類、第二延繩類、第三手釣類ノ三種トシ左ニ其概要ヲ述フ

第一 釣鉤類

此類ニ屬スルモノハ餌釣鉤、擬餌釣及懸釣ノ三種トナス而シテ餌釣鉤及懸釣ニ數種アリト雖モ其鉤ノ原料ハ主ニ鐵ヲ用

ヒ又タ性猛烈ナル魚類ヲ捕獲スルニハ網鐵ヲ用井テ之ヲ鍛鍊スルヲ常トス眞鍮及銅ハ腐蝕ノ虞少シト雖モ屈伸シ易クシテ且ツ尖銳ヲ失フコト速ナルヲ以テ多クハ小魚ヲ捕獲スル用ニ供スルノミ又タ銀製釣鈎ノ如キハ稀ニ之ヲ用ユルモノアルノミ而シテ鐵鈎ニ錫鍍金ヲ施シ腐蝕ヲ防クハ近年各地ニ於テ行ハル、所ニシテ最モ釣鈎ニ適シタル方法トス凡ソ釣鈎ニ鐵ヲ用ユルニ於テ注意ヲ要スヘキハ其燒方ニアリトス蓋シ生鐵製ノ鈎ハ屈伸ノ患アルヲ以テ比較的太キ原料ヲ用ヒサルヲ得ス而シテ鈎ノ太キモノニハ其餌料モ亦從テ大ナルモノヲ要スルノミナラズ爲メニ其鈎ヲシテ魚眼ニ觸レ易カラシメ漁撈上ニ防害ヲ與フルコトアリ故ニ燒キヲ入レテ其硬度ヲ増サシムルモノナレトモ其燒キ方過度ナルトキハ折レ易ク又タ不足ナレハ伸ヒ易キカ故ニ其程度ヲシテ宜シキニ適ハシメ磨礪シ外面ヲ滑ラカナラシムルヲ以テ製造上ノ要點トス之ヲ要スルニ釣鈎ノ製作ハ鍛鍊精巧ニシテ剛柔其度ヲ得セシメ漁撈ノ種類ニ應シ其形狀大小ヲ適宜ナラシムルニアリ擬鈎ハ鹹淡水共ニ之ヲ用フレトモ其製作緻密ナルモノハ却テ淡水用殊ニ游漁者ノ用ユルモノ多シトス然レトモ此等ノ多クハ一種ノ玩弄ニ屬スルモノニシテ重要視スルニ足ラス而シテ鹹水漁業ニ用ユル擬鈎ニハ柔魚、鯉、鱒、鱒、鱒、鱒、鱒等數種アリ其製作原料ハ概チ木材、牛角、鹿角、鯨骨、馬瓜、旗魚ノ嘴其他ノ金屬ヲ用井テ之ヲ製作スルモノニシテ其材料ノ選擇ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ殊ニ木材ノ如キハ其質粗惡ナレハ水ノ浸透シ易ク爲メニ浮沈其度ヲ得シテ擬鈎ノ効力ヲ失フニ至ルベシ角骨ノ類ニ至リテハ水中ニ於テ發スル色澤ノ如何ハ捕魚ニ多少ノ關係ヲ有スヘク彼ノ漁者カ鹿ノ落角ヲ嫌フ所以ノモノハ蓋シ生角ニ比シ水中ニ於テ光澤ヲ放ツコト惡シキカ故ナリ且ツ其形狀ノ如何ニヨリ浮沈ノ度ヲ得恰モ游泳ノ狀態ヲナサシムルハ最モ擬鈎ノ目的トスル所ナルヲ以テ其重心點ノ如キハ適度ヲ失ハサルヲ要ス又タ金屬類ニ至リテハ腐蝕酸化ノ患多キヲ以テ保存上相當ノ注意ヲ要スルハ勿論種類ニヨリテハ「ベンキ」等ヲ塗抹シテ之ヲ防クモ亦一考察ナリトス現今用ユル所ノ擬鈎ハ柔魚形、蝦形、蚊鈎等ノ數種アリト雖トモ應用ノ範圍甚タ狭ナル憾ミアリ歐米諸國ニ於テハ夙ニ此具ハ著シク發達シ巧妙精緻クヘキモノアリ我邦當業者モ常ニ魚類ノ餌料及ヒ習性ニ留意シ

種々ノ擬鈎ヲ案出シ實地ニ之ヲ適用スルニ至ラハ得ル所決シテ尠少ニアラサルヘシ然レトモ徒ニ奇異ヲ好ミ實用ニ適セサルモノヲ製スルカ如キハ豫メ之ヲ避ケサルヘカラス

高知縣廣瀬丹吉出品ニ係ル釣鈎各種ハ鍛鍊皆精巧ニシテ形狀宜シキヲ得最モ釣魚ニ適ス殊ニ錫鍍金ノ方法ハ從來攻究スル所ニシテヨク其効ヲ奏シ漁業者ノ需用漸ク増加セリ其効勞大ナリト云フヘシ左ニ同人鍍金法ノ概要ヲ記シ以テ參考ニ供ス

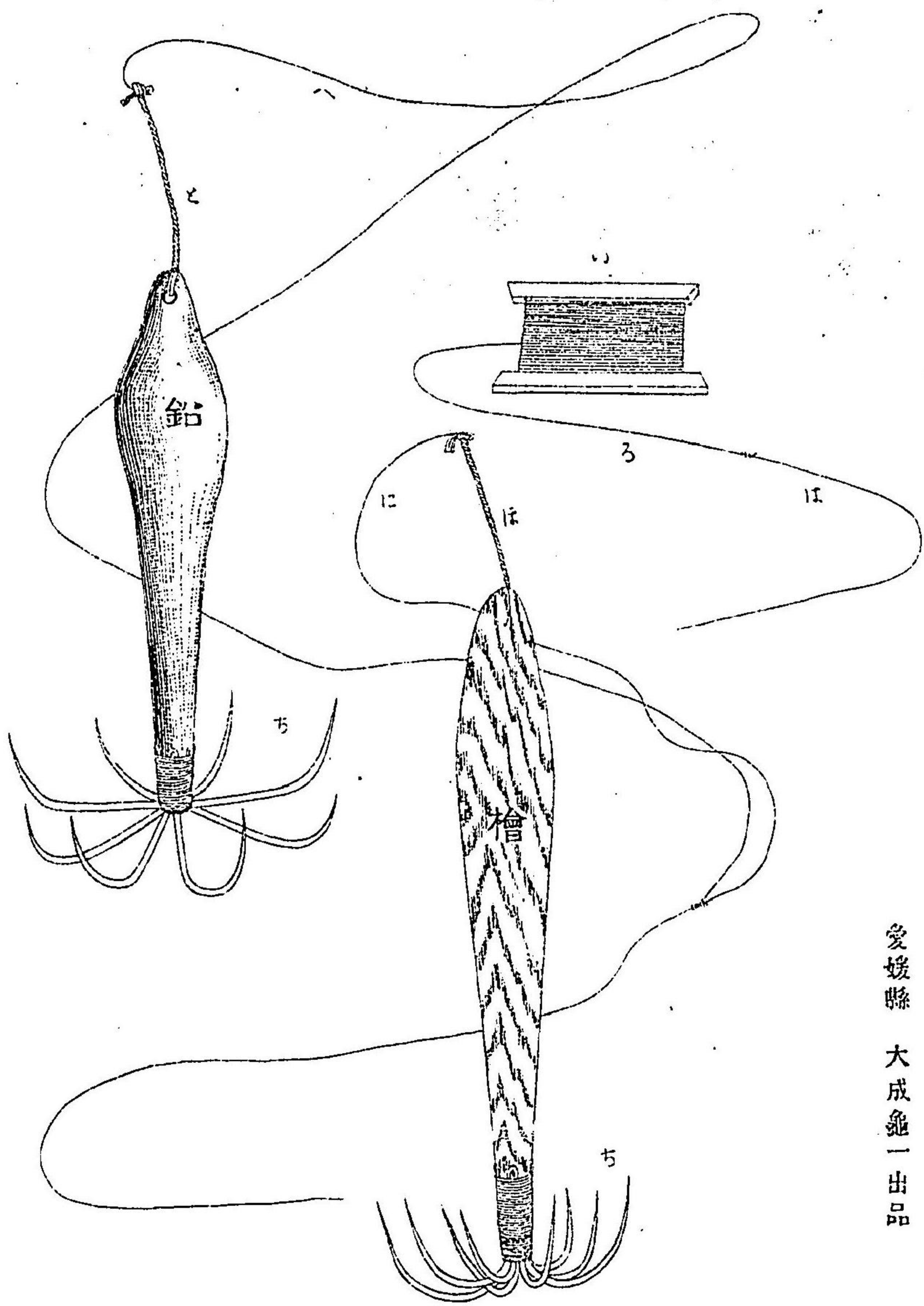
硫酸ニ水ヲ五十倍位ノ割合ニナシ之ヲ手水鉢様ノ器ニ入レ鐵鈎ヲ其内ニ漬ケルコト凡一時間位ニシテサ、ラ又ハ竹箸ニテ攪拌シ銀色ニナル迄テ磨キ上ケ後チ之ヲ取揚ケ清水ニテ能ク洗フヘシ而シテ錫ヲ小鉢様ノ陶器ニ入レ火ニ上ケ鎔解シタル時上面ノ汚物ヲ去リ晒シ松脂凡十匁許入レ然ル後清水ニテ洗フタル鈎ヲ布片ニ包ミ能ク水分ヲ拭ヒ去リ多クノ鈎ヲ一緒ニ錫ノ中ニ投シ凡ソ五分間位竹箸ニテ能ク攪拌スルナリ而シテ其鈎ニ錫ノ附着シタルトキ之ヲ取出シ塊リノ儘別器ニ移シ置クナリ之ヲ荒掛ト稱ス但シ荒掛ヲナストキハ炭火ヲ強クナシ錫ニ少シク黃色ヲ帶フルヲ常トス右ノ如ク荒掛ヲ終リタルトキハ鎔解セル錫ノ上面ニ浮ム松脂ヲ紙切様ノモノニテ取除ケ且錫ノ汚物ヲ去リ炭火ヲ弱ラシ更ニ松脂ヲ少シツ、投入シ而シテ前ノ塊リタル鈎ヲ再ヒ錫ノ中ニ入レ竹箸ニテ二三分間交セ別ニ陶器ニ移シ直ニサ、ラニテ攪拌スレハ鈎ハ一本ツ、分離スルナリ斯ク分離シタル鈎ヲ一本ツ、金鍍ニテ狹ミ錫ノ中ニ入レ更ニ付著セシメ之ヲ狹ミタル儘板ヘ輕ク打付ケ塊ヲ落スナリ但シ一本ツ、金鍍ニテ狹ミテ錫ヲ付著セシムルキハ鎔錫ノ加減ニ注意シ錫ノ沸テ后ハ陶器中ニテクル、廻ル位ヲ度トシ少許ツ、屢々松脂ヲ入レルヲ要ス但シ松脂ハ晒シタル品ヲ用フ

東京府上田長右衛門出品ノ鈎鈎各種ハ鍛鍊精巧ニシテ細大宜シキニ適シ夙ニ需用ノ多キヲ致ス平素斯業ニ勵精スルヲ見ルニ足ル其他兵庫縣吉本千代吉長崎縣滿山綴吉出品ノモノモ亦共ニ見ルヘキモノナリ

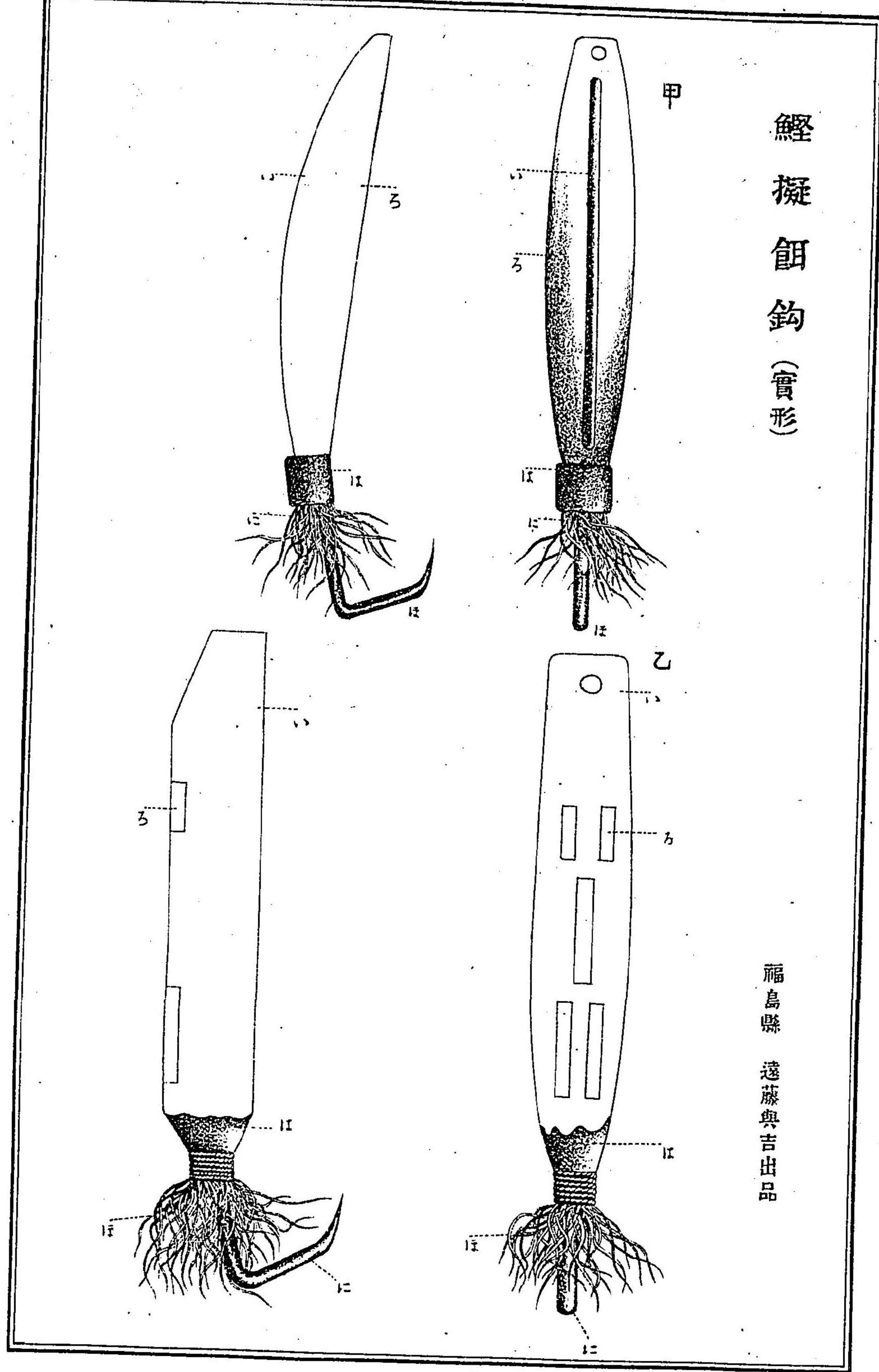
大分縣東本嘉八出品ノ鮪曳釣ハ海松ヲ以テ圓錐狀ニ製シ之ニ錫ヲ嵌入シ其基部ニ鈎ヲ付シ鈎元ニはうくノ皮ヲ附セリ
 是一種ノ考案ヲ加ヘタル構造法ニシテ最モ實用ニ適スルモノト認ム
 新潟縣伊藤庭太郎出品ノ柔魚釣具ハ「ソクグ」(底釣)「トンボ」(中釣)「ツノ」(上釣)ノ三種ニシテ改良ノ要點トシテ解説書
 記スル所ニ據レハ從前ハ「ツノ」先「トンボ」先「ヒキデー」餌巻糸ハ金引等ヲ用ヒタリシカ僅々三四ヶ月ニシテ使用ニ堪ヘ
 サルヲ以テ之ヲ針金及綿糸ニ改メタルニ依リ十ヶ月以上ノ保存力ヲ有ス又タ「ツノ」胴ハ眞鍮製ナリシヲ本年ニ至リ白銅
 ニ改造セシニ能ク光輝ヲ發シ雜魚ニ擬スルノ効力アリ又タ鐵「トンボ」ハ其形狀從來ニ異ナル所ナキモ其量目ヲ減シタル
 ヲ以テ操縦自在ニシテ努力ヲ省クノ利アリ此モノハ年ヲ經ルニ從ヒ錯ヲ生スルヲ以テ却テ可ナリトス鉛「トンボ」ニ至リ
 テハ毫モ從前ノモノニ異ナルコトナシト云ヘリ是等ノ出品ニハ尙ホ精粗ノ差アリト雖モ概シテ構造精巧ニシテ最モ實用
 ニ適ス平素力ヲ漁具ノ改良ニ竭シ孜孜トシテ携マサルハ頗ル嘉賞スルニ足ル
 愛媛縣大成龜一出品ノ柔魚釣(第七十五版)ニハ鉛製、木製ノ二種アリ從前ハ鉛製ノモノ、ミナリシカ十四五年以來別ニ
 木製ノモノヲ作り之ヲ鉛製ノモノニ添ヘテ使用スルニ至レリト云フ使用季節ハ五月ヨリ七月迄ノ間ニシテ漁船一隻ニ二
 人乗組ミ出漁シ晝間ハ海底ヲ距ルニ尋許リノ所ニ於テ日没後ハ水深七八尋ノ所ニテ海底ニ接スル迄縋糸ヲ伸縮シ手操
 リツ、使用スルナリ其用法構造共ニ可ナリ
 圖解 糸巻ヲ除キ他ハ實形

- (イ) 糸巻十分ノ一圖
- (ロ) 麻糸澁染四子左撚リ長十七尋
- (ハ) 天蠶糸一條長七尺九寸
- (ニ) 天蠶糸長三寸

柔魚釣



愛媛縣 大成龜一出品



經擬餌鈎(實形)

福島縣 遠藤與吉出品

(陸)綿糸長七分

(へ)天蠶糸長九寸

(と)綿糸長一寸

(ち)真鍮製鈎

福島縣遠藤與吉出品ノ鯉擬餌鈎ハ從來牛角ヲ以テ製シ鯉皮ヲ附セシカ近年改良シテ第七十六版ノ如ク鯨骨ニ鮑殻ヲ嵌入シ鈎元ニ鱗鱗ノ金糸、銀糸ヲ附シタルモノヲ用ヒ大ニ漁獲ヲ増加セリト云フ其鈎元ニ鱗鱗ヲ用フルハ一種ノ考案ニシテ利用宜シキヲ得タリ

圖解

甲圖

(い)鮑貝殼

(ろ)鯨骨

(は)鉛

(に)鱗鱗金糸

(は)真鍮

乙圖

(い)鯨骨

(ろ)鮑貝殼

(は)鉛

(に) 眞鍮
(は) 鱧ノ金糸銀糸

第二 延繩類

此種類ハ釣具中規模ノ大ナルモノニシテ其使用法ハ浮繩底繩ノ二様ニ區別スヘシ概テ皆餌料ヲ用ユルト雖トモからつり(空釣)ト稱スル一種ノ延繩ニハ餌料ヲ用ヰス故ニ此名アリ凡延繩ノ構造ハ幹繩ト稱スル横繩ハ長ク且堅牢ニシテ之ニ一定ノ距離ヲ以テ稍細キ堅網即チ枝繩ヲ繫キ其一端ニ鈎ヲ附スルモノニシテ細太長短ノ差アリ而シテ幹繩及枝繩ハ澁染セルモノト否ラサルモノトアリ此モノハ從來皆麻ヲ用ヒ銳齒ヲ有スル魚ヲ漁スルニハ鈎元ヲ針金ニテ巻キ或ハ竹管ヲ付シテ其嚙斷ヲ防ク手段ヲ施セリ今回出品中ニハ腐敗擦傷ノ患ヲ減センカ爲メ幹繩及枝繩ニ綿糸ヲ用ユルモノアリ是レ亦一種ノ好案ト云フヘシ凡延繩ハ其種類ニヨリ細太アリト雖トモ細クシテ強力アルヲ主トス故ニ原料タル麻綿糸等ハ最モ善良ノモノヲ撰ハサルヘカラス次ニ注意スヘキハ其撚リ方ニシテ殊ニ數條ヲ合スルモノニ於テハ下撚緩ニシテ上撚急ナルハ最モ忌ム所ニシテ之ニ反スルヲ良トス又幹繩ト枝繩ノ撚リ方ヲ反對ニシ其纏絡ヲ防クカ如キモ必要ノ事柄トス其撚方ノ如キモ適度ヲ得サレハ速ニ腐敗ヲ來スノ患アリトス

延繩ニ用ユル鈎ハ概テ尖端ノ下ニ突起セル稜角「わぐ」ヲ有スト雖トモ或ハ之レナキモノアリ例ヘハ或地方ノあなご繩ノ如キ是ナリ此繩ニ用ユル鈎ハ細キ眞鍮ノ針金ヲ用フルハあなごハ深ク鈎ヲ吞下スカ故ニ捕獲スルニ當リ「わぐ」ナキ眞鍮製ノモノハ鈎ノ伸ヒ易キカ爲メニ之ヲ引出スニ容易ナルノミナラス再三曲ケテ使用スルノ便アリトス又タ延繩ハ概テ永ク海中ニ放置スルヲ以テ鈎ハ多ク「ヒネリ」ヲ有スルモノヲ用フ是魚ノ脱逸ヲ防カンカ爲ナリ

以上述ルカ如ク延繩ノ使用法ニハ種々ノ關係ヲ有スルヲ以テ彼此考案シ其原料及ヒ形狀ヲ選擇スルニ留意スベキナリ而シテ此漁業ニシテ規模ノ大ナルモノハ鱧、鱧、鯛等ニシテ是等出品モ亦見ルヘキモノ少ナカラス

千葉縣青木國治出品ノ銷繩ハ遠キハ銚子沖合凡ソ三四拾里ノ海面ニ於テ使用スルモノニシテ最モ冒險的漁業ノ一トシテ有名ノモノタリ其一鉢ノ幹繩長サ二百四十尋ニシテ從前ハ之二十四五本ノ枝繩ヲ附セシカ近年ハ減シテ九本トナシ幹繩ト枝繩トノ間ニ足シ繩(方言アラクリ)ヲ付ケ總テ繩ノ太サヲ増シ強固ニ製スルヲ以テ改良ノ要點トス而シテ其枝繩ノ數ヲ減シタルハ潮流ノタメ枝繩ノ互ニ纏絡スルノ患ヲ除キ又タ足シ繩ヲ入レタルハ潮流ノ模様又ハ時期ニヨリ繩ノ浮沈ヲ圖リ又ハ枝繩ノ取換ニ便スルカ爲メナリ

大分縣仲家太郎吉出品ノヤシ鱧繩ハ七百乃至八百ノ麻ヲ以テ百二十尋ノ幹繩ヲ製シ二十二尋ノ巨離ニ枝繩ヲ附ス枝繩ハ長六尋ニシテ其先キ一尋ヲ綿絲ニテセキ卷ニナシ其先端ニ長三尺許ノ眞鍮鎖ヲ附ケ鈎ヲ裝セリ大ムカ繩モ亦其構造概テやれふか繩ニ同シ唯眞鍮鎖ノ長サ一尋半ニナスヲ異ル點トス其他バカ鱧繩ノ出品アリ各種共ニ製作精巧ニシテ裝置亦宜キニ適ヘリ

北海道徳田鹿藏出品ノ鱧延繩ハ幹ノ長サ七十五尋ニシテ之ニ長サ三尺五寸ノ枝繩四十八本ヲ附ス其幹繩ノ兩端ニ浮子(長七寸徑一寸)及沈石(三十目位)ヲ附シテ用ユ該漁業ハ明治十五年ノ創業ニ係リ爾來未タ著シキ改良進步ノ蹟ヲ見スト雖モ將來是等ノ漁具益々増加スルニ從ヒ其構造法ノ如キモ一層改善ヲ加ヘサルヘカラス

愛媛縣渡邊竹治出品ノ鯛延繩ハ幹繩三百六十尋ニシテ四丈一尺毎ニ長サ一丈二尺ノ枝繩ヲ附シ全体綿絲ヲ以テ製作セリ鈎ハ五平形ニ曲ケ錫鍍金ヲ施セリ繩ノ保存法ハ最初十五日間ハ染メズシテ用ヒ其後ハ十五日毎ニ椎皮ニテ染メ最終ニ能ク染メテ之ヲ貯藏スト云ヘリ繩ノ構造稍可ナリ同縣森松九十郎出品ノ延繩ハ幹繩四百尋ニシテ十二尋毎ニ長四尋ノ枝繩ヲ附シ繩ハ麻製ニシテ橙皮ノ煎汁ニテ染メ鈎ニハ錫鍍金ヲ施セリ又々之ヲ使用スルニハ幹繩四十八尋毎ニ百乃至手石ヲ附ス是亦構造佳良ナリ

神奈川縣小村徳右衛門出品ノ鯉延繩(第七十七版)ハ慶應年間ノ開始ニ係リ爾來繼續使用セリ此繩ハ一種ノ浮延繩ニシテ

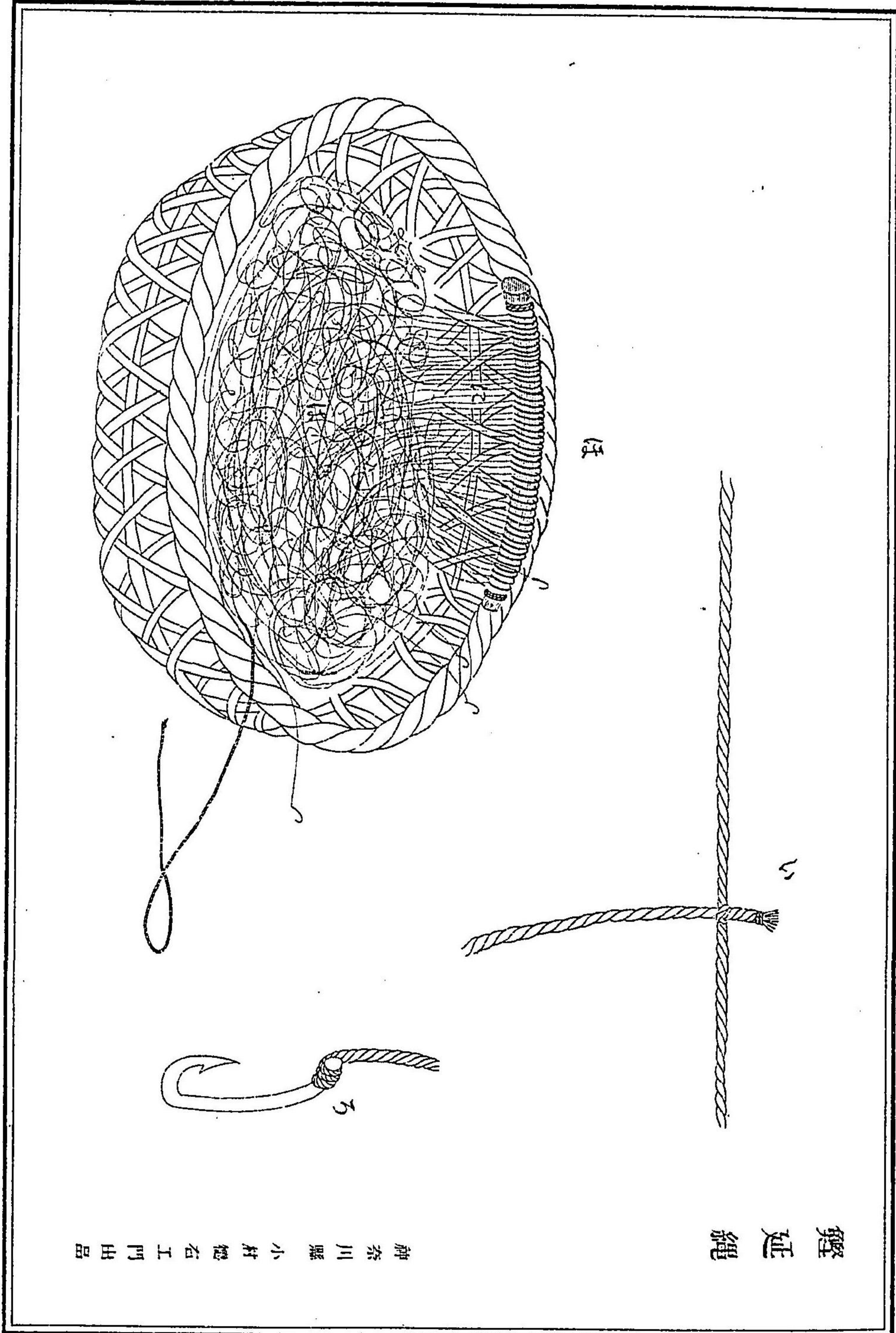
海面下凡ソ二十二尋ノ中層ニ配置シ船ハ繩ト共ニ潮流ニ從ヒ之ヲ流シ延ヘニナス而シテ繩ニハ一鉢毎ニ桐ノ浮標ヲ付シ
毎浮標毎ニ女竹長サ三尋許リノモノヲ附シ以テ鯉ノ鈎ニ懸リ繩ヲ引ケハ其竹ノ沈降スルニ依リ一哩以内ニ於テ之ヲ認ム
ルヲ得ルナリ全体ノ構造良好ニシテ最モ此魚ノ鈎獲ニ適ス

圖解

- (イ) 幹繩及枝繩ノ一部實形
 - (ロ) 鈎眞鍮製實形
 - (ハ) 幹繩麻ニ子右撚徑三厘長二百尋
 - (ニ) 枝繩麻ニ子右撚徑二厘長一尋ニシテ其距離五尋
 - (ホ) 鉢五分ノ一圖
- 京都府村岡久助出品ノ浮延繩(第七十八版)ハ黑鯛、鯉等ヲ漁スルモノニシテ漁期ハ舊二月ヨリ八月ニ至ル而シテ之ヲ使用
スルニハ先ツ潮流ヲ斜ニ受ケ之ヲ延ヘ入ル、ナリ四鉢ヲ以テ一延トナス延ヘ終レハ始メノ浮子ヨリ引揚クルナリ繩ノ構
造ハ一鉢ノ幹繩ニ四尋ト八尋トノ交互ノ距離ヲ以テ枝繩六十條ヲ附シ之ニ浮子繩三十條及釣糸ト稱スル麻ニ子徑五厘長
二十尋ノ麻糸ヲ幹繩ノ兩端及中央ノ三個所ニ附シ之ニ重量二百目許リノ碇ヲ附ス大浮子ト稱スルハ幹繩ノ兩端ニ附スル
モノニシテ他ノ浮子ヨリハ八九倍大ナルモノヲ用ユ繩ハ悉ク柿澁染ニシテ餌料ハ悉ク用ユ其製作形狀共ニ稍、可ナリ

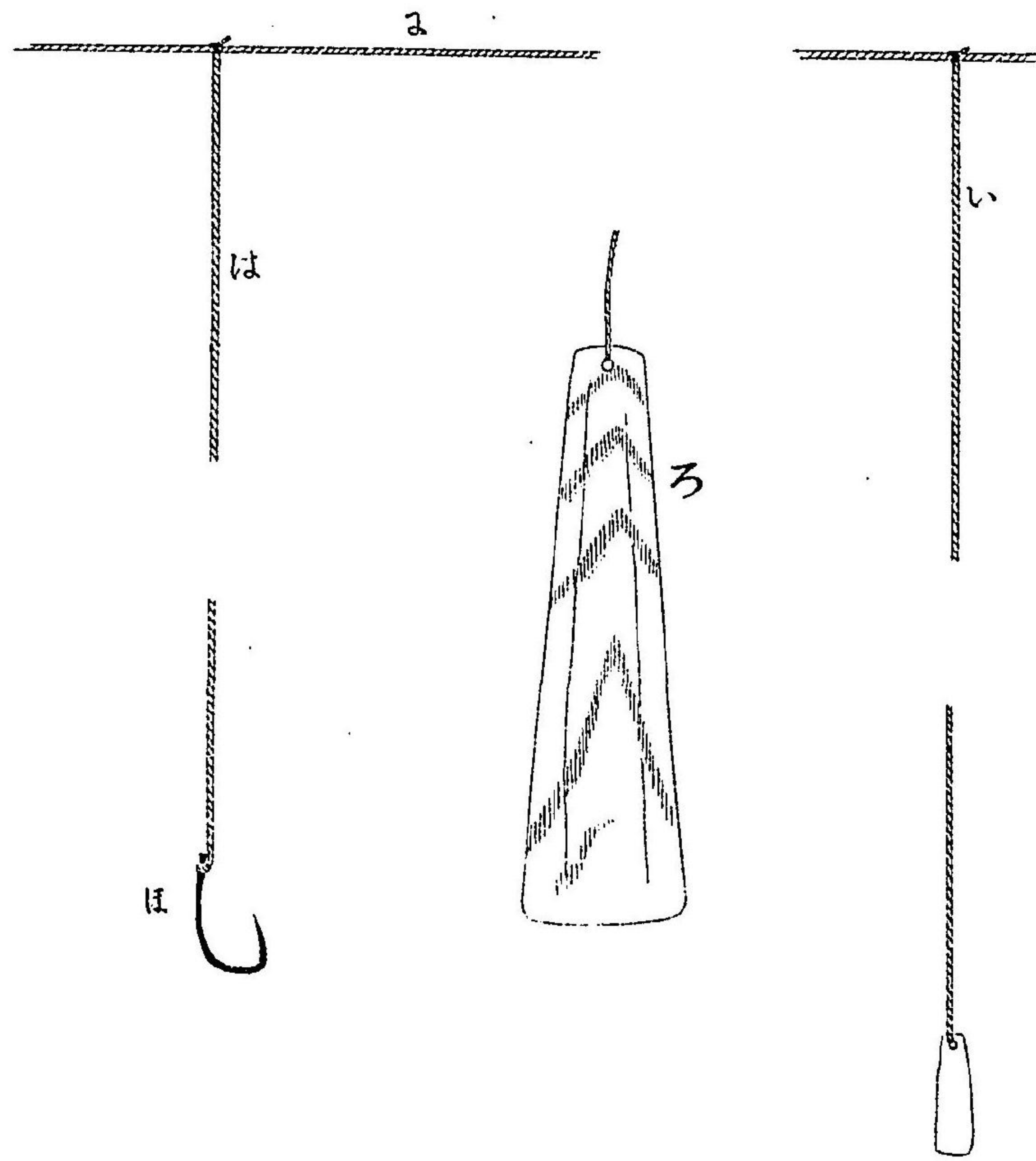
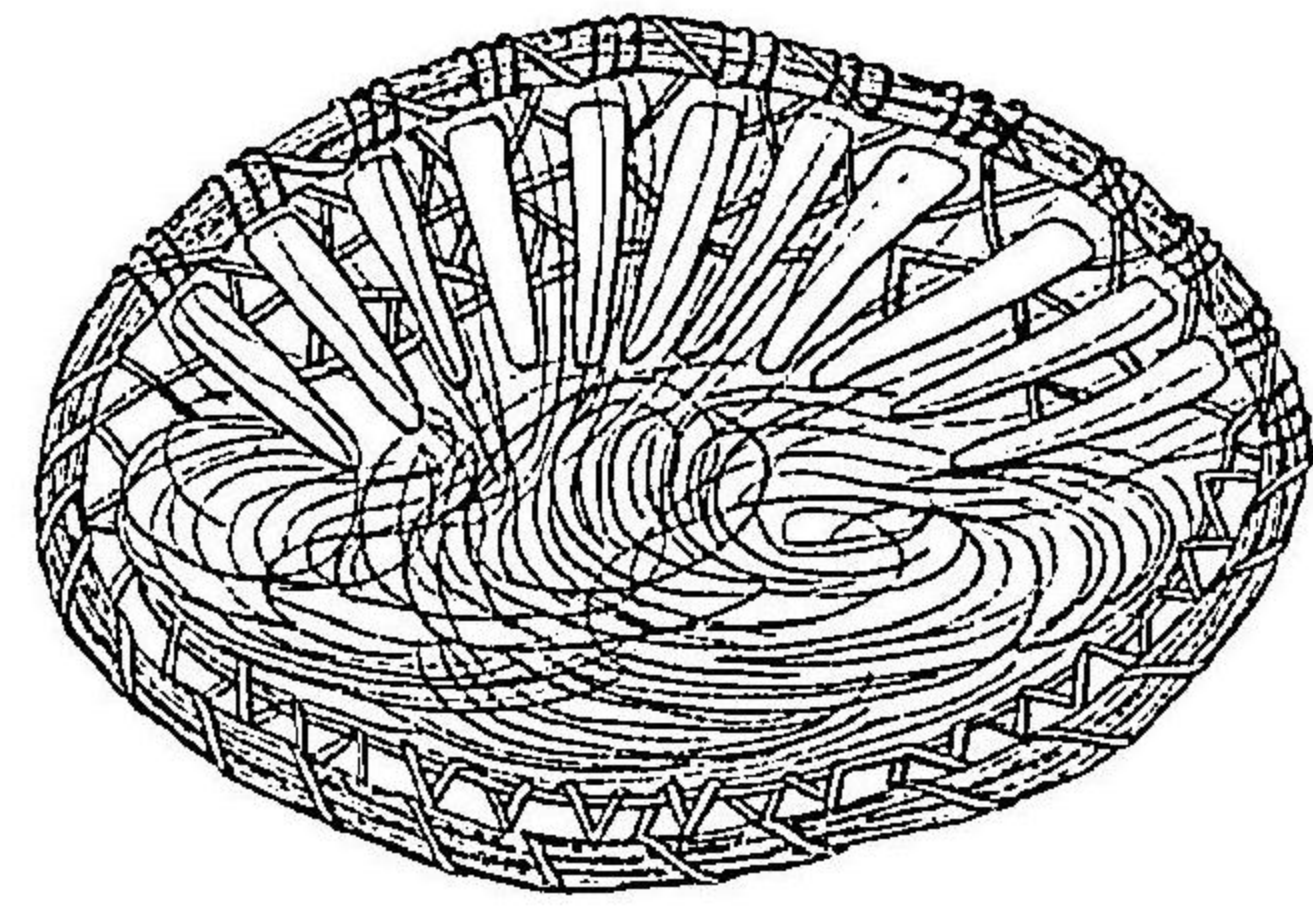
圖解

- (イ) 浮子繩麻ニ子右撚徑二厘強長四尺三寸
- (ロ) 浮子桐(二分ノ一圖)
- (ハ) 枝繩麻ニ子右撚徑二厘弱長四尺五寸

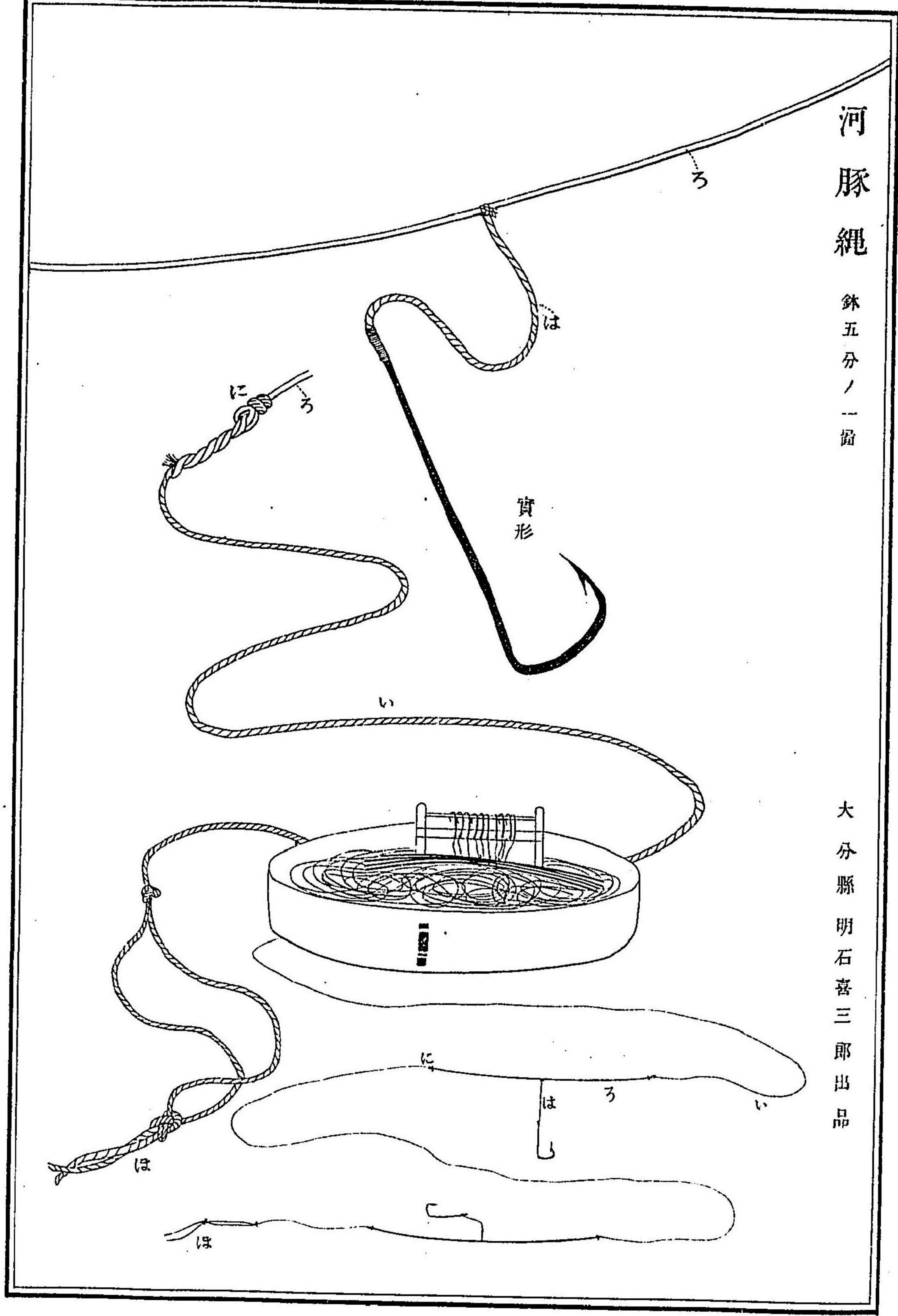


浮延縄

全形十分ノ一



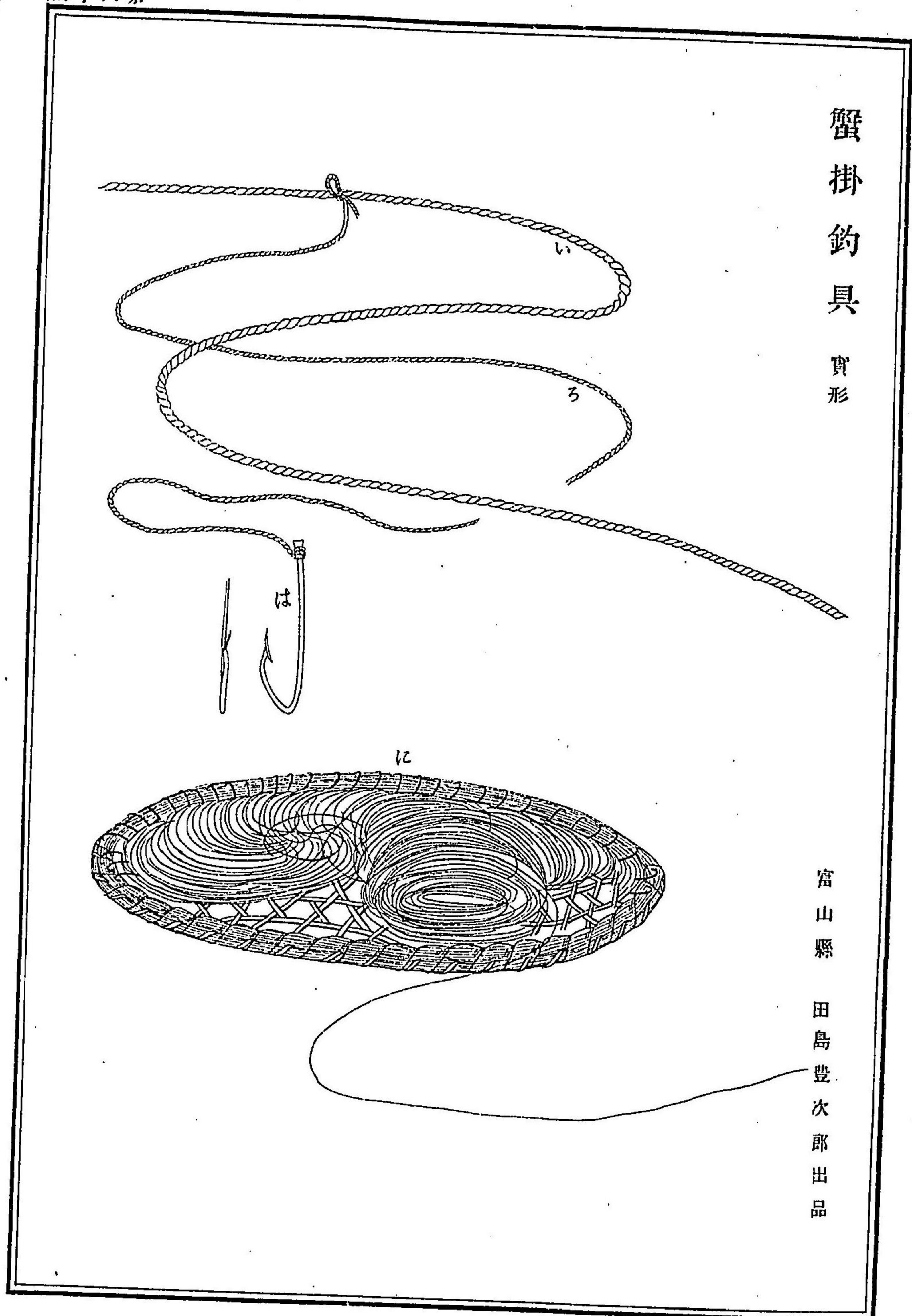
京都府 村岡久助出品



河豚縄

鉢五分ノ一箇

大分縣明石喜三郎出品



蟹掛釣具 實形

富山縣 田島豊次郎出品

(12) 幹繩麻二子右撚徑二厘強長三百五十尋

(13) 鈎實形鐵錫鍍金

大分縣明石喜三郎出品ノ河豚繩(第七十九版)ハ長サ五百尋ノ幹繩ヲ五十分ニ分割切斷シ豫メ製セル眞鍮線長サ一尺四五寸ノモノニ之ヲ連接シ各其眞鍮線ノ中央ニ技糸ヲ附ス是レ普通ノ延繩ニ異ル所ニシテ眞鍮線ヲ附クルハ河豚ノ嚙斷ノ患ヲ防クカ爲メナリ此具ノ使用季節ハ冬春ノ二期ニシテ漁船一隻ニ漁夫二名乘組ミ一人ハ櫓ヲ漕キ他ノ一人ハ舳ノ間ニ座シ餌ヲ付ケナカラ繩ヲ延ヘ延ヘ終レハ浮樽ヲ投シ直チニ元浮樽ヨリ繰リ揚クルナリ餌料ハ飯ノ切肉ヲ以テ最モ良トス鈎ハ錫鍍金ヲ施セリ形狀製作共ニ良好ナリ

圖解

(14) 幹繩麻二子右撚徑三厘

(15) 眞鍮線徑三厘長一尺四寸

(16) 枝繩麻二子徑三厘長七寸

(17) 幹繩ト眞鍮線ト連接セシ所

(18) 幹繩ノ一端

富山縣田島豐次郎出品ノ蟹掛鈎(第八十版)其構造底延繩ニシテ餌料ニ生鰻ヲ用ヰ以テ蟹ヲ漁獲スルモノナリ蟹ヲ漁スルニ延繩ヲ使用スルハ他ノ地方ニ於テ多ク見サル所ニシテ一種ノ漁法ト云フヘシ鈎形最モ細小ニシテ鍍金ヲ施セリ構造可ナリ

圖解

(19) 麻二子右撚徑五厘長四十七尋

(20) 麻二子右撚徑二厘長三尺九寸五分

(は) 鐵鈎亞鉛鍍金

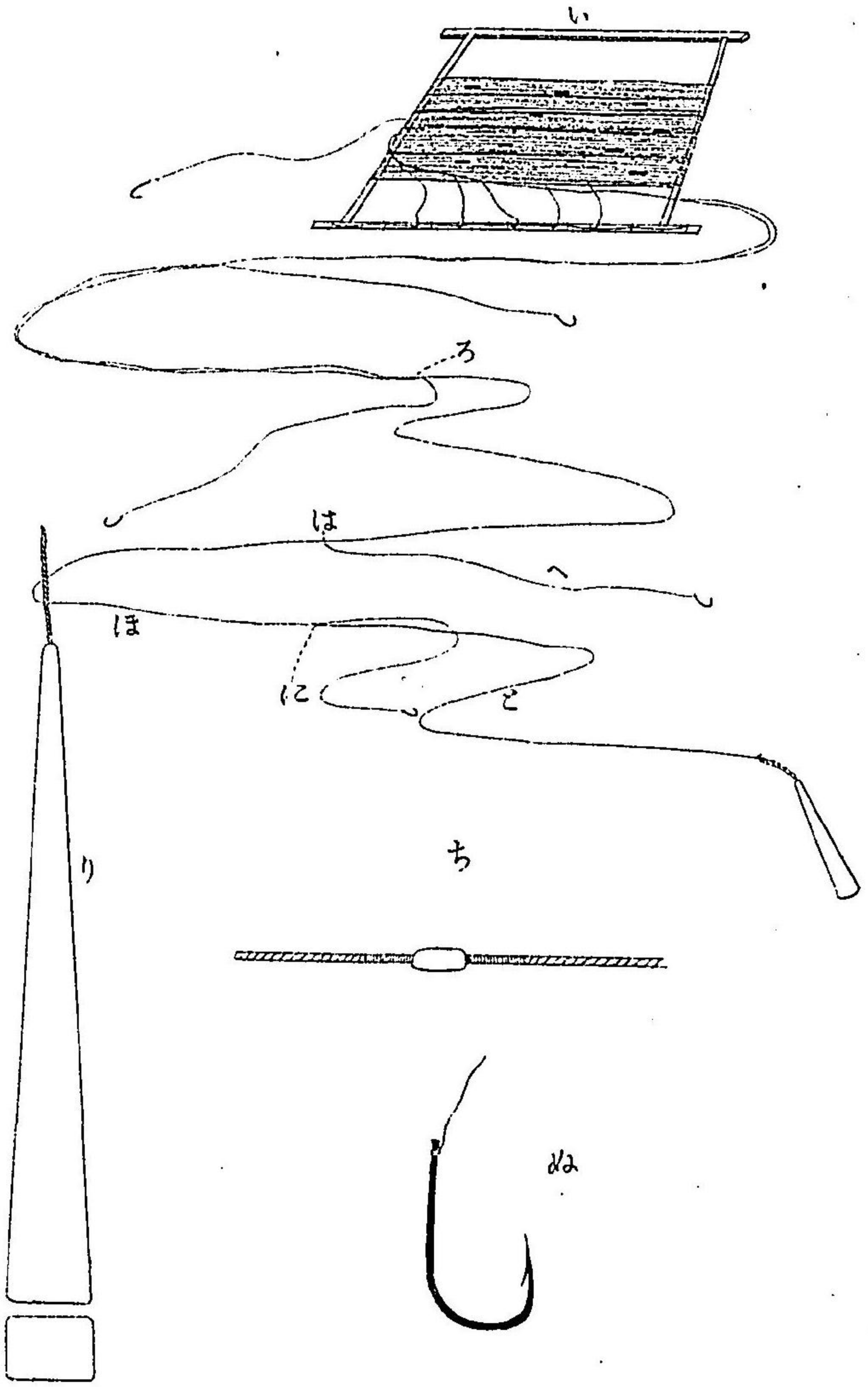
(に) 鉢四分の一圖

第三 手釣類

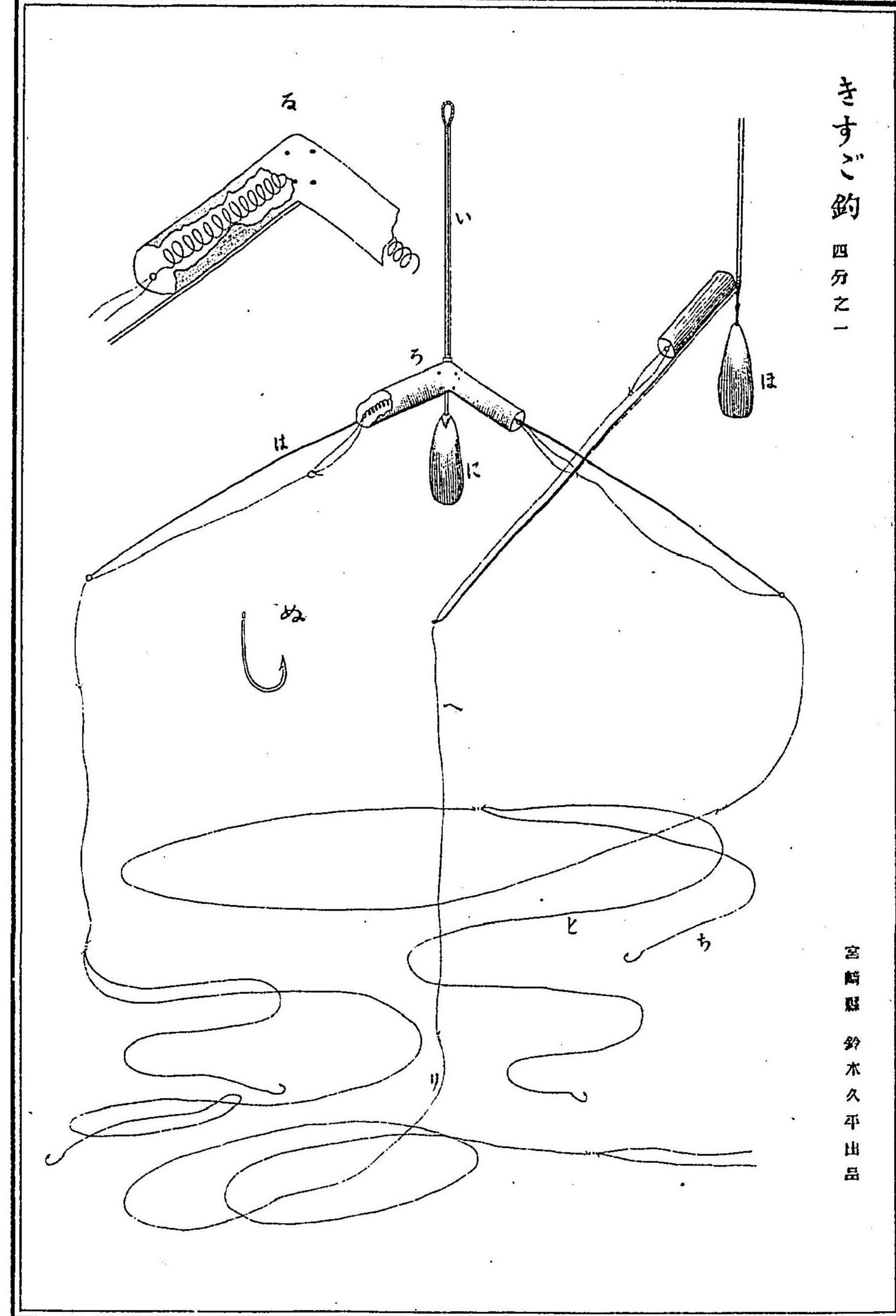
此類ノ釣具ハ竿ヲ用ユルト否ラナルトアリ故ニ之ヲ竿釣及一本釣ノ二様ニ區別シ其概要ヲ述フヘシ竿釣ニ於テハ鯉釣一本釣ニ於テハ鯛釣等主ナル種類ナレトモ其他各種ノ魚類ニ使用シ從テ種類亦最モ多シトス此類ノ漁具ハ縲絲ヲシテ魚眼ニ觸レサラシメンカ爲メ概テ其鈎元少許ノ間ニハ天蠶糸ヲ用井稀ニハ總テ天蠶絲ノミヲ使用スルモノアリ而シテ天蠶絲ハ透明一定ニシテ圓且ツ長ク彈力ニ富ムモノヲ以テ佳品トスレトモ凡百ノ釣具ニ斯ル佳品ノミヲ用井ント欲スルモ經濟上許ササルヲ以テ多クハ粗雜ノ品ヲ使用セリ然レトモ魚類ノ習性漁場ノ如何ニヨリテ宜シク良品ヲ撰用スルヲ要ス例ハササキ或ハクズバノ如キハ其視覺最モ銳敏ナルヲ以テ之ニ用フル天蠶糸ハ善良ノモノヲ撰ムカ如シ又タ潮水ノ濁濁ナル場所或ハ深海魚ニハ敢テ透明ノモノヲ要セスト雖モ彈力ノ強キヲ撰用スルノ必要アリトス海水ノ清濁ニ應シ適宜天蠶絲ニ著色シテ用フルモノアリ如斯ハ一種ノ考案ト云フヘシ鈎類ハ魚類ノ習性漁業ノ種類ニヨリ其形狀ヲ異ニセサルヘカラサルハ論ヲ俟タスト雖モ殊ニ手釣類ニ於テ然リトス例ヘハ性質強健ニシテ之ヲ釣獲スルニ時間ヲ要スル魚類ニアリテハ多クハ鈎ノ「わぐ」ヲ大ニシ且鈎角ノ銳ナルモノヲ撰フト雖モ一時ニ多數ヲ捕獲スルタメ操縱頻繁ナル鯉釣ノ如キハ取外シニ便スル爲メ「わぐ」ヲ小ニシ或ハ全ク之ヲ附セサルカ如キ其他ノち鈎ニハ多クハ鈎角ノ鈍ナルモノヲ使用スルカ如キ是ナリ縲糸及釣竿製造ニ於テモ亦其原料ヲ撰用スル必要アルハ猶天蠶絲ニ於ケルカ如シ例セハむつノ如キ深海魚ヲ漁スル縲糸ハ極メテ長キヲ用井加フルニ潮水ノ抵抗ヲ減センカメ極メテ細キモノヲ用ユルカ如シ又竿釣ニハ其竿ノ細クシテ曲撓自在且ツ彈力ニ富ムモノヲ必要トスルカ如シ

以上ハ單ニ其一例ヲ舉クルニ過キスト雖モ漁場ノ狀況魚類ノ習性及ヒ漁業ノ種類等ニ應シ取捨宜シキヲ得ルヲ要ス

鯖釣



兵庫縣福良漁業組合出品



きすご釣 四分之一

宮崎縣 鈴木久平出品

兵庫縣福良漁業組合出品ノ罾釣ハ明治二十七年天羽龜吉ナル者ノ發明ニ係リ其考案構造共ニ稍可ナリ縋絲ハ長十九尋ニシテ先端(徑二厘弱)ヨリ手元(麻二子ノ左撚徑三厘)ニ至ルニ從ヒ漸次太サヲ増ス鈎ハ九本ニシテ其距離七尺毎ニ之ヲ付ク而シテ天蠶絲ノ續キ目ヨリ以上ハ三寸距離ニ第八十一版チニ示ス所ノ錘ヲ付ク其數百個トス餌料ハいかなゴノ活餌ヲ用ヒ水深十尋乃至三十尋ノ場所ニ於テ五月上旬ヨリ凡五十日間使用ス左ニ圖解ヲ示ス

圖解

- (イ) 全形十分ノ一圖
- (ろ) ヨリ上部天蠶絲二條
- (は) (はトにノ間) 長七尺
- (へ) 天蠶絲長二尺
- (と) 同 長七尺
- (ち) 鉛錘實形
- (り) 錘鉛製重量八十匁二分ノ一圖
- (ぬ) 鈎鍍金實形

宮崎縣鈴木久平出品ノミチヅク釣(第八十二版)ハ天秤形ノ筒中ニ針金ノ螺旋ヲ裝置シ之ニ縋絲ヲ繫キ縋絲ノ伸縮ニ便シ以テ懸リタル魚ノ逃避ヲ防クモノニシテ之ヲ使用スルニハ一人乘漁船ニシテ左手ニ櫓ヲ漕キ右手ニ縋絲ヲ持チ漕釣ニナス而シテ錘ハ海ノ深淺ニ依リ其重量ヲ異ニシ五尋乃至十尋迄ハ五十匁位十尋乃至二十五尋迄ニハ百匁内外ノモノヲ用非テ使用スルナリ考案構造共ニ可ナリ

圖解

- (イ) 真鍮製長五寸三分
- (ロ) 排水孔
- (ハ) 徑四厘長八寸五分
- (ニ) 鉛製重量四十八匁
- (ヒ) 鉛製重量四十三匁
- (ヘ) 澁染麻絲長一尺六寸
- (ト) 天蠶絲長一尺四寸五分
- (チ) 天蠶絲長八寸五分
- (リ) 同上長二尺六分
- (ニ) 鐵製實形
- (ル) 針金ノ螺旋形二分ノ一圖

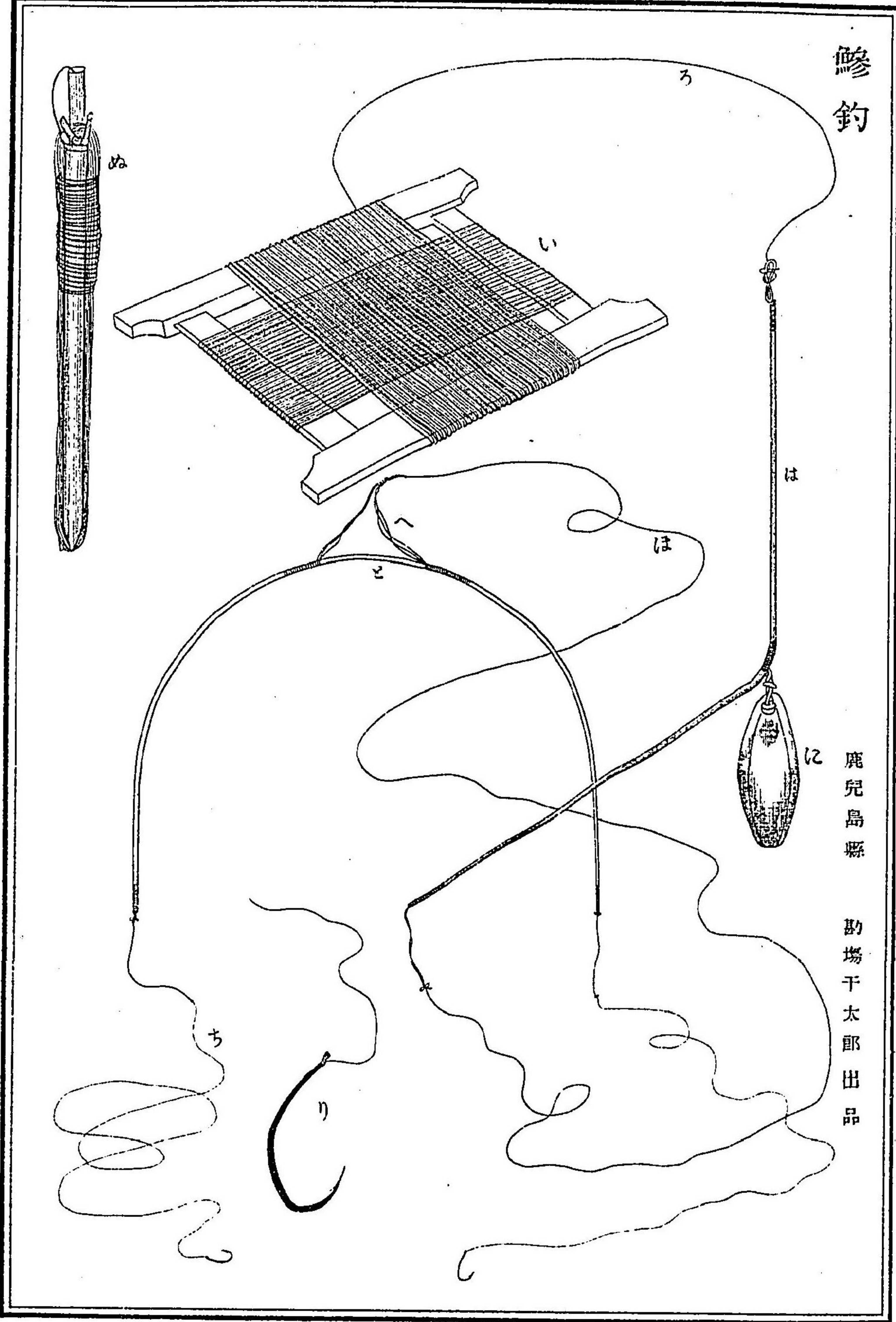
鹿兒島縣勘場千太郎出品ノ鯨釣具(第八十三版)ハ片天秤ノ下ニ更ニ兩天秤ヲ附タルモノニシテ稍々複雑ナル觀アリト雖
 凡漁船一艘ニ七八人乗組ミ一人一具ヲ使用ス水深ノ如何ニヨリ十七尋乃至三十五尋ノ縋絲ヲ延シテ釣獲ス餌料ハ多クハ
 鯖ノ切肉ヲ用ユ製作形狀共ニ稍々可ナリ

圖解

(イ) 絲卷機製四分ノ一圖

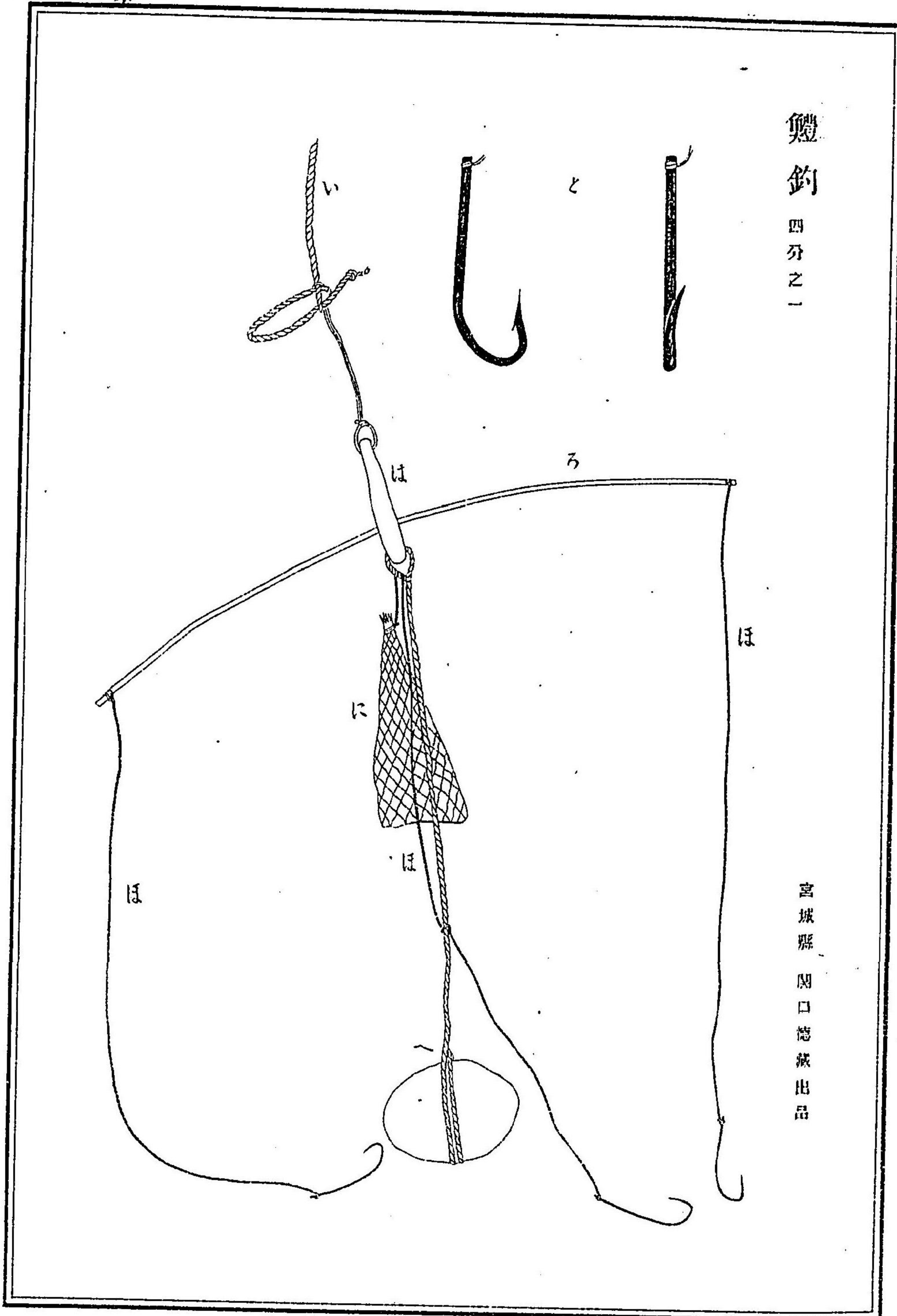
(ル) 麻二子ノ二子右捻リ徑三厘長三十七尋澁染

(ハ) 鯨鬚製三分ノ一圖



鯨釣

鹿兒島縣 勘場千太郎出品



鯿釣 四分之一

宮城縣 関口 樽藏 出品

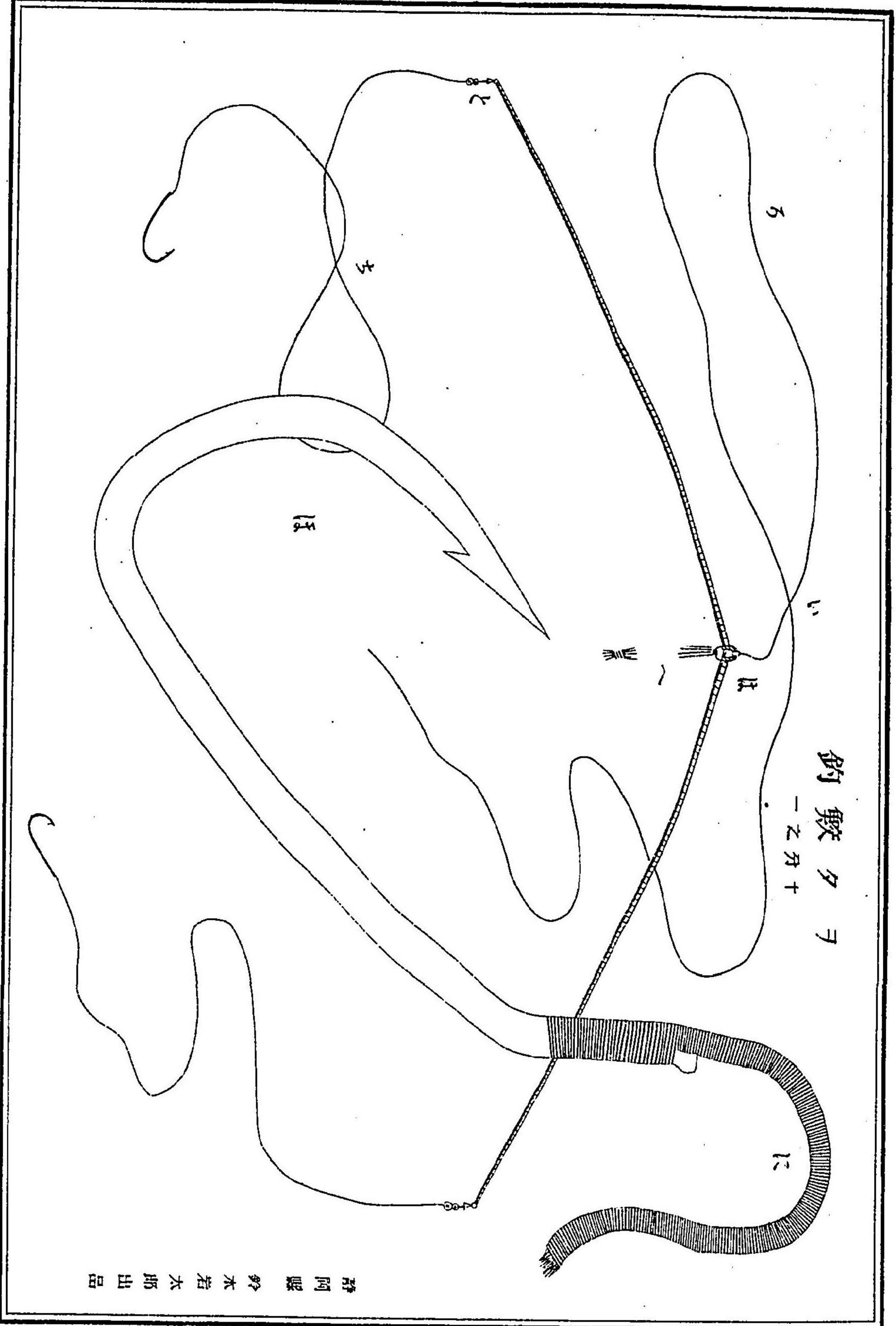
- (に) 錘重量六十五匁三分ノ一圓
 - (は) 天蠶絲一條長三尺五寸徑二厘弱
 - (へ) 同 三條
 - (と) 真鍮製徑四厘
 - (ち) 天蠶絲一條長五尺五寸五分徑一厘弱
 - (り) 鈎鐵實形
 - (ぬ) 竹製鈎刺シ絲卷(鈎ヲ刺シ天蠶絲ヲ卷キ置クナリ)
- 宮城縣關口德藏出品ノ鰹釣ハ餌袋付天秤形ニシテ從來該地方ニ使用セシモノト伊豆國ニ行ハルモノトヲ折衷シ明治二十五年創製セリト云フ其餌袋ヲ附シテ魚ヲ誘集スルト從前ノ竹製天秤ヲ針金ニ改メタルトハ改良ノ點トス漁期ハ舊七月上旬ヨリ十二月中旬迄ニシテ餌料ハ鱈、柔魚、鯖等ヲ用フ而シテ之ヲ使用スルニハ舢舨ニ碇ヲ下シテ船ヲ止メ後鈎ヲ下スナリ
- 圖解
- (い) 手繩麻二子右撚徑六厘長八十尋乃至百尋
 - (ろ) 天秤鐵製
 - (は) 桐材
 - (に) 餌袋六分目
 - (ほ) 麻二子左撚徑四厘
 - (へ) 錘石重量五匁

(ト) 鈎鐵製實形

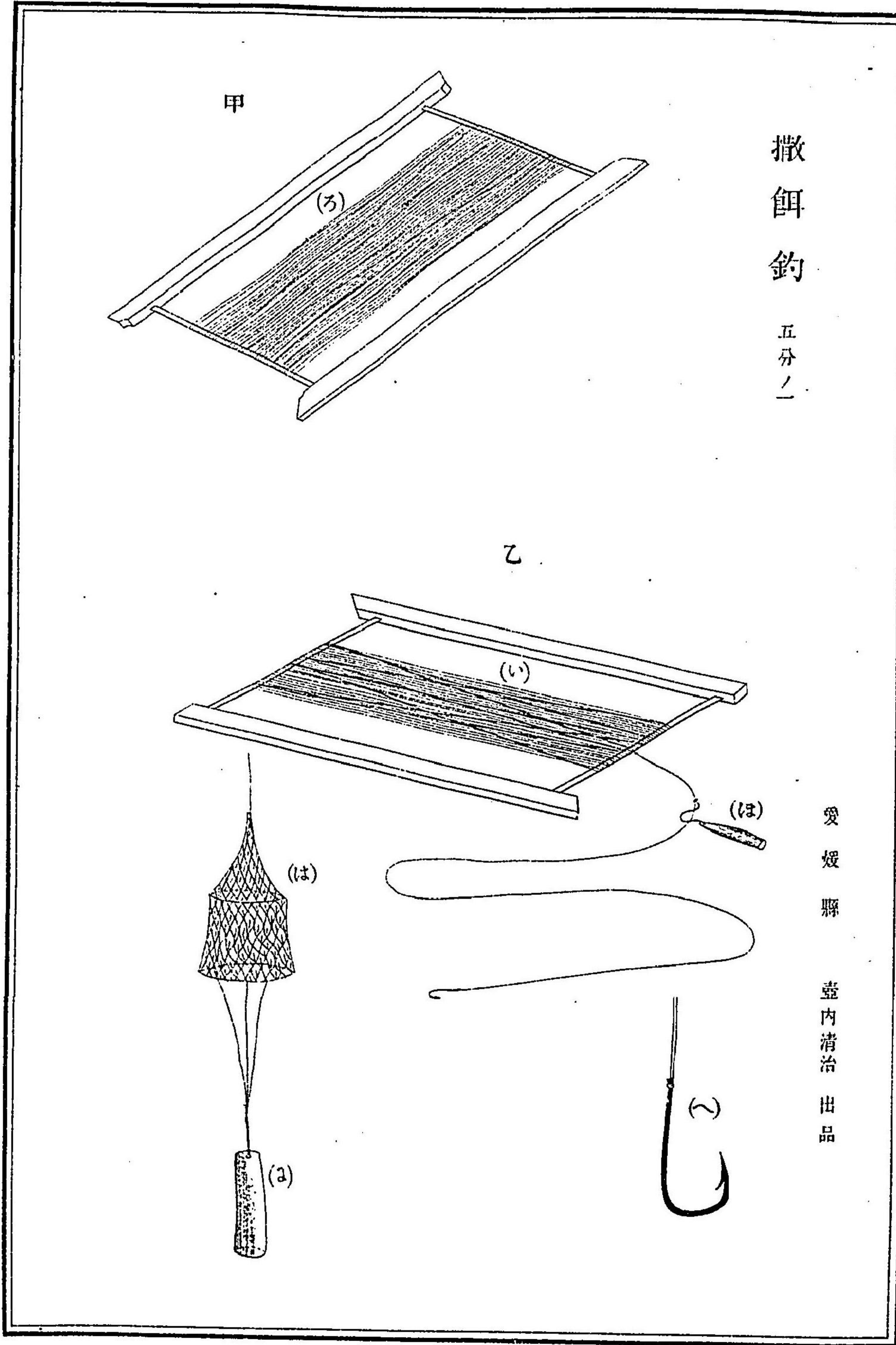
静岡縣鈴木岩太郎出品「た鮫」釣(第八十四版)ハ天秤形ニシテ青麻一匁ヲ以テ一尋ニ製シ六百尋ヲ以テ一鉢トス水深五百六七十尋ノ所ニ於テ紗、いなだ等ヲ餌料トシ使用スルナリ其製作稍、可ナリ

圖解

- (イ) 銅線荒卷徑一分二厘長八尺四寸五分
 - (ス) 白綿絲卷長八尺八寸
 - (ハ) 割竹徑二分五厘長六尺四寸銅線卷
 - (ニ) 實形銅線卷
 - (ハ) 鈎實形鐵製
 - (ヘ) 三子綿絲四本徑五厘
 - (ト) 竹製撚辰シ
 - (チ) 銅線製卷長三尺五寸五分
- 愛媛縣靈内清治出品ノ撒餌釣(第八十五版)ハ撒餌袋(甲圖)及餌釣(乙圖)ノ二種ヨリ成リ撒餌袋ハ釣魚ノ際魚類誘致ノタメニ用ウ捕獲物ハ黒口魚、鱧、おこ魚、めばる等ニシテ使用季節ハ五月中旬ヨリ六月迄トス之ヲ使用スルニハ先ツ餌袋ニ餌料ヲ入レ岩礁ノ間ニ於テ魚類ノ潜伏セル場所ヲ撰ヒ餌袋ヲ垂下スレハ餌ハ自カラ脱落スルナリ既ニ袋ヲ目的ノ個所ニ達セシメ其垂下ヲ停止スル時ハ餌料ハ外方ニ散亂シテ魚ヲ誘集ス此時鈎ニ活蝦ヲ懸ケ(方言鼻掛ト云フ)テ釣獲ス其構造考案共ニ稍、可ナリ然レモ活餌ヲ用ユルニハ鈎形稍、大ニ過クルカ如シ宜シク生鐵鈎ニ代フニル燒鈎ヲ以テスル方利アラシ

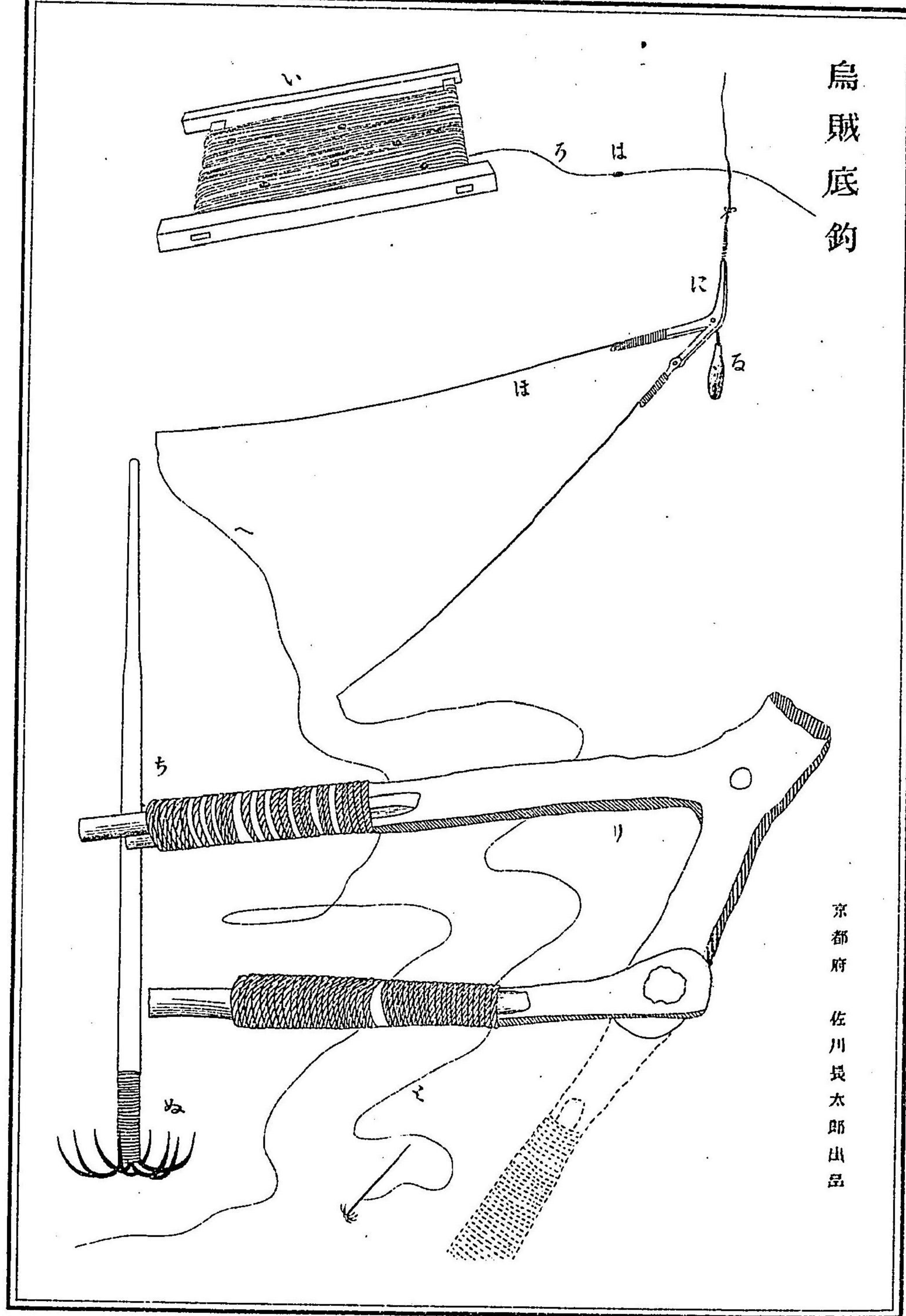


静岡縣 鈴木岩太郎出品



撒餌釣 五分ノ一

愛媛縣 壺内清治 出品



烏賊底釣

京都府 佐川長太郎出品

圖解

- (イ) 天蠶絲一條長二十一尋
- (ロ) 麻絲二子左撚徑三厘長九尋半
- は 餌袋麻製六分目
- (ニ) 錘鉛製重白久
- は 錘鉛製重五久
- (ヘ) 鈎生鐵製實形

京都府佐川長太郎出品ノ鳥賊底鈎(第八十六版)ハ兩天秤形ニシテ一方ヲ蝶鉸トナセリ凡ソ天秤ノ材料ハ各自ノ嗜好ニヨリ其材料形狀ヲ異ニス例セハ鯨鬚又ハ異餘線其他樹枝竹片等種々ノ材料ヲ用フレトモ要スルニ屈撓自在ニシテ強韌ナルモノヲ撰マサルヘカラス然ルニ鐵材ノ如キ腐蝕シ易キモノヲ用フルハ一ノ欠點ト云フヘシ而シテ其天秤ノ長サ一尺五寸ニシテ其分岐セル所ニ重量五十久ノ圓錐形ノ鉛製沈子ヲ付ス總テノ重量概キ八九十久ニ製セリ之ヲ使用スルニハ夜間篝火ヲ點シ五月ヨリ十一月迄用フルナリ

圖解

- (イ) 絲卷十分ノ二圖
- (ロ) 麻絲澁染徑三厘左撚リ長三十二尋
- は 錘鉛製長三分八厘徑一分八厘
- (ニ) 鐵製
- は 木長一尺三寸

- (へ) 一條天蠶糸長二尺三寸五分
- (と) 麻絲長一尺二寸五分
- (ち) 竹實形
- (り) (に) ノ部ノ實形一部
- (ぬ) 鈎鐵製實形
- (る) 沈子重量五十四匁

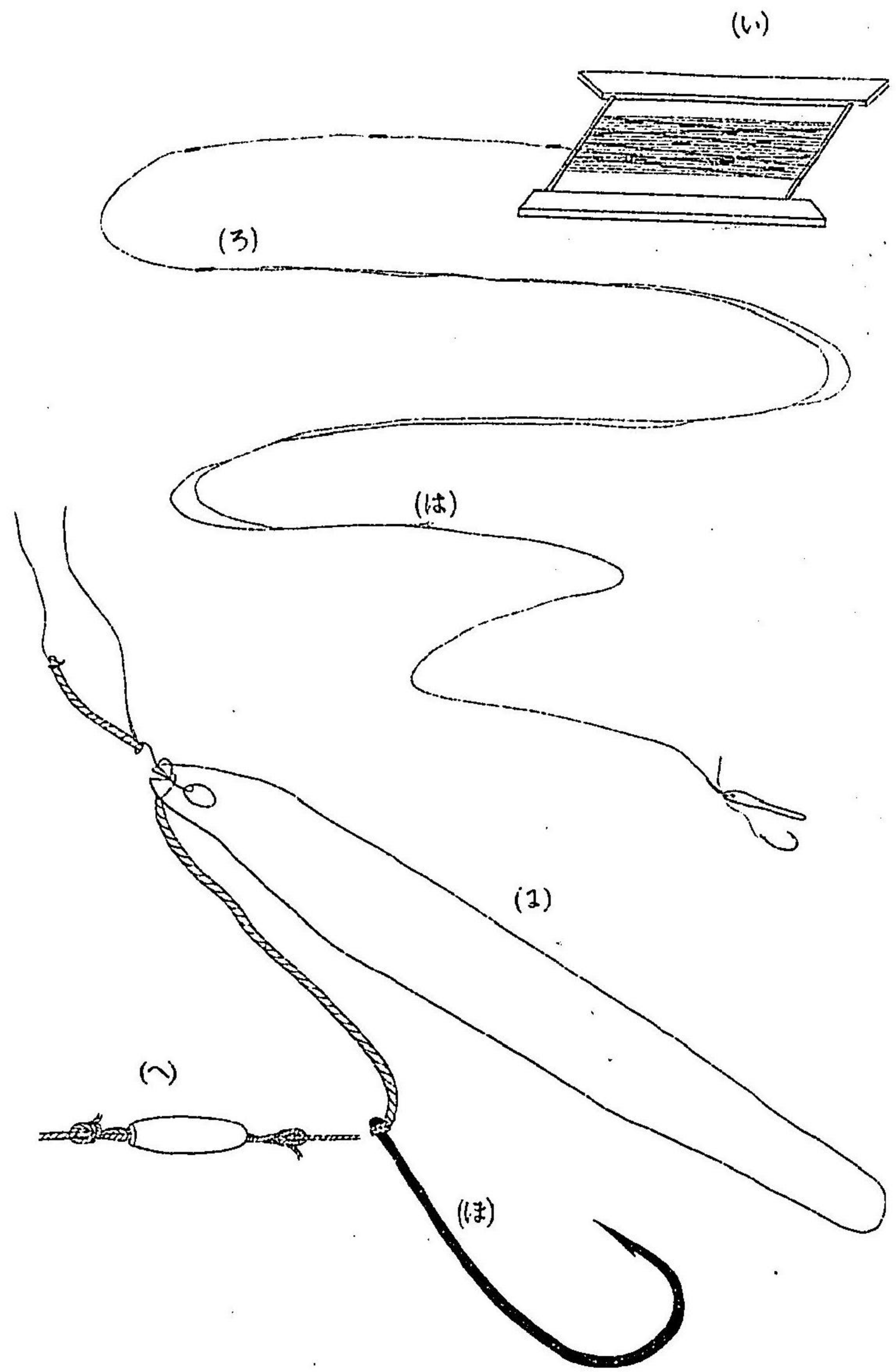
大分縣宮崎初治出品ノ鯖手釣(第八十七版)ハ入梅前ヨリ凡ソ三十日間踏ヲ餌トシ使用スルモノニシテ従前ハ二三寸毎ニ
 錘ヲ附セシカ明治二十年頃ヨリ之ヲ改メ手元ヨリ鈎ニ近クニ從ヒ錘ノ大サヲ減シ且ツ方言附ケ上ケト稱シ手元ニ至ル
 ニ從ヒ錘一個ノ長サ丈遞次錘間ノ距離ヲ増セリ是一種ノ漕釣ニシテ鈎鈎ニハ錫鍍金ヲ施セリ

圖解

- (い) 全形十分ノ一圖縞絲長十八尋麻二子ノ二子左撚リ徑四厘(但シ手元)次長サ六尋二子ノ二子左撚リ徑二厘此間鉛ノ沈子(へ)二十二個ヲ附ス
- (ろ) わり(は)ニ至ルノ間天蠶絲二本長四尺
- (は) ヨリ鈎ニ至ルノ間天蠶絲一本長二尺
- (に) 桐材鑄ニ擬テ實形
- (は) 鈎眞鍮製實形

以上列舉セル所ノ外尙ホ批摘論評スヘキモノアリト雖モ出品ノ夥多ナル種類ノ複雜ナル實ニ舉クルニ遑アラス故ニ順次
 各府縣ノ出品ニ付種別比較表ヲ掲ケ以テ各府縣ニ於ケル釣漁業ノ狀況ヲ知ルニ便セントス然レトモ今回ノ出品ヲ以テ各

鯖手釣



大分縣 宮崎初治 出品

地釣漁ノ全般ヲ窺フニ足ラスト雖モ甲地ニアリテ乙地ニナキモノアリ或ハ我ニ疎ニシテ彼ニ精ナルモノアリ故ニ彼此相
 移用シ長ヲ採リ短ヲ補ヒ以テ釣具ノ改善擴張ヲ圖ラント欲スルモノ、參考ニ供ス

東京府 釣具ノ出品ハ總數八種ニシテ延繩類一種手釣類七種トス而シテ受賞者ハ小笠原ニテ使用スル所ノ釣具ヲ出品セ
 ル鍋島喜八郎及持丸三喜藏ノ類聚品トス從來該地方ニ於テハ漁業ヲ營ムモノ稀ニシテ僅々雜魚釣具二三ノモノアルニ過
 キサリシカ明治二十六年農商務省ノ囑托ニ依リ鍋島喜八郎卒先之カ試驗ヲナシ爾來鑿鑿釣等ノ漁業漸ク緒ニ就キ漁具モ
 亦漸次進歩ノ狀況ヲ呈セリ今回出品セル鑿釣鈎ノ如キハ其形ヲ小ニシ魚ノ懸リ易キヲ主トセシモ鈎元ニ卷キタル銅線ハ
 尙ホ短少ナルノ憾アリ而シテ其保存方ハ使用後油ニ浸シタル布片ニ包ミ酸化ヲ防クカ如キハ用意周到ナリ持丸三喜藏ノ
 出品ハ鑿釣柔魚鈎ノ擬餌鈎、餌鈎等各種ニシテ形狀製作共ニ稍見ルヘシ

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	一	鳥賊魚鈎	二
手釣類	四	烏賊魚鈎	一
蛇め鯛鯉	一	烏賊魚鈎	一
だ	一	魚鈎	一
鰻	一	魚鈎	一
計	十二點		

神奈川縣 釣具ノ出品ハ總數三十六種ニシテ延繩類十四種手釣類二十二種ナリ而シテ有功賞ヲ受ケタルモノハ小村徳左衛門原吉五郎ノ類聚品トス其他褒狀ヲ受ケシモノ二十二名アリ小村、原兩人ノ類聚品ハ其地方ニ於ケル有益ナル各種ノ釣具ヲ出陳シ釣漁ノ狀況ヲ示スモノニシテ斯業ノ發達ヲ裨益スル尠カラストス出品ノ種類ハ鮪繩ヲ除クノ外ハ特ニ稱揚スヘキモノ少シト雖モ手釣類ノ發達ハ實ニ全國屈指ノ地位ニアリ從テ其製作モ亦可ナリ殊ニ鮪繩ノ巻緒ヲ綿絲ニ改メテ坊腐擦傷ヲ防キ又延繩細繩ノ鈎ヲ真鍮製トナシタル等ヲ以テ改良ノ點トス出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	四	鯛類	六
鮪延繩	三	鮫延繩	二
だ延繩	三	河延繩	一
鮪延繩	一	鮫延繩	一
し延繩	二	か延繩	一
い延繩	一	ぎ延繩	一
鮪延繩	二	す延繩	一
手釣類	七	空	一
烏賊釣	一	う延繩	一
手釣類	九	づ延繩	一
烏賊釣	一	わ延繩	一
手釣類	七	釣	四
烏賊釣	一	釣	三

品名	出品點數	品名	出品點數
章魚釣	三	鮪釣	一〇
鯛類釣	四	ひ釣	五
だ類釣	四	つ釣	二
比目魚釣	二	しなぎ釣	一
鮪魚釣	二	鮪釣	一
石斑魚釣	一	鮫釣	一
磯魚釣	一	鰈釣	一
磯打魚釣	二	鰈釣	一
磯打魚釣	二	鰈釣	一
合計	百二十四點		

静岡縣 釣具ノ出品總數ハ二十八種内延繩類十一種手釣類十七種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ濱漁業小組合、田子村漁業組合、静岡縣漁業組合事務所及鈴木岩太郎出品類聚品トス其他褒狀ヲ受ケシモノ十八名アリ製作形狀共ニ見ルニ足ルヘキモノ尠カラズ殊ニ田子村漁業組合ノ出品ハ各種ノ延繩釣具ヲ類聚シ地方ニ於ケル該漁業ノ狀況ヲ示スモノニシテ各種ノ製作形狀共ニ能ク實用ニ適シ且綿絲及鈎ニ改良ヲ加ヘ漁獲ヲ増加セシムルニ至リタルハ頗ル稱揚スヘシ是該縣下ニ於テハ延繩ノ漁業ヲ以テ著名ノ地タルヲ知ルヘシ出品種別表ヲ左ニ掲ク

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類 鮪延繩 鰻延繩 は延繩 鰈延繩 黒延繩	一 二 一 一 二 一	鮪延繩 鰻延繩 鰈延繩 は延繩 鰻延繩 魚延繩	一 一 一 一 一 一
手釣類 鯛釣類 鱒釣類 鱸釣類 烏釣類	五 一 一 一 一	保太鯨釣 渦釣 鰻釣 こ釣 し釣	一 一 一 一 一

愛知縣 釣具出品總數ハ二十九種内延繩類十二種手釣類十七種ニシテ受賞者ハ褒狀十名アリ該縣下熱田町ノ漁者ハ從來釣漁ヲ營ムモノ多ク從テ漁具漁法ノ如キモ最モ精巧ナルモノ尠カラストス今回出陳セル所ノ釣具モ亦製作形狀共ニ見ルヘキモノアリ平素斯業ニ勵精ナルヲ徵スルニ足ルヘシ

品名	出品點數	品名	出品點數
鮪延繩 鰻延繩 鰈延繩 は延繩 鰻延繩 魚延繩	一 一 一 一 一 一	鮪延繩 鰻延繩 鰈延繩 は延繩 鰻延繩 魚延繩	一 一 一 一 一 一
手釣類 鯛釣類 鱒釣類 鱸釣類 烏釣類	六 二 四 一 一	鯛釣類 鱒釣類 鱸釣類 烏釣類 赤魚釣類	三 一 一 一 一
合計	百二十點		

鮭	鱒	章魚	イ	鱒	鯖	延繩類
し	も	魚	も	ち	鮭	
ち	ち	ち	ち	ち		
釣	釣	釣	釣	釣	釣	
計	計	計	計	計	計	
三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	
三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	
三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	三十一	

三重縣 釣具ノ出品總數ハ二十九種即チ延繩類六種手釣類二十三種ニシテ有功賞ヲ受ケタルモノハ糸川善右衛門ノ類聚品トス其他褒狀ヲ受ケシモノ十二名アリ糸川善右衛門出品ハ鮭釣及ひささ釣二種ノ類聚ニシテ共ニ製作精巧最モ實用ニ適ス又兼古與惣五郎出品ノ鯛繩釣ハ製作稍可ナリ其他手釣類ニハ鯛、黒鯛、鯉等ノ各種又延繩類ニハ鯖繩、鯛繩、海鰻繩等ニ於テ見ルヘキモノアリ

鮭	鱒	章魚	伊	鱒	鯖	延繩類
な	な	な	な	な	な	
な	な	な	な	な	な	
釣	釣	釣	釣	釣	釣	
計	計	計	計	計	計	
五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	
五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	
五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	五十六	

千葉縣 釣具ノ出品總數ハ十七種ニシテ延繩五種手釣類十二種トス内有功賞ヲ受ケシモノハ鮭延繩、鱒延繩ノ二種ニシテ其他褒狀ヲ受ケシモノ九名アリ而シテ該縣下ニ於ケル鮭二種ノ延繩ハ夙ニ其製作ニ改良ヲ加ヘ常ニ許多ノ漁利ヲ收ムル所ニシテ其名聲全國ニ知ラレ其他鯉、鯛、鮭、烏賊等ノ釣具ニ至リテモ見ルヘキモノ尠ナカラストス

品名	出品點數	合計				
		手釣類	鯛類	鮎類	鱒類	其他
手釣類	1	1	1	1	1	1
鯛類	1	1	1	1	1	1
鮎類	1	1	1	1	1	1
鱒類	1	1	1	1	1	1
其他	1	1	1	1	1	1
合計	34	5	5	5	5	5

茨城縣 出品總數九種ニシテ延繩類四種手釣類五種トス内有功賞ヲ受ケタルハ茨城縣沿海漁業組合聯合會ノ類聚品ナリ
 其他褒狀ヲ受ケシモノ三名アリ該縣下ニ於ケル釣具ハ近來稍々進歩ノ狀況ヲ呈シ就中鯉釣及鯛釣ノ如キハ見ルヘキモノ
 アリ然レモ一般釣漁ノ有様ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス將來改良擴張ヲ圖ルヘキモノ尠カラストス

品名	出品點數	合計				
		手釣類	鯛類	鮎類	鱒類	其他
手釣類	1	1	1	1	1	1
鯛類	1	1	1	1	1	1
鮎類	1	1	1	1	1	1
鱒類	1	1	1	1	1	1
其他	1	1	1	1	1	1
合計	13	5	5	5	5	5

福島縣 釣具ノ出品總數ハ九種ニシテ延繩類四種手釣類五種内褒狀ヲ受ケタルハ鯉釣、烏賊釣、平目釣、鱒類等トス出
 品點數僅少ニシテ從テ褒賞ノ典ニ與リタルモノ亦僅カニ三名アルノミ其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

二十六

合計		十二點	
品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	四	鯉	一
鱈延繩類	二	鰈	一
目拔延繩類	二	いしなぎ	一
赤魚延繩類	一	鯛	二
鱸延繩類	一	鱈	二
あなご延繩類	一	鰈	一
手釣類	六	赤魚	一
章魚釣類	三	柔魚	四
福來釣類	一	魚立釣	一
合計	三十七點		

宮城縣 釣具ノ出品總數ハ十八種ニシテ延繩類十二種手釣類六種トス内有功賞ヲ受ケタルハ松島灣漁業組合ノ類聚品アルノミ其他褒狀ヲ受ケシモノ六名アリ該縣下ニ於テハ從來釣漁ヲ營ムモノ少カラス殊ニ延繩類ニハ鱈繩、鯛繩、鰈繩等ノ類又手釣ニハ鯉釣、柔魚釣、福來釣等ノ類ニハ見ルヘキモノアリ概シテ稍々進歩ノ狀況アリトス

岩手縣 釣具ノ出品總數ハ七種ニシテ延繩類四種手釣類三種トス内受賞者ハ褒狀五名アリ該縣ニ於テハ從來赤魚、鯉、柔魚等ハ專ラ釣獲スル所ニシテ漁法練達シ漁具モ亦精巧ノモノナキニ非ズ今回ノ出品ニ於テモ是等ノ釣具ニハ見ルヘキモノアリ然ルニ釣具ハ其出品ノ種類僅少ナルヲ以テ一般釣漁ノ進歩ヲ示スニ足ラス左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

合計		十七點	
品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	三	鯉	一
赤魚延繩類	一	鰈	一
手釣類	七	柔魚	二
鯉釣	一	魚釣	一
合計	十七點		

青森縣 釣具ノ出品總數十九種ニシテ延繩類十種手釣類九種トス有功賞ハ東北漁業組合本部出品ノ類聚品ニシテ其他褒狀ヲ受ケシモノ六名アリ而シテ出品多數ヲ占ムルモノハ柔魚釣及鱈延繩ニシテ就中柔魚釣具ハ其製作形狀共ニ佐渡形ニ倣ヒタルモノニシテ頗ル改良ノ點アリ其他鯛繩、鰈繩ノ如キモ亦近年稍々進歩ノ狀アリトス左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

二十七

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	四	鱈延繩	一
鱈延繩	一	鱈延繩	一
かながしら	一	鱈延繩	一
延繩類	一	鱈延繩	一
手釣類	八	鱈延繩	一
柔魚釣	一	鱈延繩	一
鯛魚釣	三	鱈延繩	一
藻魚釣	一	鱈延繩	一
鯉魚釣	七	鱈延繩	一
合計	三十四點	鱈延繩	一

山形縣 釣具ノ出品ハ延繩類十一種手釣類八種ニシテ内褒狀ヲ受ケタルモノ七名アリ褒賞ヲ得タルモノハ鯛、鱈、鱈等ノ延繩類ニシテ他ノ種類ニ少シ而シテ釣具ノ出品中ニハ或ハ製作形狀稍、良好ナルモ鈎ニ生鐵ヲ用井其形チ過大ナルモノアリ或ハ延繩ノ幹繩枝繩共ニ太キニ過クルモノアリト雖モ或ハ大魚釣ノ天秤ニ蝙蝠傘ノ骨ヲ用ヒ廢物ヲ利用スルカ如キ或ハ鱈延繩ノ幹繩枝繩トノ染色ヲ異ナラシメ取扱ニ便スルカ如キ考案宜シキヲ得タルモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	六	鱈延繩	一
鯛延繩	二	鱈延繩	一
油子延繩	一	鱈延繩	一
飯蛸延繩	二	鱈延繩	一
さす延繩	一	鱈延繩	一
赤鱈延繩	一	鱈延繩	一
手釣類	一	鱈延繩	一
鱈延繩	一	鱈延繩	一
真鯛延繩	一	鱈延繩	一
はちめ延繩	一	鱈延繩	一
合計	三十點	鱈延繩	一

秋田縣 出品總數十六種ニシテ延繩類七種手釣類九種トス内褒狀ヲ受ケタルモノ五名アリ解説ニ記スル所ニ據レハあか

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

延繩ハ十年以前ノ創始ニ係リ小鯛釣具ハ二十年前頃山形縣ヨリ鱧釣繩ハ明治二十四年頃山口縣ヨリ移用シ鱧釣具ハ同廿八年ノ創始ニ係ルト云ヘリ釣漁業ニハ創始日尙ホ淺キモノアリ以テ一般漁業ノ進歩ヲ徴スルニ足ルヘシ出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
小延繩類 鯛延繩類	二 二	鱧釣繩 鮫釣繩	一 一
手釣類 鱧釣類 鱧釣類 鱧釣類	二 一 一 一	小鯛釣類 鱧釣類 鱧釣類	一 一 一
合計	二十二點		

新潟縣 出品ノ釣具ハ二十三種ニシテ延繩類十四種手釣類九種ナリ就中鱧、鯛、鮫、鱧等ノ延繩類及柔魚釣ヲ多シトス而シテ有功賞ヲ受ケタルハ柔魚釣具其他沿海漁業組合聯合會及出雲崎町配繩漁業者等ノ出品ニ係ル類聚トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ二十五名アリ該縣下ニ於ケル柔魚釣ハ夙ニ其名ヲ博シ今回出陳ノ釣具亦見ルヘキモノアリ其他鮫延繩類延繩等ハ其原料ノ撰擇及製作形狀等他ノ釣具ニ比シ勝レルモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類 鯛延繩類 鮫延繩類 鱧延繩類 鱧延繩類	一五 四 二 二 三	鯛延繩類 鮫延繩類 鱧延繩類 鱧延繩類	三三 一四 二 五 三
手釣類 魚釣類 鱧釣類	八 一 一	鱧釣類 大魚釣類 鯛釣類	四 三 二
章鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類	三 二 二 二 二 四 五	鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類 鱧魚類	一 二 三 五 二

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

品名		出品點數	品名	出品點數
鮪	延繩類	二	鯛	四
鱈	延繩類	四	鯛	三
鱈	延繩類	三	鯛	二
鮫	延繩類	一	鯛	一
手釣類		五		
鯉	手釣類	五	ふくらげ	二
鳥賊	手釣類	六	蟹	一
大鱈	手釣類	一	掛釣	一
合計		百二十一		
合計				

富山縣 釣具ノ出品ハ十五種ニシテ延繩類八種手釣類七種トス内褒狀ヲ受ケタルモノ八名アリ該縣釣具ノ出品ハ鯛、鱈、鮪、赤鯛ノ延繩類其他鯉、鳥賊釣等ノ類最モ多ク其他延繩手釣類等ヲ合スレハ其數三十七點ノ出品アリト雖モ概シテ其製作用法等特ニ稱揚スヘキモノ尠シトス其出品種別比較表ヲ掲ケレハ左ノ如シ

品名		出品點數	品名	出品點數
鯛	延繩類	二		
手釣類		二		
鯛	延繩類	二		
合計		五		
合計		三十七		

石川縣 出品總數僅カニ三種ニシテ延繩類一種手釣類二種トス釣具ノ出品ハ斯ク僅少ナルヲ以テ今回ノ出品ヲ以テ該縣下ニ於ケル釣漁業ノ狀況ヲ窺フニ足ラスト雖モ其出品種別ノ比較表ヲ掲ケレハ左ノ如シ

福井縣 出品總數十五種ニシテ延繩類七種手釣類八種トス而シテ褒狀ヲ受ケタルモノ十二名アリ該縣ノ出品ニハ鯛、鯉、鳥賊釣、鱈釣、鮪釣、鱈釣等ノ類多クシテ就中鯖釣具、鯛釣具、鳥賊釣具等ニハ其釣具ニ鍍金ヲ施シ製作亦稍、改良セシモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ示ス

鯛 延 延 延	延 繩 類	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
一	一	鐵	一	鐵	一
		延		延	
		繩		繩	
合 計	合 計		五十點		五十點
手 釣 類	魚 釣 類	章 鯛 鯛 魚	一 一 九 九	鰻 鯛 大 鰻 魚	一 一 一 四
目 張	鯛 鯛 鯛 繩		一 三 三 一	鯛 鯛 鯛	一 三 一
京都府 出品總數二十種ニシテ延繩類四種手釣類十六種内有功賞ヲ受ケタルハ與謝郡水産業組合松江灣五ヶ浦漁業組合 出品ノ類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ十七名アリ就中鯛繩、鯛釣、鳥賊釣、鰻釣等ノ出品多ク其構造亦概シテ見ル ヘキモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ示ス					

手 釣 類	鯛 鯛 鯛 魚	烏 賊 魚	し の は	鯨 鯨 鯨 魚	合 計	出 品 點 數
五	四	四	一	三	七十八點	
鯛 鯛 鯛 鯛	鯛 鯛 鯛 鯛	鯛 鯛 鯛 鯛	鯛 鯛 鯛 鯛	鯛 鯛 鯛 鯛		
一	三	一	一	三		
延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類
一	三	一	一	三		
烏取縣 出品總計十六種ニシテ延繩類八種手釣類八種トス而シテ有功賞ヲ受ケタルハ出品奨勵會出品ノ類聚品トス其他 褒狀ヲ受ケタルモノ三名アリ釣具ノ出品ハ概シテ普通ニシテ鯛繩、鐵繩、柔魚釣等ノ外特ニ稱揚スヘキモノヲ見ス左ニ 出品種別比較表ヲ示ス						

延 類	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
延 類	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
合 計	合 計	十九點	合 計	十九點

島根縣 出品總數十一種ニシテ延繩類三種手釣類八種トス而シテ衰狀ヲ受ケタルモノ九名アリ釣具ノ出品中延繩、鯉延繩等ニハ或ハ釣鈎ニ鍍金ヲ施シ或ハ餌料ヲ改メ其他柔魚鈎、鰮鈎ノ如キハ稍見ルヘキモノアリトス其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

延 類	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
延 類	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
	延 類		延 類	
合 計	合 計	二十一點	合 計	二十一點

岡山縣 釣具出品ノ種類ハ延繩類八種手釣類十二種ニシテ衰狀ヲ受ケタルモノ十名トス就中黑鯛鈎、鯉繩、鯉繩鈎等ニハ其製作ニ注意シ或ハ鈎ニ改良ヲ加ヘタルモノアルヲ見ル其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
手釣類	一〇	手釣類	一
鯛釣	三	鯛釣	一
鱸釣	一	鱸釣	二
ふぐ釣	一	ふぐ釣	二
こち釣	四	こち釣	二
ちぢ釣	二	ちぢ釣	二
いぢ釣	一	いぢ釣	一
ろく釣	一	ろく釣	一
合計	四十六點	合計	四十六點

山口縣 出品總數三十一種ニシテ延繩類九種手釣類二十二種ナリ有功賞ヲ受ケタルハ阿武郡水産組合出品ノ類聚品トス
其他褒狀ヲ受ケタルモノ十八名アリ而シテ近年稍々改良ヲ加ヘタルモノハ鱸浮延繩、こんにく釣、いさぎ釣、柔魚釣、
鯛釣等ニシテ其製作佳良ノモノ尠カラス其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數
延繩類	五
鯛延繩	二
鱸延繩	四
ふぐ延繩	一
こち延繩	一
ちぢ延繩	一
いぢ延繩	一
ろく延繩	一
藻延繩	一
合計	一八

品名	出品點數	品名	出品點數
手釣類	一	手釣類	一
烏賊釣	八	烏賊釣	五
鱸釣	三	鱸釣	二
鯛釣	四	鯛釣	三
鱈釣	一	鱈釣	二
鮫釣	二	鮫釣	二
鱈釣	二	鱈釣	二
めばち釣	一	めばち釣	一
いそ釣	一	いそ釣	一
ちぢ釣	一	ちぢ釣	一
ろく釣	一	ろく釣	一
合計	七十二點	合計	七十二點

兵庫縣 出品總數四十五種ニシテ延繩類十七種手釣類二十八種ナリ而シテ有功賞ヲ受ケタルハ沼島漁業組合、兵庫縣北
部水産業組合、由良町漁業組合等ノ出品ニ係ル類聚品トス其他褒狀ヲ受ケシモノ二十一名アリ就中出品點數ノ多キモノ
ハ鯛延繩、鱈釣、鱈釣、柔魚釣等ニシテ製作形狀稍々見ルヘキモノアリ其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
章鯛 鯛 鱈 烏 手 魚 賊 釣 類	四 五 四 一 〇	磯 油 鱈 鯛 魴 刀 鯛 鯛 鱈 延 延 目 鰯 魚 延 延 延 延 延 延 延 延	一 一 一 二 一 一 一 五 二
鱈 鱈 い あ 鱈 殘 さ な 魚 さ じ	一 四 一 二 四	は 鱈 さ 魴 鮪 あ 鱈 海 ま よ な ち り じ	一 一 一 一 三 五 一 六

品名	出品點數	品名	出品點數
鯽 鱈 延 延 延 延 類 延 延 延 類	二 二	藻 油 か ぐ め 糸 河 小 刀 魚 目 す ち る 豚 魚 魚	一 一 三 二 二 二 一 二
合 計	百〇五點	廣島縣 出品總數三十六種内延繩類十二種手釣類二十四種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ豊浦漁業組合出品ノ釣具類聚品ト ス其他褒狀ヲ受ケタルモノ八名アリ就中鯽釣具、はまち釣具、鱈釣具、ばら掛釣、をこせ釣其他たひ釣、黒鯛釣等ニハ 稍、見ルヘキモノアリ又あなご繩ノ鉢及たひ繩ノ釣掛等ハ其考案可ナリトス左ニ出品種別比較表ヲ示ス	

鯿 鱧 べ 鱈 河 鱈 は 鯽 を 石 鱈 鯿 手	鱈 鯿 油 鯿
ら 豚 ち せ 魚 空 釣 類	身 延
釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣	繩 繩 繩 繩
二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二	一 一 一 一
鱈 赤 章 鱈 は わ に 目 鯿 烏 鯿 海	飯 鱈 章 た
魚 魚 ち べ 張 賊 鯽	魚 も
釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣	蛸 延 引
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 三 二 三 一	繩 繩 繩 繩
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	一 二 一 一

和歌山縣 出品總計二十二種內延繩類五種手釣類十七種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ和歌山市外三郡漁業組合及熊野潮崎
漁業組合出品釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ六名アリ出品數ノ多キモノハ鯿釣、烏賊ニシテ是等ノ釣具ニハ構
造用法共ニ稍見ルモノアリトス左ニ出品種別比較表ヲ示ス

鯽 鱧 鰻 鰻 烏 龜 手	鯿 鱈 鱈 延	品 名	出 品 點 數
釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣 類	絞 繩 類	鯿 鱈	一 二 二
一 一 一 一 三 六 一	繩 繩 繩	延 延	一 一
鱈 鯽 海 鱈 鯿 鱈 太	鯿 鱈	名	出 品 點 數
釣 釣 釣 釣 釣 釣 釣	延 延	刀 魚	一 一
一 一 一 一 一 四 二 二	繩 繩		

合 計

四十六點

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚	鯛 魚
延	延	延	延	延	延	延	延	延
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數
二	三	一	一	一	三	一	一	一

德島縣 出品總數二十八種內延繩類九種手釣類十九種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ聯合漁業組合出品ノ釣具類聚品トス其
他褒狀ヲ受ケタルモノ九名アリ出品點數ノ多キハ鯉釣、鰻延繩等ニシテ亦製作精巧ノモノアリトス左ニ出品種別比較表
ヲ示ス

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚
延	延	延	延	延	延	延	延	延	延
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	八	二	一	一	一	一	二	三
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	八	二	一	一	一	一	二	三
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	八	二	一	一	一	一	二	三
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	八	二	一	一	一	一	二	三

香川縣 出品總數三十三種內延繩類十三種手釣類二十種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ三枝文衛及三野豊田郡漁業組合出品ノ
釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ十八名アリ左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

章 魚	鮪 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚	鯉 魚
延	延	延	延	延	延	延	延	延	延
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	一	一	一	二	一	一	三	一
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
品	品	品	品	品	品	品	品	品	品
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
一	一	一	一	一	二	一	一	三	一

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

鮪 手 釣 類	延 繩 類	延 繩 類	延 繩 類	品 名	出 品 點 數
四	三	六	一	網 鯛 鮪 延 延 繩 繩	二 三
合 計	八十二點			品 名	出 品 點 數
は こ	蟹 釣	鰻 釣	ぐ ち 釣	天 さ 鰻 赤 秤 魚 魚	一 一 四 一
合 計	八十二點			品 名	出 品 點 數
は こ	蟹 釣	鰻 釣	ぐ ち 釣	天 さ 鰻 赤 秤 魚 魚	一 一 四 一

高知縣 出品總計二十二種內延繩類五種手釣類十七種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ高知縣水産業組合第四小區及安岡會
太郎出品ノ釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ十四名アリ水産業組合第四小區出品ノ大刀懸釣ハ長方形ノ沈子ヲ圓
形ニ改メ橫搖ヲ除キ安岡會太郎ノ鰻繩ハ從前二子ナリシヲ三子トナシ釣元ヲ卷ク針金ノ分量ヲ増加シ其他龜井百太郎出
品ノ鳥賊釣具等稍改良ノ點アリ左ニ出品種別比較表ヲ示ス

第二回水産博覽會審査報告 釣具類

烏 鯉 磯 鯛 鰻 魚 釣	磯 鯛 魚 釣	鰻 魚 釣	真 魚 釣	は ら か た 釣	合 計
二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	七十六點
品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
延 繩 類	一	鯛 延 繩	三	鯛 延 繩	三
品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
烏 鯉 磯 鯛 鰻 魚 釣	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數
烏 鯉 磯 鯛 鰻 魚 釣	二 一 三 一 二 一 一 一 二 一 一 一 一	品 名	出 品 點 數	品 名	出 品 點 數

長崎縣 釣具ノ出品ハ延繩類四種手釣類三種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ安岡會太郎出品ノ釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受
ケタルモノ四名アリ殊ニ出品ノ多キハ鳥賊釣ニシテ佐葉寛之助ノすつて釣ハ製作亦良好ノモノアリ其他鯛繩、鰻釣等ニ
モ稍見ルヘキモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

品名	出品點數	品名	出品點數
手釣類	七	手釣類	二
烏賊釣	三	烏賊釣	二
合計	十八點	合計	十八點
延繩類	四	延繩類	一
手釣類	一	手釣類	一
鱧釣	五	鱧釣	三
章魚釣	二	章魚釣	一
かれい釣	一	かれい釣	一

佐賀縣 釣具ノ出品ハ延繩類五種手釣類十三種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ大石周備、岩山市太郎、増本芳助出品ノ釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ四名アリ製作形狀稍、見ルヘキモノ尠カラス釣鉤鍍金法ハ明治初年頃佐渡ヨリ傳播シ漸ク増加セリト云フ今回出品ニ係ルモノ概テ鍍金ヲ施セリ左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

品名	出品點數	品名	出品點數
あじ釣	一	あじ釣	一
めづる釣	一	めづる釣	二
ばら釣	一	ばら釣	二
魚釣	二	魚釣	二
合計	三十一點	合計	三十一點

福岡縣 釣具ノ出品ハ延繩類七種手釣類九種ニシテ褒狀ヲ受ケタルモノ十二名アリ出品ノ多キハ鯛延繩、鱧釣、烏賊釣等ニシテ鱧釣ニハ鉤ニ鍍金ヲ施シ形狀宜シキヲ得縹絲亦精良ノモノアリ其他鱧繩ノ枝繩ニ改良ヲ加ヘ稍、見ルヘキモノアリ其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	二	延繩類	二
鯛延繩	一	鯛延繩	一
赤鯛延繩	二	赤鯛延繩	一
沙魚繩	一	沙魚繩	三
手釣類	五	手釣類	二

鮫	魚	賊	釣	四
鳥	賊	釣	四	
S	釣	釣	三	
目	張	釣	一	
合計			四十八點	

大分縣 釣具ノ出品ハ延繩類十種手釣類二十一種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ佐賀關鯨繩同盟組合出品ノ鯨繩各種及北海
部郡漁業組合南海部郡漁業組合其他東本嘉八出品ノ釣具類聚品トス又褒狀ヲ受ケタルモノ二十七名アリ而シテ鯨繩ハヤ
ヒ鯨、大ムカ、バカ鯨等ヲ捕獲ス延繩ニシテ共ニ製作精巧ニシテ最モ實用ニ適ス其他鳥賊釣具ノ出品ニ於テモ亦見ルヘ
キモノ抄カラス左ニ出品種別比較表ヲ掲ク

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	一八	とふへ	一
石首魚	九	藻	二
鯛	一	なだこ	一
河豚	二	ひなだこ	一

品名	出品點數	品名	出品點數
手釣類	三	鯛	五
鯨	三	章魚	四
鳥賊	一五	ひらめ	一
鯨	二	鯛	五
石首魚	一	鯛	三
目張	二	金頭魚	一
鯨	一	鯨	三
はこめ	二	鯨	一
大鯨	一	す	一
合計	百〇七點		

熊本縣 釣具ノ出品ハ延繩類八種手釣類八種ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ天草郡漁業組合ノ出品トス其他褒狀ノモノ八名
アリ就中鯨釣ハ従前一本釣ナリシヲ分銅釣トシ一人數具ヲ使用スルニ至リ又黒鯛繩、刀魚繩ハ魚ノ游層ニヨリ隨所ニ用
フルヲ得ル趣向トナシ其他鯨釣、鯨釣ノ如キ其構造稍見ルヘキモノアリ左ニ出品種別比較表ヲ示ス

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	二	延繩類	二
鯛	二	羽	一
鯉	一	た	一
鱒	一	ち	一
鰻	一	魚	一
手釣類	四	を	一
柔魚	二	繩	一
鯛	一	繩	一
鰻	一	繩	一
合計	二十二點		

宮崎縣 釣具ノ出品ハ延繩類二種手釣類十九種ニシテ總數二百十六點トス内有功賞ヲ受ケタルハ都原傳七ノ出品及宮崎縣漁業組合本部ノ釣具類聚品トス其他褒狀ヲ受ケタルモノ四十七名アリ而シテ出品點數ノ多キハ鰻釣、鯛釣、鳥賊、鰻釣等ニシテ就中是等ノ手釣類ニハ其構造用法共ニ見ルヘキモノアリ以テ該縣ニハ専ラ手釣漁業ヲ營ムモノ多キヲ知ルヘシ其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

鹿兒島縣 釣具ノ出品ハ延繩二種手釣類七種ニシテ其數十四點トス而シテ褒狀ヲ受ケタルモノ五名アリ其出品種別比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	一	鯛	二
手釣類	七五	鳥賊	一
鰻釣	四〇	鰻釣	一
鯛釣	五	鰻釣	一
鰻釣	四	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
河豚	一	鰻釣	一
合計	二百十六點		

品名	出品點數	品名	出品點數
小延繩類	一	灰魚繩	三
手釣類	三	烏賊釣	二
鯉釣	一	鯉釣	一
鮪釣	一	萬引繩	一
擬鮪釣	一		
合計	十四點		
沖繩縣 出品物ハ僅カニ鱈繩、鯉釣ノ二種六點アルノミ其製法ハ大分縣ニ於テ使用セルモノニ倣ヒタルモノニシテ手釣ハ二十年以前ヨリ使用セシモ延繩ハ去ル二十八年ノ創業ニ係リ使用ノ日淺シト雖モ能ク魚ノ性質ニ原ツキ枝繩ノ根元ハ回轉器ヲ付シ浮繩ハ枝繩ハ尋間ヲ真鍮線ニテ卷キタル等構造良好ナリトス			
品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	一		
手釣類	五		

北海道 釣具ノ出品ハ延繩類三種手釣類四種ニシテ内衰狀ヲ受ケタルモノ四名アリ元來本道ハ全般ノ進歩後レタルヲ以テ釣具ニ於テモ亦見ルヘキモノナク殊ニ鯉釣ハ解説ニ記スル所ニ據レハ明治二十二年ノ創始ニ係リ使用日淺シト雖モ近年漸ク増加ノ狀況アリト云フ又延繩ハ浮沈ノ二種アリ共ニ明治十六七年頃ノ創始ニ係ルモノニシテ其浮延繩ニハ稍改良ノ點アリトス左ニ出品種別比較表ヲ示ス

品名	出品點數	品名	出品點數
延繩類	二	大鯉繩	二
手釣類	一		
烏賊釣	一		
魚釣	一		
合計	十一點		

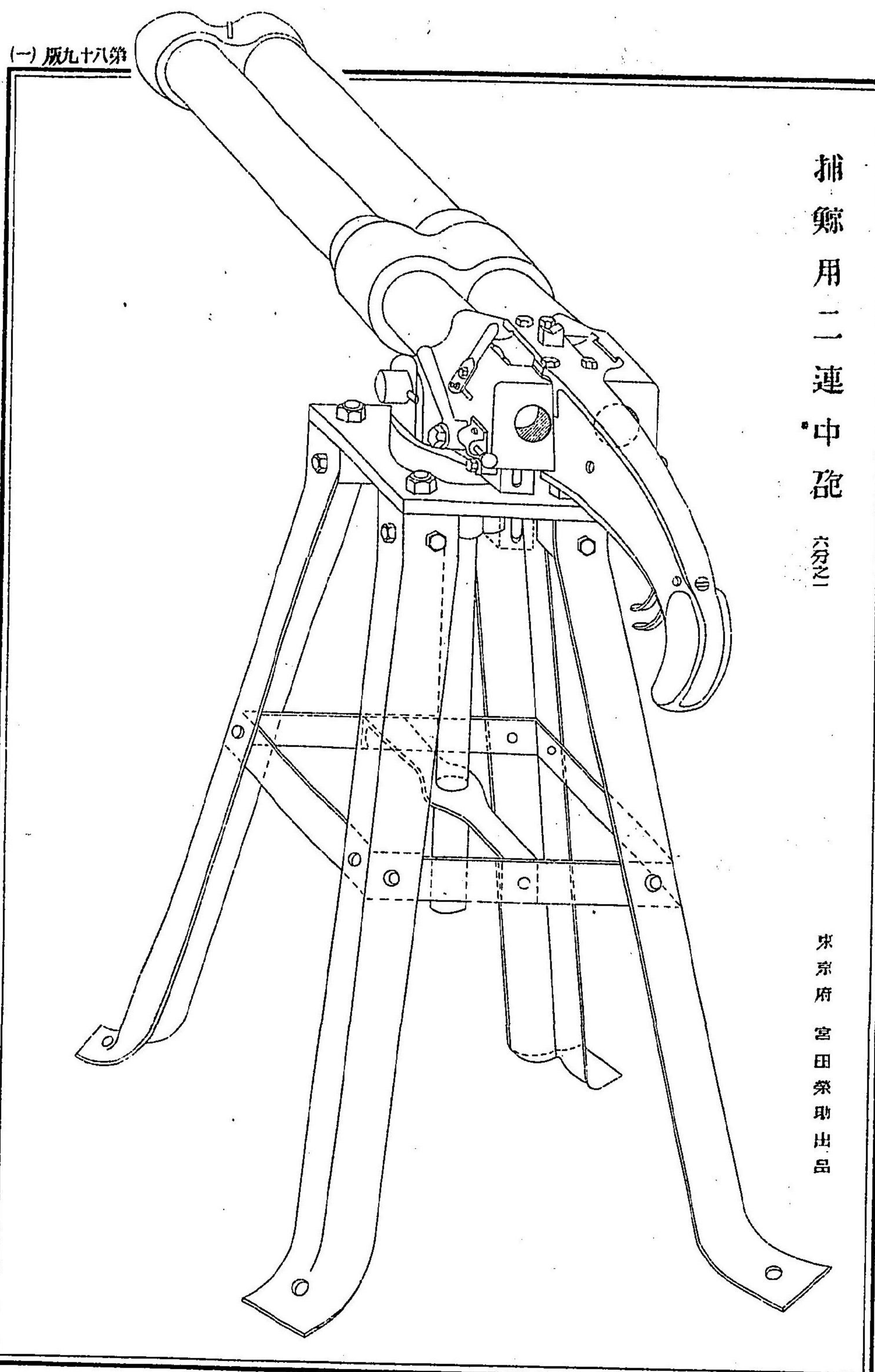
結論

釣具ノ出品タル其數夥多ナルモ概テ平素使用スル所ノ現品ヲ出セリ而シテ其製作用法共ニ見ルヘキモノ少カラス然レトモ將來向ホ改良ヲ要スルモノ一ニシテ足ラス抑モ釣具ハ生物ノ習性漁場ノ地文其他釣具ノ種類ニ應シ其構造ヲ撰ベサル

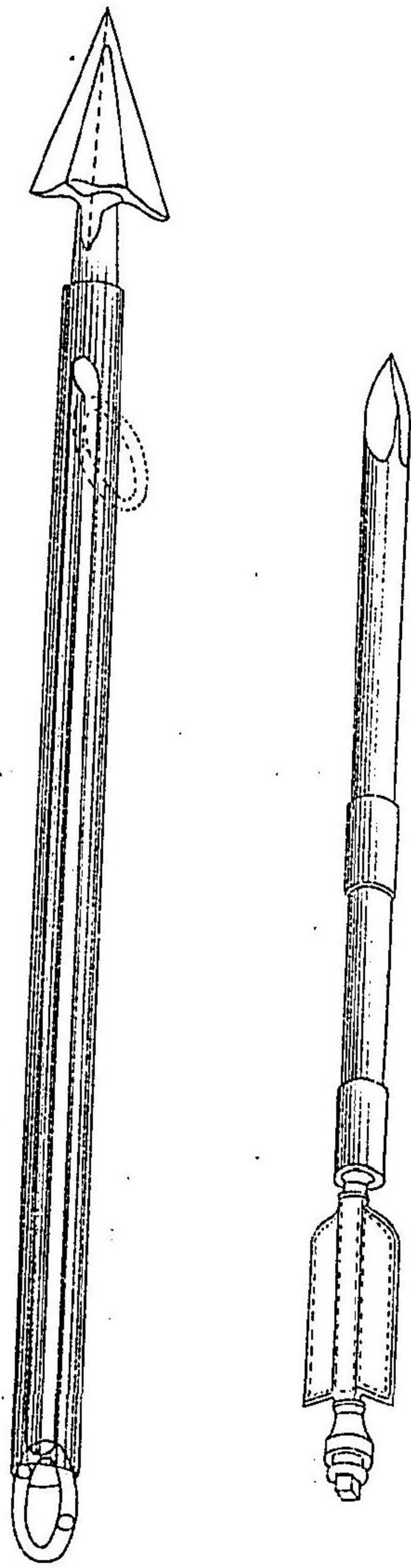
ヘカラスト雖モ要スルニ釣具ノ製作ハ可及的魚眼ニ觸レシメサルヲ旨トスレハ勿論操縦ニ便ナラシムルヲ主眼トスルモノナルヲ以テ第一原料ヲ撰擇シ繊細ニシテ且ツ堅固ニ製作シ第二操業上勞力ト時間トヲ省キ回轉運用ニ便利ナル工夫アルヲ要ス故ニ斯業ニ従事スルモノハ常ニ以上ノ諸點ニ注意シ實地ノ經驗ト學理トニ徴シ内外各地ノ漁具ヲ參照シ取捨折衷以テ其改良進步ヲ圖ラザルベカラズ

捕鯨用二連中砲 六分二

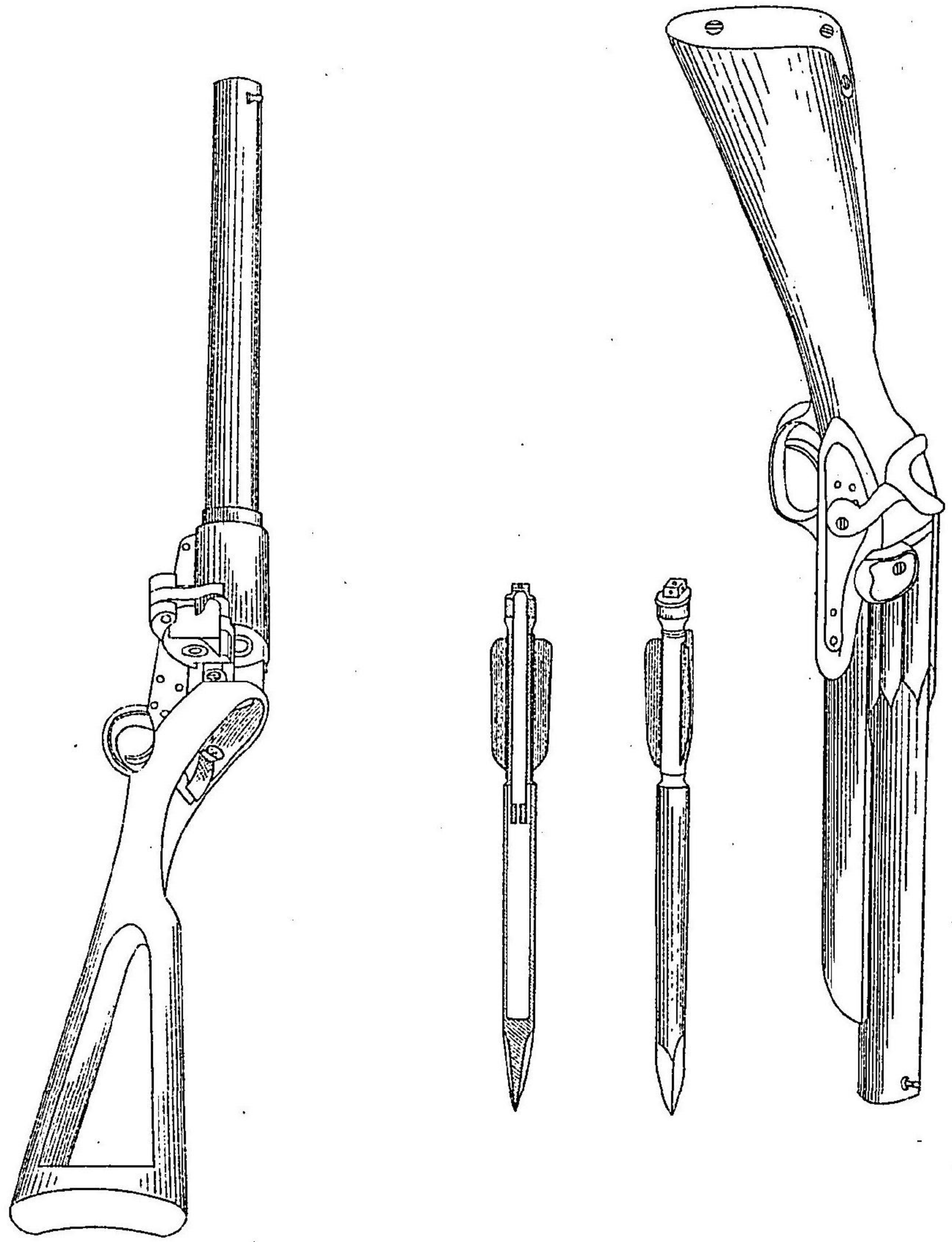
東京府 宮田榮助出品



第一八九八號



捕鯨用中砲附屬破裂矢及鈔
東京府 喜田榮助出品



捕鯨用小銃及破裂矢

東京府宮田榮助出品

第五類 海獸獵

捕鯨用銃砲 東京府宮田榮助出品ノ捕鯨用銃砲類ハ双發中砲、元込小銃其他ポンプランス、銃等ニシテ總テ現品ヲ出陳セリ而シテ双發中砲ハ砲架ニ嵌入シ砲身ノ俯仰及左右廻轉ヲ自在ナラシメテ發射スルモノニシテ其砲身ハ圓筒形ノ穿孔シタル鋼鐵ヨリ成リ其前後兩端及中間ニ鐵帶ヲ施シ中間鐵帶ノ下方ニ鍊鐵製ノ連接桿ヲ付ケ之ヲ砲架ニ嵌込ミ使用スルモノナリ銃床ハ楓材ニテ造リ後部ニ至ルニ從ヒ縮小セシム又砲架ハ四條ノ鐵ヲ以テ方錐形ニ製シ要所ヘハ力骨ヲ付ク而シテ之レヲ使用スルニハ先ツ砲架ヲ直立セシメ船中適宜ノ場所ニ鐵製「ボート」ヲ以テ其架脚ヲ緊着セシメ之レニ砲身ヲ架シ銃床ノ後部ヲ把持シ砲口ヲ俯仰又ハ左右廻轉セシメ發射スルナリ其火藥ハ距離ノ遠近ニ依リ差異アレトモ凡ソ十匁以上二十五匁以下ヲ用フヘシ(第八十九版參看)

以上ノ砲身ニ差込ミ發射スルニハ破裂矢ヲ用フ其矢身ハ鐵製圓筒形ニシテ三角錐形ノ鐵鏃ヲ付シ之レヲ砲身ニ差入ル、モノナリ其矢羽ハ鐵製トス矢身ニハ爆發藥ヲ裝シ火門ノ内部ニ導火線ヲ固定シ別ニ藥筒ヘ火藥ヲ裝シ之レニ火門ヲ付シ砲身ニ差入レ發射スルハ導火線ニ火ヲ移シ鯨体ニ命中スレハ内部ノ火藥爆發スル趣向トス(第九十版參看)

又小銃ハ鋼鐵製圓筒形ニシテ後部ニ螺旋ヲ裝シ之ヲ火門ノ部分ニ螺旋ス銃床ハ胡桃材ヲ用フ矢ハ銃製圓筒形ニシテ三角錐形ノ鐵鏃ヲ付シ矢羽ハ鐵製トス矢身ニ爆發藥ヲ裝シ火門ノ内部ニ導火線ヲ固定スルコト前記ノモノト同シ此小銃ニハ破裂矢及銃ヲ銃口ヨリ挿入シ双手ニテ把持シ之レヲ發射スルモノナリ(第九十一版參看)其他ボムプランス及銃ハ其製作特ニ斬新ナル點ヲ見スト雖トモ双發中砲及小銃ノ如キハ範ヲ歐米ノ製法ニ取リ漸ク意匠ヲ加ヘタルモノナリ全人ハ多年獵銃製作ニ從事シ近年更ニ捕鯨銃ヲ創製セリ今回出陳セル所ノモノ概シテ考案製作共ニ良好ナリ他日遠洋捕鯨法ノ發達スルニ伴ヒ是等銃砲ノ需用漸ク多キヲ加フルニ至テハ斯業ヲ裨益スルコト蓋シ渺ナカラストス

銃殺捕鯨業 長崎縣平戸瀬戸捕鯨組出品ノ捕鯨銃並ニ火箭及銃ハ平戸町國反卯十郎副嶋清三郎坂本政之助等ノ製作

ニ係リ主トシテ米國ノ製ニ則リタルモノナリ抑モ平戸瀨戸捕鯨組ハ夙ニ米國ノ捕鯨式ニ倣ヘ銃殺法ヲ用フルコト十有餘年ノ久シキニ亘レリ當初ハ之レカ經驗ニ乏シク且ツ銃砲ノ適當ナラサルカ爲メ獵獲セルモノ甚ク尠ナカリシカ爾來器械ニ改良ヲ加ヘ獵業ノ規模ヲ擴張スル等刻苦經營ノ結果近年獵獲ヲ増進スルニ至レリ抑モ我邦ニ於テ歐米捕鯨法ニ倣フモノ尠カラスト雖トモ率先米國式銃殺法ヲ用サタルハ平戸捕鯨組ヲ以テ第一位ニ推スヘシ而シテ古來ノ複雜ナル獵法ヲ革メ勞費ヲ節減シ漁利ヲ増進スルニ至リタルハ畢竟地形ヲ利用スルニ依ルト雖トモ多年ノ經驗ヲ積ミ共同一致克ク其業ヲ保持スルニ由ラスシハアラス是今回進歩褒賞ノ典ニ與リタル所以トス左ニ解説ニ記スル所ノ業務沿革ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

平戸瀨戸捕鯨組ハ明治十三年長崎縣橋成彦亞米利加捕鯨器ヲ以テ銃殺捕鯨ヲ爲シタルヲ始トシ元平戸捕鯨會社大日本水産會社等ニ於テ繼續セシカ捕獲三頭以下ニ過キサリシモ明治廿四年ヨリ地方ノ有志相謀リ器械ヲ改良シ獵法ヲ擴張シテ營業シ來レリ今其器械改良發明ノ點ヲ舉ケンニ從來使用セル銃砲ハ皆ナ舶來品ナレトモ重量過大使用上不便ニシテ時トシテハ其反動力ノタメニ銃手ノ倒ル、カ如キ危險アルヲ以テ明治廿五六年之レカ改良ニ注意シ焦慮經驗ノ末銃身ノ臺尻ヲ五分短メ筒尻ヲ距ル六寸位ノ所ヨリ筒先マテ漸次銃身ノ厚サヲ減シ重量凡ソ三百匁ヲ減シ大ニ便利ト安全トヲ得タリ

火箭モ銃器ト同シク亞米利加製ヲ使用シ來リタリシカ全部鑄鐵ヨリ成リ羽根付ノ最極部ヨリ點火スルモノニシテ年數ヲ經ルニ從ヒ火藥ノ勢力薄弱トナリ又タ鑄鐵ノ内部ヨリ錆ヲ生シテ導火ヲ害シ命中スルモ破裂セサル等ノ欠點アリテ改良ノ必要ヲ感シ明治二十年舶來品ニ換シテ試製セシモ好果ヲ得ス之レカ改良ヲ副島清二郎ニ托セシニ今人ノ工風ニヨリ廿四年ニ米國製ニ倣ヒ試作セシニ較シ結果ノ見ルニキアリ因テ更ラニ試作再三遂ニ二十六年ニ至リ現今使用スル所ノ火箭ヲ得タリ其改良ノ要點ヲ摸型ヲ米國ニ取リテ之ニ自由ニ火藥ヲ入換ルコトヲ得セシメ外部ヨリ導火スルヲ内部ヨリスル

モノトシ鑄鐵ニテ破裂力微弱ナリシヲ鋼鐵ノ卷金銅管トシテ爆發ヲ強大ナラシメタリ此改良以來低廉ニシテ便利ナルモノヲ容易ニ需要スルヲ得ルニ至レリ

猪ハ鯨體ニ投射シ之レニ附シタル網ヲ引ケハ其莖屈曲シテ脱スルコトナク鯨ノ行クトコロニ網ヲ延ヘ船ヲ進ムルコトヲ得セシム

右改良ヲ加ヘタルヲ以テ二十四年二十五年ハ六頭二十六年ハ八頭二十七年ハ二頭二十八年ハ十一頭二十九年ハ六頭ヲ捕獲セリ是レ銃砲及ヒ火箭改良ノ結果トス

捕鯨業 長崎縣五島捕鯨組ノ出品ハ鯨掛網勢子船持雙船雙海船鋸鋸等七種ニシテ該地捕鯨ノ狀況ヲ示セリ而シテ網ハ長二十尋幅二十二尋ニシテ網目ハ五尺二寸ニ製シ網數二百四一反ノ網ヲ製スルニハ六十房ヲ用フ其一反ノ長サ二十二尋打目方八百四十匁トス浮子ハ桐ヲ用サシ長サ一尺五寸ニシテ一尺餘ノ距離ニ付シ而シテ一反ノ網ニハ四十一個ヲ付又タ勢子船ハ長七尋巾七尺ニシテ輕捷ヲ主トスル爲メ船首ヲ尖ラセ船體ハ紅白粉ヲ鯨油ニテ溶キ其他灰墨等ノ塗料ヲ以テ彩飾ヲ施シ持雙船ノ製作モ亦前記ノ如シ雙海船ハ長八尋半巾一丈三尺其形扁平ニシテ能ク多量ヲ搭載スヘシ

鋸ハ生鐵ニテ製シ其量一貫八百目長サ三尺四寸巾三寸之ニ付ケル矢細ノ長ハ七丈ニシテ量目百八十匁トス鋸鋸ハ鋼鐵ニテ製シ其長サ二尺五寸量一貫八寸ニシテ「カッス」一房ノ長二十二尋量二貫八百匁ナリ鋸鋸ノ根芽ハ長サ七尋量八百三十匁ニシテ常ニ鋸頭ニ接ス手形庖丁ハ量二百目長サ一尺二寸トス

以上ノ獵具ニシテ改良セシ要點ハ網ヲ編成スル苧繩ノ原料ヲ撰ミ細ク製シテ其量目ヲ減セシメ網一反ノ巾ヲ廣クシ反數ニテハ一反ヲ減シ十七匁トナシ以テ網船ヲシテ輕捷ナラシメ加之網數ヲ漸次増加シテ捕獲上ノ便利ヲ圖リタリト云ヘリ抑五島捕鯨組ハ古來有川魚目兩村分離ノ組織ニ係リ創始以來數百年間連綿事業ヲ繼續セシト雖トモ毎ニ兩村ノ間ニ紛議百出シ隨テ其獵業モ亦一盛一衰アルヲ免カレサリシカ嚮キニ兩村ノ捕獲業者ヲ統合シテ一會社ヲ組織シ且獵具ヲ改良シ

捕獲ヲ増進シ途ニ否運ヲ挽回スルニ至レリ而シテ兩村捕鯨業者ノ統一ヲ謀リ一會社ヲ組織スルニ方リ專ラ斡旋ノ勞ヲ取
 リタルハ佐賀縣川原又藏ニシテ同人ハ從來兩村分立シテ捕鯨業ニ從事スルノ不利ナルヲ看破シ幾多ノ困難ヲ排シ之ヲ統
 合セシメ株式會社ノ組織ニ革メ其規模ヲ擴張セシメタルハ最モ同人ノ與テ力アリトス今回博覽會ニ於テ五島捕鯨組ハ有
 功一等賞ヲ受ケ川原又藏亦協賛二等賞ノ榮ニ與リ其協賛ノ勞ヲ稱揚セラレタリ而シテ出品解説書ニ載スル所ノ業務沿革
 ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

捕鯨ノ起因ハ慶長三年有川魚目兩村其前海ニ鯨群ノ來遊セルヲ銛獲セルヲ本業ノ創始トス貞享元年始メテ芋製ノ網ヲ以
 テ捕獲ヲ試ミ大ニ其利アルヲ知リ爾來其法ヲ繼續セリ而シテ創業以來茲ニ三百年時ニ盛衰汚隆アリト雖トモ未ダ會テ一
 期モ廢業セス連綿營業セリ然ルニ從來ハ有川魚目兩村各別ニ分離ノ營業組織ナリシモ狹隘ナル兩村間ノ入海ニ於テ同時
 ニ捕獲ヲ爲スニ當リ海面ノ分界判然タラサルヲ以テ動モスレハ紛争ヲ醸シ爲ニ捕獲ノ機會ヲ失フコトアリシカ明治十七
 年佐賀縣人川原又藏ナル者大ニ之ヲ慨シ兩村ノ間ニ周旋シテ之レカ合同ヲ計リ爰ニ初テ會社組織トナシ自ラ社長ノ任ニ
 當リ事業ヲ整理擴張シ着々其功ヲ收メタリ而シテ初メ株主ハ少數ナリシカ二十七年ニ至リ松本操八郎首唱ニ依リ分擔株
 ヲ全村共有トスルコトニ決シ遂ニ村事業トセリ爾來業務ヲ整理シ捕獲方ヲ改良シ年々漁獲ヲ増進セリ而シテ獵法ノ概要
 ハ左ノ如シ

勢子船十七隻各十二人乗波座士一人ヲ置キ櫓八挺ノ内二挺ハ一人漕六挺ハ二人漕ナリ持双船八隻各十三人乗波座士二人
 櫓ハ勢子船ニ同シ双海船十四隻各十人乗船頭一人櫓七挺立網付船六隻及納屋船一隻乗組人及櫓立ハ勢子船ニ同シ
 鯨ノ來遊スルヤ先ツ陸上數ヶ所ニ設クル所ノ魚見舎ニテハ旗又ハ燃火等ヲ以テ信號ス此時二隻ノ沖波座船ハ直ニ各船ヲ
 指揮シテ鯨ノ遊路ヲ見計リ双海船ヲシテ網ヲ半月形ニ布設セシメ聲ヲ揚ケ舷ヲ叩キテ網ノ方ニ驅逐ス而シテ鯨ノ網ニ罹
 ルヤ各船争フテ銛ヲ投射シ下波座士ハ手形庖丁ヲ携テ海ニ入り鯨鼻ヲ貫キテ網ヲ結ヒ其一端ヲ船ニ傳ヒテ鯨ヲ亂刺シニ

ノ持双船ノ間ニ繋キ以テ陸ニ曳行クナリ

捕鯨業 山口縣川尻捕鯨組ノ出品ニ係ル鯨獵模型ハ數頭ノ通鯨獵場ニ來ルヤ數十隻ノ漁船左右後三方ヨリ蟻集シテ
 之ヲ獵獲セントスル實況ヲ示スモノニシテ添フルニ網銛劍等ヲ以テス漁船漁夫等模型ノ製作良好ノミナラス總テ出陳ノ
 趣向用意周到ニシテ觀者ヲシテ鯨獵ノ狀況ヲ知ルニ便セシム川尻捕鯨組ニ於テ目下實施スル所ハ網ト銛ト併用シテ捕
 獲スルモノニシテ其獵法ハ古來本邦各地ニ於テ行ハル、モノト大差ナシト雖トモ其地勢最モ捕鯨業ヲ營ムニ適シ當業者
 亦其業務ニ精練ニシテ能ク網具ノ改良ヲ圖リ近年漸ク盛況ヲ呈スルニ至レリ抑該捕鯨組ハ村內組主ノ組織ニ係リ漁夫ハ
 皆村內ノモノヲシテ捕鯨ニ從事セシメ常ニ之レヲ養成スルノ方法アリ而シテ捕鯨業ノ創始ハ遠ク元祿年間ニアリテ實ニ
 二百年來連續其業ヲ繼承シ常ニ閩村ノ富源ヲ致セリ維新以降各地概シテ捕鯨業ノ衰廢セルモノアルモ該組ハ依然トシテ
 之レヲ經營セリ是レ蓋シ地勢ノ便與リテ力アリト雖トモ抑當業者協同一致能ク節度ヲ守リ業務ニ勵精スルニ由ラスンハ
 アラス今回ノ博覽會ニ於テ有功一等賞ノ榮ニ與リタルモノ亦之レカタメナリ

本組ニ於テ獵具ノ改良上ニ關シ解説ニ載スル所ノ概要ヲ摘記スレハ芋製ノ原料ヲ撰ミ從前ハ肥後右見廣島等ヨリ買入レ
 使用セシカ近年長門萩川上芋ニ改メタルコト第二ハ舊來ノ網ハ原量七八百目ヲ以テ三口引(六筋)網一房トナシ二十五尋
 内外ニ打上ケ五十五房ニテ調製セシカ屢、罹鯨ノ爲ニ破壞セラル、コトアルヲ以テ近年ハ原量九百三十夕ヲ以テ一房ト
 シ之ヲ二十七尋宛九本ニ絢ヒ三口引ニナシ之ヲ二十尋ニ打上ケ五十五房ヲ以テ一反トナシ而シテ曲尺五尺目ニ編ミ長サ
 四十目高サ二十目ノ網ニ改良セリ第三從前ハ網裾ニ藻切ト稱シ古網ヲ五目付ケタリシカ近年通鯨ノ線路多クハ沖合ニナ
 リタルヲ以テ明治二十八年ヨリ本網ト藻切トノ間ニ細網十尋ヲ付シ網ノ深サヲ増シタルモ結果宜シカラサルカ故繩網ヲ
 除キ網裾ノ藻切網五目ナルヲ八目ヲ付クルコトニ改良セリ第四ハ從前ハ地ノ手繩網ハ十反許用ヲタリシカ近年之レヲ三
 十反ニナシ又沖ノ手ニ三十反ヲ増スコトニ改良セリ第五ハ獵船ノ改良ニシテ從前ノ網船ハ十六積ヲ用ヒ之レニ漕船ヲ

付ケタリシカ近年ハ八反積トナシ網船漕行ノ手數ヲ省キ操縦ニ便シ輕捷ニシテ進退自由ナラシムルコトニ改良セリ又近年ニ至リ持双船ノ外大持双船ヲ造リ怒濤ノ際ニモ使用ニ堪ルコトニナセリ其他網ノ使用及漁夫養成法等ノ諸點ニアリト云ヘリ又業務沿革ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

元祿十一年藩ノ許可ヲ得テ創業シ正徳四年ニ至リ初テ庄屋ヲ置キテ之レヲ保護セラル寛政享和ノ間不漁存リニ續キ文政四年ニ至リ維持ニ耐ヘサルヲ以テ負債ト器具一切ヲ藩主ニ任セ其指揮ヲ仰クニ至レリ弘化二年ヨリ波戸新築ニ着手シ延長百間巾六間水面ヲ拔クコト四間ニシテ五ヶ年ニシテ竣工セリ之レ實ニ當浦捕鯨ノ基礎ナリトス安政三年以來屢ニ事業ニ盛衰アリ組織ニ變更アリタリト雖トモ負債ニ耐ヘヌシテ明治四年廢業ノ議起リシカ途ニ組主十二名之レカ維持ノ任ニ當リ負債ヲ償却シ茲ニ於テ斯業全ク十二名ノ共有ニ歸スルニ至レリ爾來組織ヲ改良シ業務ヲ擴張シ漸次盛運ニ赴キ大ニ利益ヲ見ル爾來一浦和協益、捕鯨法ヲ改良シ大ニ利益ヲ得タリ明治九年瀬戸崎浦沖浦網代ヲ再興シテ支組ヲ設ケ明治十九年黃波戸漁場竹ノ子網代ヲ合併營業シ逐年捕獲ヲ増シ二十一年ニハ二十二頭ヲ獲純益壹萬七千圓ヲ得タリ二十一年ニハ三十頭純益二萬三千圓ヲ得タリ爾來事業益々舉リ本年度ハ本支組ノ利益ヲ合セテ四萬圓ノ巨額ニ上レリ

獵具ハ芋網、籠網、網具、鉅劍等ニシテ網船、繩網、船追船、持双船、大持双船等二十八艘ニ沖合親仁網戶親仁宿老大網船頭船頭羽刺押狩棒叩魚見魚切船網子會社使丁笠筒持等ト稱シ總テ二百五十八人ノ人員ヲ要ス

獵法ハ便宜ノ高處ニ五ヶ所ノ魚見ト指揮羽刺等ヲ設置キ見張者ヲシテ鯨ノ來遊ヲ報セシム報ニ接スルヤ漁夫ハ聲ニ應シテ海濱ニ集リ各、先ヲ爭フテ出船シ勢子船ハ沖合ニ漕出テ他ハ網代ニ配列ス既ニシテ勢子船ハ漸次鯨ヲ網代ニ誘致シ來ルヲ以テ網船ハ山上ノ指揮及ヒ親仁ノ指揮ニ從テ張網ス其狀恰モ鰻搔ノ如シ張網終レハ追船及地方ニ待受ケタル勢子船ハ山上ノ指揮ニ應ジテ驅棒木槌等ヲ以テ舳ヲ敲キ嚴シク驅逐シテ網裡ニ追込ミ口網ト稱スル灣内ニ追入レ其入口ヲ塞キ驅逐愈急ヲ加ヘ鯨ヲシテ驚駭狼狽シテ網ニ罹ランム而シテ鯨ノ網ニ罹ルヤ俄然トシテ白浪ヲ蹶起スルヲ以テ追船ハ先ヲ

爭フテ疾漕シ機ヲ計リテ投鉅シ直ニ海ニ飛入り手形庖丁ヲ以テ鯨鼻ヲ穿ツ之レト同時ニ舳押ハ鼻網ト稱スルヲ以テ之レヲ結附シテ網ヲ結束ス是網ヲ脱スルノ恐レアレハナリ然後双海船ニ渡ス網船ハ膽貫ニ結ヒ各自ノ船ヨリ網ヲ垂下シ鯨ノ逃路ヲ遮ル而シテ羽刺ハ持双船ニ移リ鯨ノ浮フヲ見テ頻リニ劍ヲ加ヘテ殆ント死ニ至ランシメ持双船ヲ並ヘ持双船ヲ横タヘ鼻及手形ニ通シタル網ヲ以テ頭部ヲ釣リ揚ケ胴ヨリ少シク下リタル所ニ網ヲ廻ハシ尾部ヲ釣リ勢子船總掛ニテ波戸場ニ漕歸ル(第九十一版參看)

捕鯨業 高知縣津呂浮津兩捕鯨會社ハ鯨網其他網類、鉅類、樽類等獵具一式ヲ出陳シ添ルニ捕鯨誌ノ一書并ニ捕鯨圖ノ扁額ヲ以テシ土佐海ニ於ケル鯨獵ノ狀況ヲ詳悉シ斯業ニ裨益スルコト尠ナカラスト抑土佐海ノ捕鯨ハ其起原遠ク往古ニアリト雖トモ後世中絶シ慶安中間ニ至リ再興シ爾來盛衰變遷アリト雖モ天保年間其網代ヲ幡多郡窪津、安藝郡椎名ノ兩所ニ定メ網取法ヲ行ヒ藩廳管轄ノ下ニ在テ事業ヲ繼續シ安政年間ニ至リ津呂浮津兩組ノ入會トナリ而シテ近年土地ノ有志相謀リ遂ニ捕鯨會社ヲ創立シ一ヲ津呂捕鯨株式會社一ヲ浮津捕鯨會社トシ幡多安藝兩郡ノ網代ヲ二會社ニ於テ隔年交代シテ獵業ニ從事スルコトニナレリ斯ノ如ク二會社ハ互ニ相俟テ業務ヲ營ミ從テ獵具獵法等モ二會社ニテ實行スル所多クハ同一ノ形式ヲ用フ是レヲ以テ今回ノ出品ニ於テモ其趣向大差ナシトス然ルニ津呂捕鯨會社ハ獵具ノ構造法等ヲ改良シ漸ク實効ヲ奏スルニ至レリト云フ而シテ津呂捕鯨株式會社カ改良セル要點ヲ解説書ヨリ摘記スレハ左ノ如シ

一、鯨網ハ網芋ノ素質ヲ精良ニセシコト

從前ハ大阪地方ヨリ太田芋ヲ買入使用セシモ品質脆弱ニシテ猛鯨ノタメニ屢ニ網目ヲ破ラレタリシカ明治二十四年以來廣嶋縣川上筒川産ノ精良品ヲ需用スルニ至リ網目切斷ノ憂ナシ

一、長網ヲ増加セシコト

従前ハ海深二十四五尋以下ノ網代ニ使用シソレヨリ以上ノ深所ニ於テハ使用スルコト能ハサリシカ長網ヲ増加セシタメ
三十四五尋ノ網代ニ於テ能ク之レヲ使用スルヲ得且網ノ重量ヲ増シタル結果鯨ノ疲勞ヲ速カナラシムルノ効力アリ（第
九十二版ノ一參看）

一樽浮子ヲ廢シ桐浮子ヲ用ルコト

樽浮子ハ鯨ノ網ニ罹リ奔逸スルニ當リ破壊シ易キヲ以テ鯨ノ脱網セシトキハ網沈下シテ海底ニ遺棄スルノ虞アリ桐浮子
ハ斯ノ如キ失ナキノミナラス猛鯨ノ罹リテ奔馳スルニ方リ潮水ノ抵抗ニヨリ鯨ヲ牽制スルノ効力アリ

一藁繩網

藁繩網ハ明治九年海深十八尋網四十反ヲ製シ全十一年マテ使用セシモ得ルトコロナクシテ廢絶セシカ明治二十七年ニ至
リ其使用法ヲ研究セシ結果大ニ其効ヲ收ムルニ至レリ（第九十二版ノ二參看）

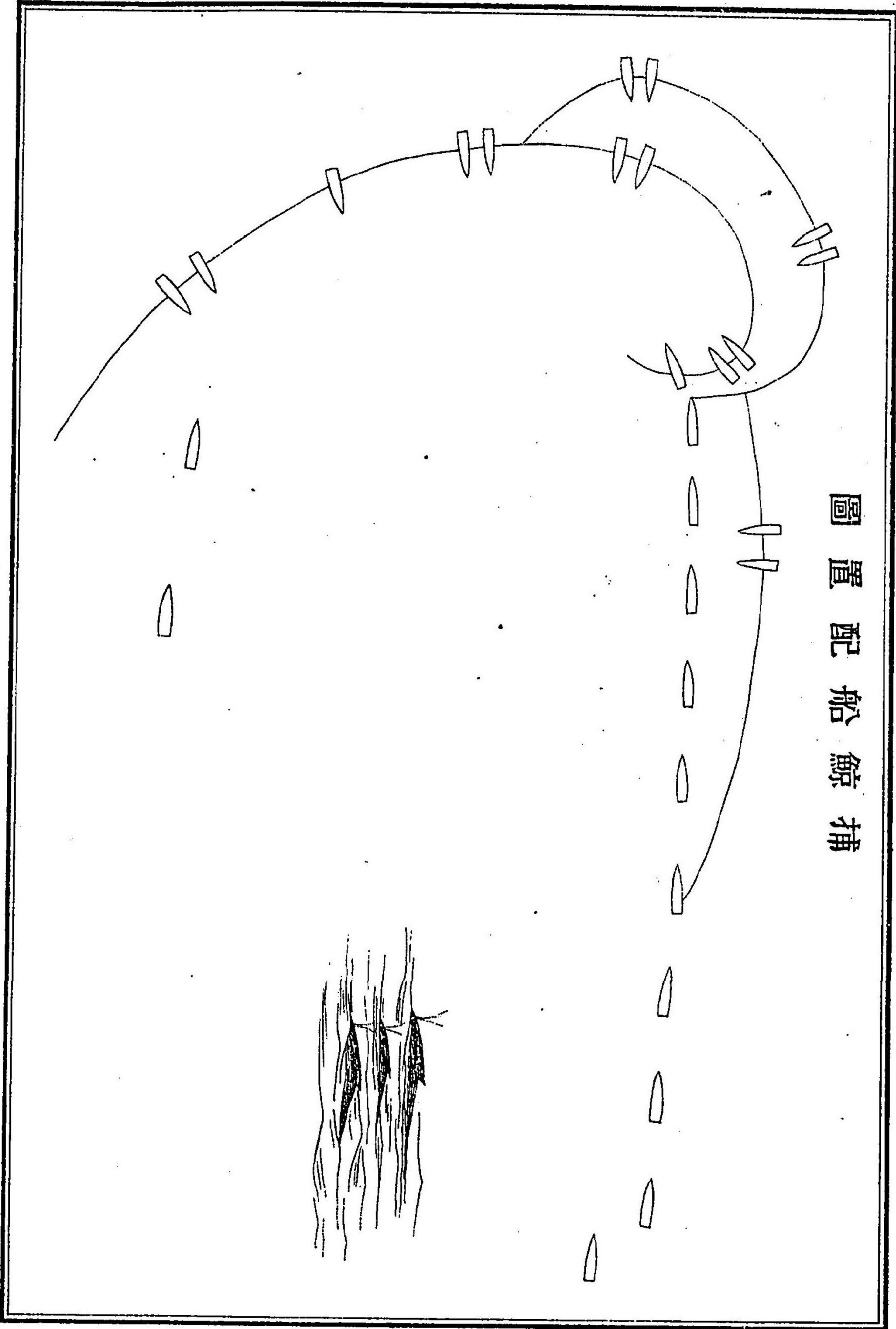
一、大鉆中鉆樽鉆

舊來ノ鉆ハ鉆及外面へ曲張シ下及ト上ノ間短キニ失シ之ヲ投射スルモ鯨体ニ貫通スルコト淺ク往々脱出又ハ切斷スル
コトアリ巨大ナル長簀鯨等ニ於テハ殆ト其効ナシ改良鉆ハ鉆及長ク鉆莖延長重量増加セシ故深ク鯨体ニ貫通シ猛鯨ニ用
ルモ脱却切斷等ノ憂ナシ（第九十三版參看）

一、曳セ樽

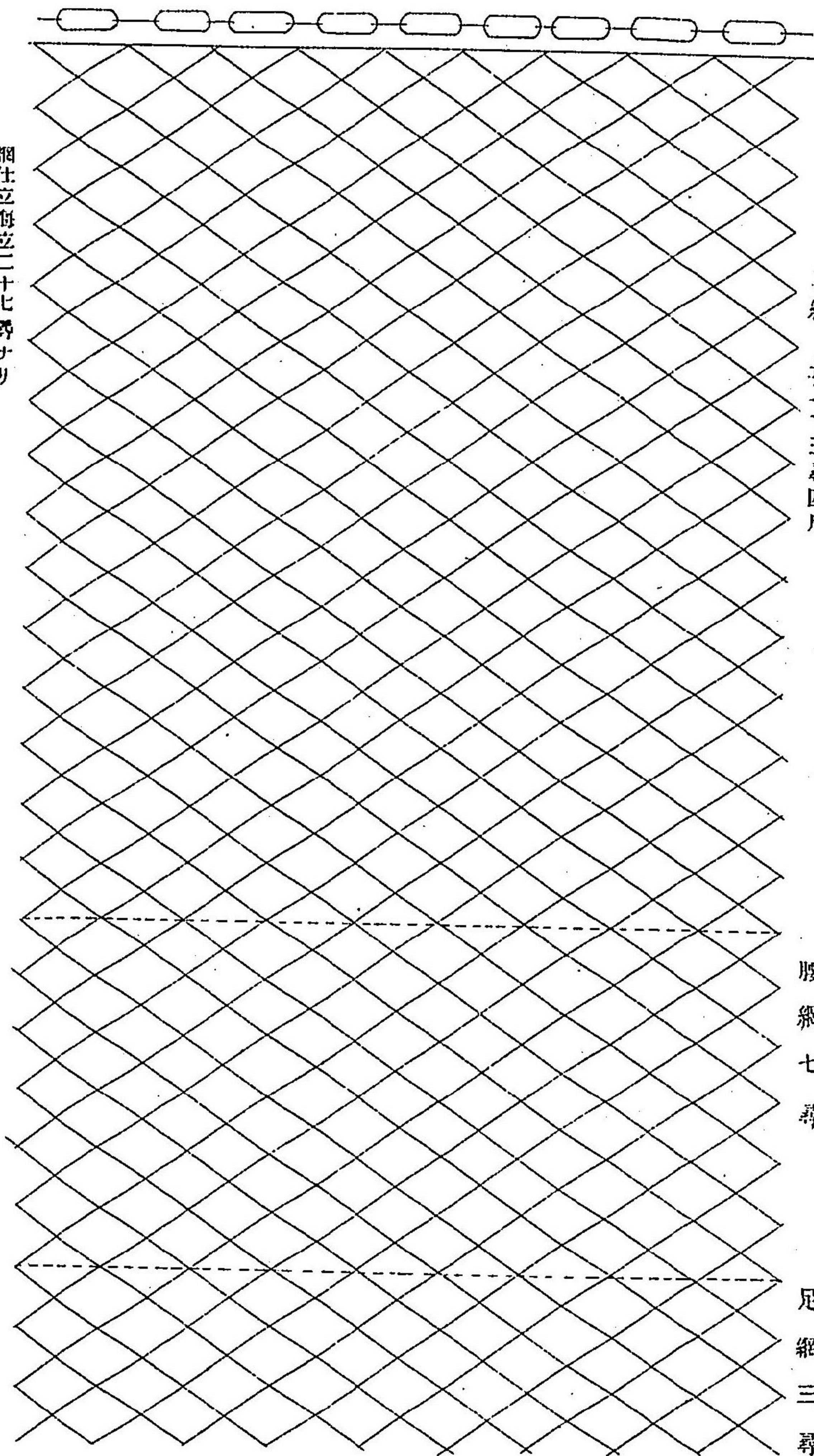
從來ニ比シ一層厚板ヲ用ヒ構造ヲ堅固ニナシ舊來勢子船一艘ニ一個宛備ヘシヲ改メテ各船二個又ハ三個宛ヲ備付長簀鯨
ノ如キ巨大ナルモノニ於テハ鉆毎ニ此曳セ樽ヲ付ケ潮水ニ抵抗セシメテ泳行ノ自由ヲ妨ケ鯨ヲシテ深ク沈没シ得サラシ
ム

浮津捕鯨會社ノ出品ハ前記セルカ如ク獵具ノ構造及獵法等總テ津呂ト大同小異アルノミ然レモ率先新式ヲ求ムルコトヲ



圖置配船鯨捕

子 浮 桐



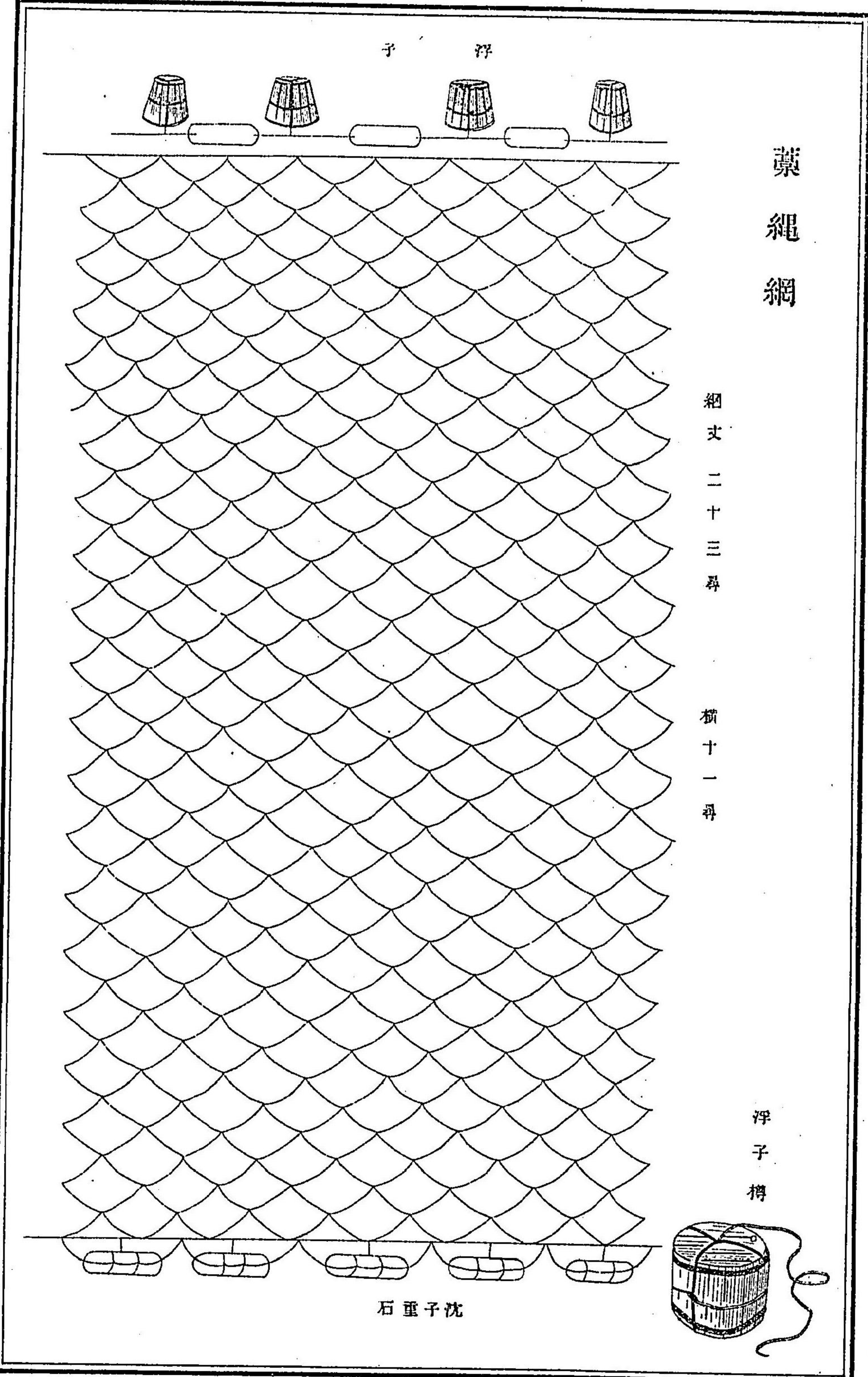
鯨 網

改良長網 新製 長二十三尋四尺

三年古網 腰網七尋

足網三尋

網仕立海立二十七尋ナリ
蓋シ従前長網ト称スルモノハ腰網四尋ニシテ海立二十四尋ナリシヲ
明治廿四年改メテ図ノ如ク延長セリ

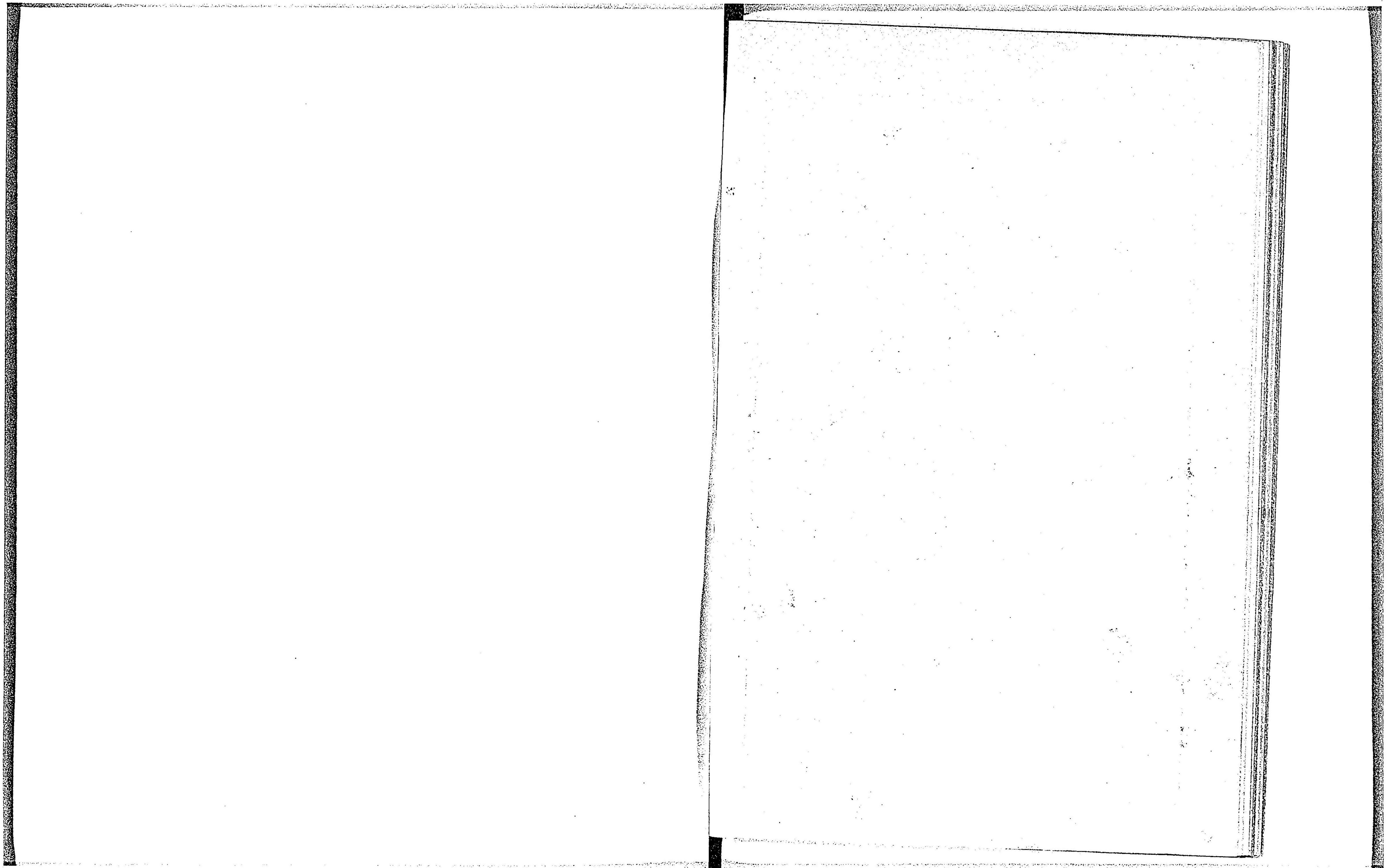


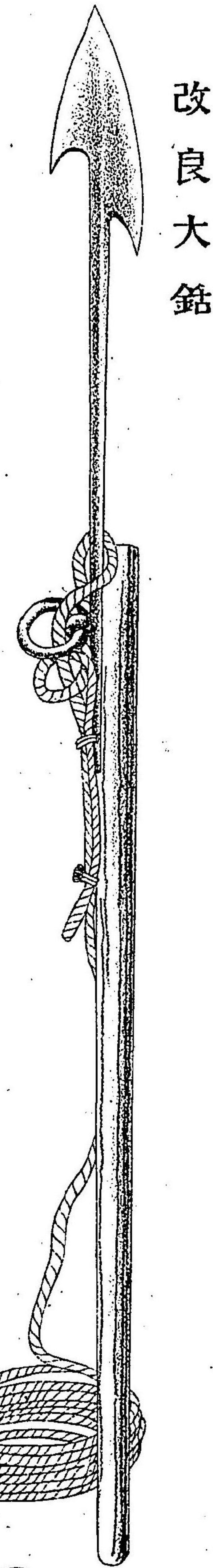
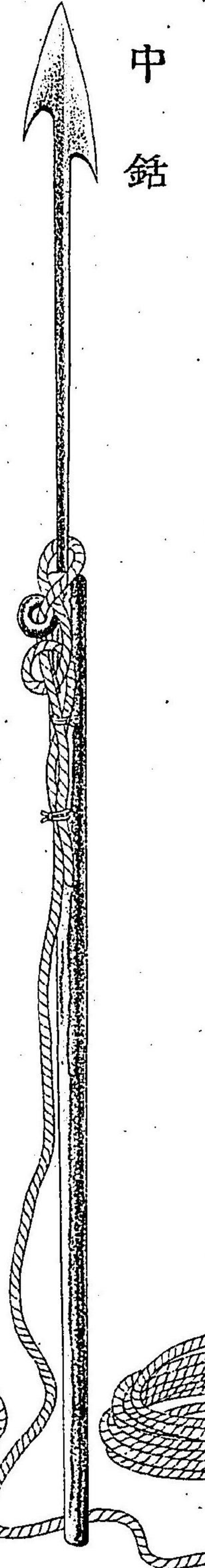
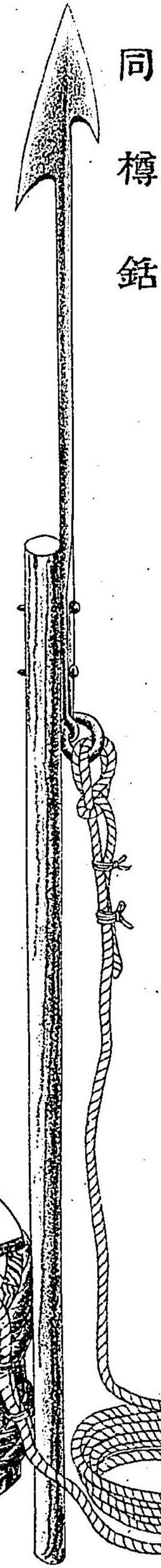
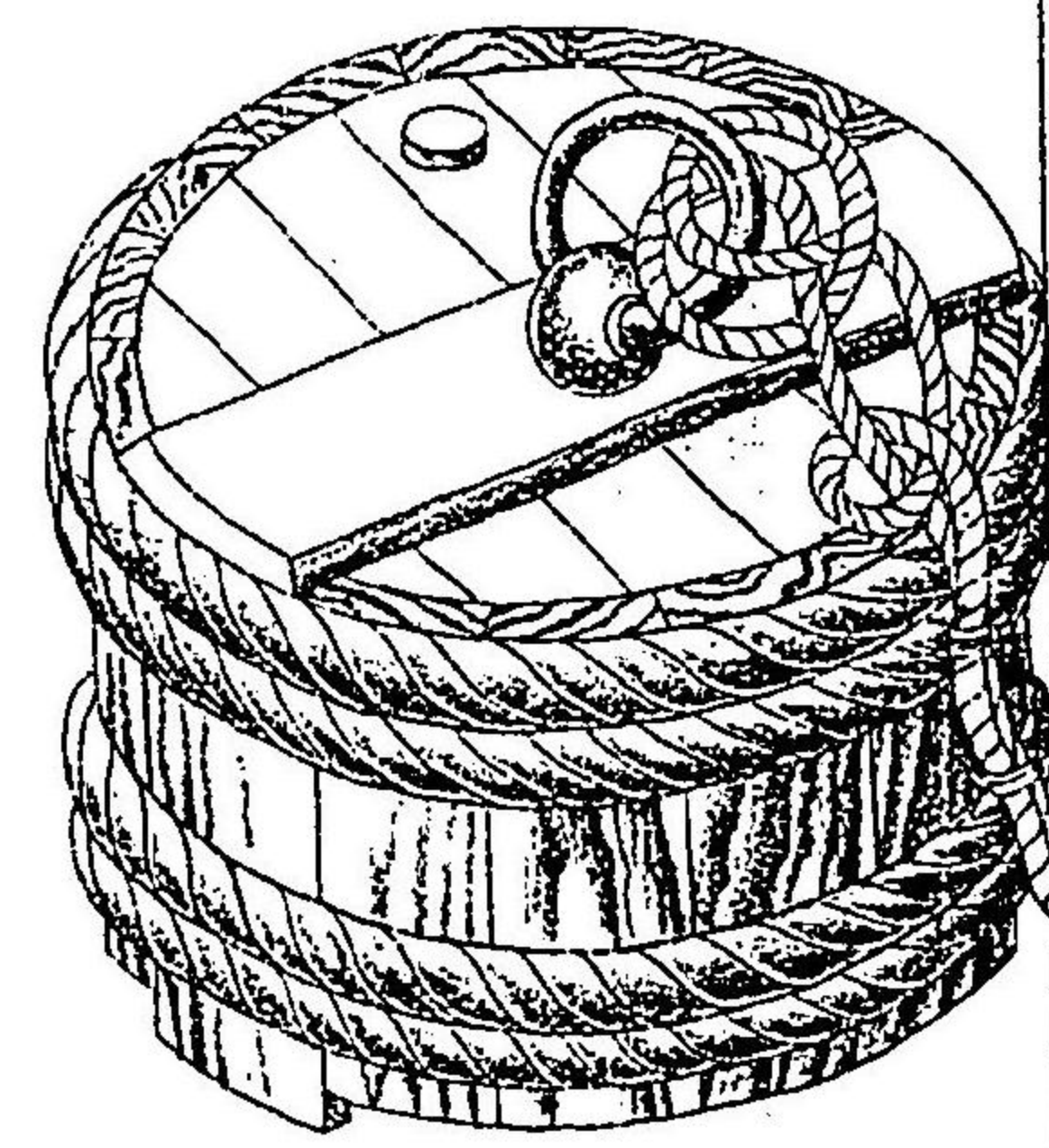
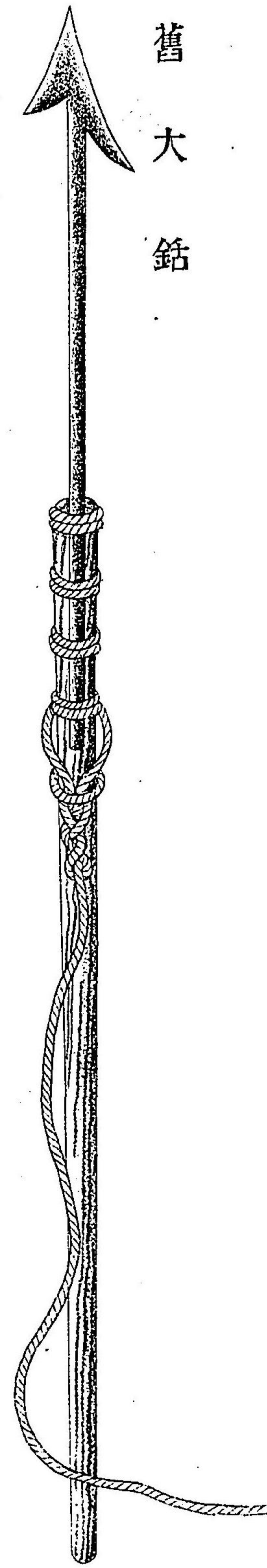
藻縄網

網丈二十三尋
横十一尋

浮子樽

石重子沈





爲サ、ルヲ以テ捕鯨具ノ構造使用法等特ニ改良ノ蹟アルヲ認メスト雖モ多年土佐海ノ捕鯨ニ從事シ津呂捕鯨會社ト相俟テ常ニ能ク利益ヲ收ム今回出陳セル所ノ獵具其他捕鯨沿革史ハ克ク其狀況ヲ詳悉シ營業者ノ參考トナスニ足レリ而シテ以上兩會社ノ出品解説書中ニ載スル捕鯨沿革ノ大要及獵法ヲ摘記スレハ左ノ如シ

土州捕鯨ノ起源ニ就テハ諸説紛々トシテ歸一スルトコロナシト雖モ蓋シ會テ往古ヨリ行ハレタリシカ後世中絶シ慶安年間ニ至リテ更ニ紀州ノ捕鯨法ヲ傳ヘテ再興セシモノナリ然レモ當時漁夫其技ニ習ハサルト器具不完全ニシテ單ニ銛ノミヲ使用セシトヲ以テ收支相償フコト能ハスシテ紛議百出遂ニ復廢絶ノ免ルヘカラサルニ至レリ其後漁民活路ニ苦ミ藩主ニ哀訴シテ再興ヲ請フ藩主因テ舟楫ヲ備ヘ獵具ヲ製シ漁夫ヲ募リ村民ヲシテ之ニ從事セシム天和二年某ヲ紀州熊野捕鯨場ニ遣ハシ捕鯨ノ狀況ヲ調査セシメ天保三年某歸村シ而シテ幡多郡窪津安藝郡椎名ノ兩所ヲ網代ニ定メ初テ網取法ヲ行ヘリ爾來時々盛衰變遷アリト雖モ藩政管轄ノ下ニ在リテ繼續シ來リシカ安政年間津呂浮津兩組ノ入合トナリ明治維新ノ際廢藩置縣ト共ニ縣ノ授産係ニ於テ之ヲ繼續シ請負人ヲシテ之ヲ實施セシメタルモ請負人中種々ノ弊害ヲ生シ從テ器械ノ修繕等モ行ハレヌ遂ニ使用ニ堪ヘサルニ至リ捕獲大ニ減シ殆ト廢絶ニ歸セントセシカ岩崎權令等ノ盡力ニヨリ僅ニ之ヲ支フルヲ得タリ明治七年縣廳ハ斯業獎勵ノ爲メ授産係ニ於テ執業管理スルコト、シ千八百圓餘ノ利益ヲ得之ヲ永年捕鯨業ノ資本金トシテ給與セラレ加フルニ漁船漁具等悉皆貸與セラレタリ斯ク保護獎勵ノ結果土地ノ有志者相謀リテ捕鯨會社ヲ創立セリ而シテ漁場ハ東室戸岬西ハ蹉陀岬ノ二ヶ處トシ毎年十一月ヨリ翌年三四月マテヲ獵期トシ津呂組浮津組隔年交代シテ捕鯨ニ従事スルコト、爲シ漸次規模ヲ擴張シ獵法ヲ改良シ以テ現今ノ盛大ヲ致スニ至レリ

漁船漁具及漁法ノ概畧ハ漁船ニアリテハ勢子船(長サ四丈七尺巾六尺八寸)網船(長サ四丈二尺巾八尺五寸)持雙船(長巾共網船ニ同シ)ノ三種ニシテ其乘組員ハ兩會社多少ノ差違アリト雖モ概シテ勢子船ハ十二人網船ハ八人乘持雙船二艘アリ津呂ニハ勢子船十五艘アリ其他ハ浮津ニ同シ此勢子船ハ船首銳尖ニシテ其構造輕捷ヲ主トシ鯨油ヲ以テ各種ノ顔料ヲ

溶キ全体ヲ彩色スルナリ網船及持雙船ハ形状扁平ニシテ搭載ノ多キヲ主トス網ハ芋製ニシテ長キハ丈三十尋短キハ十八尋(横目十一暨目二十九乃至四十目一目四尺六寸)ニシテ一反ノ重量二十二乃至三十貫下部ニ足前ト唱フル芋麻製ノ網アリ垂レ三丈六尺重量三貫ナリ而シテ此網二百三十五反ヲ以テ一組トス浮樽ニ二種アリ一ヲ浮樽ト稱シ(水一斗入位)網ノ上方ニ結ヒ一反ニ三個ヲ附著シテ其沈没ヲ防ク一ハ曳セ樽ト稱シ勢子船ノ積載スルトコロノ大鉆ノ索ニ約ス是鯨ノ動作ヲ妨ケンカ爲ナリ浮子ハ一ハ桐材ニテ製シ長二尺巾五寸ノモノヲ網百五十六反ニ壹千三百七十六枚ヲ附著シ殘九十九反(ハ杉材ノ長二尺巾五寸ノモノヲ二百九十七枚ヲ附著ス早鉆(長一尺五寸重量八九十夕三十二本大鉆(長三尺二寸重量一貫二百夕)五十本ヲ要ス早鉆ハ鯨ノ網ニ纏ヒ狂跳出沒スルニ方リテ之ヲ投シ大鉆ハ早鉆ヲ投シタル後鯨ノ船ニ近ツクニ臨ミ之ヲ投ス此鉆ニハ一本毎ニ萬網三房長サ五十一尋(一房麻芋二貫五百目ニテ作ル)大爲知網六房長サ百十尋小爲知網五房長サ九十尋等ノ網ヲ接續シ索端ニ曳セ樽ヲ結付ケ鯨ノ深ク海底ニ潜没スルヲ防キ且其動作ノ自由ヲ妨ケ捕獲ヲ容易ナラシム劍(長四尺七寸巾三寸七分重量二貫目)ハ勢子船ノ搭載スル所ニシテ鯨ノ勢力ヲ挫折スルニ際シ其腹ト肋トノ間ニ刺シ潮水ヲ臍内ニ浸入セシムルノ用ニ供ス其數ハ十六振アリ手形庖丁ハ羽差ノ使用スル所ニシテ手形網ヲ挿入スル爲メ鯨背ヲ穿ツニ用ヒ長柄庖丁ハ鯨ノ海岸ニ著スルヤ魚切ト稱スル漁夫十一名此ヲ以テ適宜ニ切斷スルニ用ユ

每船羽刺一名ヲ乗ス即チ船長アリ羽刺ハ猛鯨ニ向フテ七八間ノ距離ヨリ鉆ヲ投シ或ハ怒濤ヲ潜泳シテ大鯨ヲ斃スコトヲ職トス故ニ羽刺ヲ撰任スルハ業務中最モ重要ノ事ニシテ其撰擧ノ方法ハ役員總會議ヲ開キ年功アル老練者ヲ以テス而シテ勢子船ニハ階級アリ其一番ヲ白船ト云ヒ二番ヲ赤船ト云ヒ此船ニアル羽刺ハ沖合ト云ヒ船ヲ沖配船ト呼フ第七番ヲ釣屋船ト唱ヒ水夫ニハ特別ニ強壯ノモノヲ撰フ故ニ進退動作ノ迅速活潑ナルコト他船ニ越ユ時トシテ社員此船ニ乘組ミ漁夫ノ勤惰ヲ監察スルコトアリ又網船ノ内ニモ赤紋黒紋ト稱スルモノアリ此船ノ羽刺モ亦沖配ト云フ鯨ノ進退及潮流ノ緩急ニ應シテ諸事ノ計畫ヲ司ルモノナリ持雙船ニモ亦羽刺ヲ置クコト他船ニ異ナラス其職分ハ勢子船ノ下羽刺ト同シク鉆劍等

ヲ使用シ又鯨ノ左右ニ到リテ其沈没ヲ防クニアリ又陸上ニハ數所ノ遠見場アリテ山見ト稱ス初メ鯨ノ遠ク潮ヲ噴キ其飛沫未ダ肉眼ニテ視ル能ハサルキ山見人望遠鏡ヲ以テ之ヲ認メ或ハ目標ヲ揚ケ或ハ狼烟ヲ擧ゲ又鯨ノ何種ナルヲ示ス此標旗ヲ掲クルヤ二艘ノ勢子沖配船ハ游鯨ノ方向ヲ計リ直ニ各船ニ指揮シテ德容鯨ノ游泳ニ尾ス其漸ク網代ニ入ラントスルヤ網船ハ網ヲ卸シテ其前路ヲ扼ス此時鯨ノ背後ニアル勢子船ハ分レテ三隊トナリ一隊ハ鯨ノ後ヲ擁シ二隊ハ其左右ヲ掩ヒ三方相寄りテ聲ヲ發シ船舷ヲ叩キ瓦石ヲ投シテ之ヲ追フ鯨爲ニ驅迫セラレテ網罟ニ纏ヒ驚駭奔騰忽チ出テ忽チ沒ス此時各船ノ羽刺ハ早鉆ヲ提テ船頭ニ立チ先ヲ爭フテ之ヲ十歩ノ外ニ亂擊ス次ニ大鉆ヲ投ス每鉆約スルニ索ヲ以テシ之ヲ船舷ニ繫キ鯨ヲシテ遠ク遁逃スル能ハサラシム狂鯨奔跳船爲ニ覆ラントスルコト數次此時急ニ劍ヲ投シテ其腹部ヲ傷ク流血涌カ如ク海水爲ニ紅シ次テ下羽刺ハ手形庖丁ヲ口ニシテ海ニ入り背部ノ孔ヲ探リ網ヲ通シ結束シテ船上ニ歸ル此間作業ノ活潑危險ナル言語ノ能ク盡ストコロニアラス實ニ壯觀ヲ極ム而シテ鯨ノ漸ク斃レントスルヤ之ヲ持雙船二艘ノ間ニ繫キ勢子船十六艘正々堂々鯨捕獲ノ旗章ヲ揚ケ一同船聲ヲ揚ケテ歸漕シ海岸ニ引揚ケテ屠殺スルナリ

捕鯨業 三重縣鈴木雄八郎出品ノ捕鯨圖ハ同縣南牟婁郡阿田和村ニ於ケル捕鯨ノ狀況ヲ描寫シ添ルニ獵具雛形ヲ以テス抑阿田和村捕鯨業タル明治八年創メテ開始セルモノニシテ其獵法等ハ専ラ古來熊野浦ニ於テ實施スル所ニ倣ヒ網鉆ヲ併用シ網船勢古船持左右船ヲ使用スルコト古來我邦ニ行ハル、所ノ捕鯨法ニ異ラス而シテ熊野浦捕鯨ヲ以テ著明ナル太地三輪崎ノ如キハ最モ良漁場ヲ占ムルト雖モ近年獵業ヲ中止シ其獵場ハ空シク荒廢ニ屬セリ然ルニ阿田和村ハ常ニ波高ク風強ク其地勢漁業ニ不便ナルニモ拘ラス創始以來能ク捕鯨業ヲ持續シ殊ニ近年獵獲ヲ増進シ漸ク盛進ニ向ヘリ是畢竟同業者銳意勉勵ノ結果ト云フヘシ而シテ出品解説書ニ載スル所ノ業務沿革及獵法ノ概要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

紀州熊野浦捕鯨ノ濫觴ハ遠ク六百年以前ニアリテ専ラ突取法ヲ行ヒタリシカ慶長年代ニ至リ網取法ノ發明アリ下リテ紀州侯ノ時藩業トナシ太地、古坐、三輪崎ノ三浦ニ於テ之ヲ營ミ其他ハ總テ禁制セラル阿田和村亦其所領ニ屬シ禁制地タ

リシカ維新廢藩ト共ニ之ヲ解除セラレタルヲ以テ明治八年始テ捕鯨ヲ企劃セリ然レモ其獵法ニ熟セルモノナキカ爲メ奏効ヲ見ルコト能ハサリシ爾來水深ニ從テ網丈ヲ増減シ又潮流ヲ計リテ網目ヲ伸縮スル等種々工夫ノ末僅ニ捕獲ヲ見ルニ至レルモ收支相償フコト能ハサリキ蓋シ阿田和浦ハ有名ナル七里御濱ノ中央ニ位シ直チニ大洋千里ノ風波ヲ受ケ更ニ灣曲ノ利用スヘキ所ナキヲ以テナリ是ニ於テ新ニ漁夫ヲシテ獵法ヲ練習セシメ組織ヲ整理シ器械ヲ改良シ今ヤ漸ク盛運ニ向ヒツ、アリ

捕獲ノ季節ハ十一月下旬ヨリ二月頃迄ニシテ二ヶ所ノ高處ニ山見ヲ置キ鯨ノ來游ヲ見張リ之ヲ報セシム即チ甲山見先ツ來鯨ヲ認ルルハ之ヲ乙山見ニ信號シ乙山見ハ螺貝ヲ吹キ漁夫ヲ集メ出船ヲ促シ更ニ信號指揮シテ鯨ノ所在ヲ報スルヤ鯨ノ游向ヲ計リテ位置ヲ定メ灣形ニ全網ノ三分二許ヲ張下セシメ鯨ノ網中ニ入レハ四方ヨリ船ヲ敲キツ、殘レル網ヲ鯨ノ後ヨリ張圍ミ勢子船持雙網船等ノ銚手相集リテ投銚ノ機ヲ待ツ鯨ノ網ニ罹リテ跳躍スレハ先ヲ爭フテ投銚ス其命中スルハ忽チ怒濤ヲ蹶起シ激浪ヲ席卷シ仰テ腹部ヲ見ハスナリ此時二三ノ銚ヲ投シ然後各船交々手形銚鑄銚等ヲ刺シ稍々疲勞スルヲ待テ劍ヲ以テ腹側ヲ突クテ數十度死ニ瀕スルニ及テ壯者一人海ニ飛入り鯨ノ鼻及下部ヲ貫キ繩ヲ通シ再ヒ胴繩ヲ掛ケ持雙船ヲ以テ左右ヨリ挾ミ鯨ヲシテ沈降セサラシメ然後各船列ヲ正シテ之ヲ引キ海岸ニ至レハ鯨尾ニ卷繩ヲ著ケテ屠場ニ引揚ク

捕鯨業 千葉縣醍醐新兵衛出品ハ鐵製ノ鯨銚ニシテ近年其種先ノ製作ニ改良ヲ加ヘ切斷破壞ノ虞ナキニ至レリ構造簡易實用ニ適スルヲ見ル而シテ該縣ノ捕鯨業ハ專ラ大島近海ニ於テ槌鯨ヲ獵獲スルモノニシテ其獵具獵法等他ノ捕鯨ト異リ從來銚ノミヲ用ヰタリシカ近年ニ至リ或ハ銃砲ヲ併用シ或ハ銚ノ構造ヲ改メ或ハ「ボムフランス」ヲ用フル等漸ク改良進步ノ域ニ達セリ是醍醐新兵衛等風ニ捕鯨業ニ從事シ銳意舊式ノ獵具ヲ改良シ勢力ノ節減ニ努メタルコト最モ與リテカアリトス今其沿革及獵具獵法等ノ概要ヲ記スレハ左ノ如シ

捕鯨ノ創始ハ慶長年代ニアリテ當時ハ勝山近海ニ來游セル槌鯨ヲ捕獲セリ漁船四五十艘漁夫數百人ヲ備ヘ獵具ハ現今用フル突棒用ノ小形ノ銚ニシテ之ニ太キ繩ヲ結ヒ付ケ之ヲ鯨體ニ投射スルコト數十本ニシテ其銚疵ト繩ノ重量トニヨリテ漸次疲勞シテ斃死セシムルノ獵法ヲ行ヘリ然ルニ故關澤氏ノ考案ニヨリ銃砲ヲ併用シ又銚ヲ改良シ大ニ漁夫漁船ヲ減シ且大島海七浦等ノ外海ニ於テ捕獲スルコト、ナシ現今六七艘ノ漁船ト四五十人ノ漁夫トヲ以テ實行セリ

捕鯨船ハ房州地方ニテ用フル突棒船ヲ履フテ之ニ充ツ故ニ構造ハ堅牢ニシテ多少風波ニ堪ヘ得ヘキモ船足遲緩ニシテ鯨ヲ追擊スルニ當リ咄嗟ノ急ニ應スルニ便ナラス爲ニ時機ヲ失フコト少カラストス船ハ總テ六七艘ヲ用フルヲ普通トシ一船ノ水夫八人ヲ要ス其内船頭一名(銚手)ニ番銚一名船押一名水夫四名トス船頭ハ概チ元醍醐家ニ隸屬シタル漁夫中ヨリ每期抽籤ニテ任用シ他漁夫ハ船頭ノ撰用ニ委ス

銃砲ハ其銃口内徑一寸一分外徑一寸八分銃身二尺六寸五分總長四尺ニシテ銚及「ボムフランス」ヲ發射スルニ用ユ銚ハ一艘分四本ヲ備フ内二本ハ常用ニ供シ一本ハ豫備トシテ船中ニ備ヘ又他ノ一本ハ納屋ニ入レ置キ他ノモノ、使用ニ堪ヘサルニ至ルコトアルノ日ニ之ヲ用フ使用スルニハ長四尺餘ノ樞棒ニ接著シテ投射ニ便ス別ニ殺銚ト稱スルアリ鯨ヲ殺ストニ用フ

銚ニハ必ズ網ヲ結附シ置キ銚ノ的中シテ鯨ノ沈降スルモ此網ヲ伸ハシ遣リテ逃脫ヲ防ク網ハ「マニラ」製ニシテ六分徑ノモノ六尋半五分徑ノモノ二房(二房六十尋)四分五厘徑ノモノ六房三分五厘徑ノモノ二房ツ、ヲ用意シ尙豫備トシテ四分五厘徑ノモノ二房ヲ搭載ス

鯨ノ游泳スル場所ハ遠近一ナラス唯上ヶ湖ニハ近岸ニ多ク落湖ニハ沖合ニ多シトス而シテ獵船ハ常ニ十町内外ヨリ二三里迄ノ間ニアリテ鯨ヲ搜索ス鯨ノ游泳スルモノヲ認ムルハ其距離及游行ノ速力ヲ計リ距離遠クシテ船ノ及ハサルニ先チテ鯨沈降スルカ或ハ游行迅速ニシテ追躡ノ見込ナキハ敢テ無益ノ追擊ヲ試ミサレモ十町内外ノ處迄ハ距離ト速力ト

ニ係ハラス大抵追撃スルナリ而シテ鯨ニ近寄ルニハ初メハ前頭ヨリスルモ横側ヨリスルモ可ナレモ漸ク近ツクニ從テ後方ヨリ回リテ接近スルヲ要ス否ラサレハ鯨ノ認ムルトコロトナリ或ハ櫓聲ニ驚キテ忽チ沈没スルナリ故ニ水面波アリテ船ノ近寄ルモ波ノ斷ヘス鯨ノ前頭ヲ掩フテ容易ニ之ヲ認ル能ハサルモ若クハ波聲ノ櫓聲ヲ亂シテ聞クヘカラシムルカ如キ天氣ニアラサレハ銃或ハ銃ヲ發射スルニ適當ナル處ニ近寄ルヲ甚タ難シ

鯨ハ頗ル敏捷ニシテ近寄ルヲ最モ難シ假令接近スルアルモ斯ル場合ニ銃銃ヲ加フレハ驚キ躍リテ尾鰭ヲ以テ激シク船ヲ打チ或ハ破損ヲ生シ或ハ轉覆セシムルヲアリ故ニ之ヲ避クルノ必要ナルヲアリ銃ハ十間銃ハ五間位迄ハ確乎命中スレモ遠距離ヨリ發射セルモノハ脱出シ易クシテ体中ニ留ルヲ少ナシ最モ適當ナルハ銃ハ七間銃ハ三間位トス

既ニ鯨ニ接近シテ適當ナル位置ニ達スル位置ニ達スレハ一番銃ハ船首ニ二番銃ハ其後方ニ立テテ發射ノ用意ヲ爲ス其狙方ハ右肋ヲ第一トシ「こべし」之ニ亞ク而シテ銃ヲ刺スニハ後方ヨリ前方ニ入ルカ如クナラシム前方ヨリ射ル後部ニ向テ入ラシメントスルハ骨ニ中リテ銃爲ニ撓ミ或ハ折ル、ヲアリ將ニ銃ヲ突カントスルヤ銃手ハ直立シテ姿勢ヲ固メ能ク狙ヒテ定メ一番銃先ツ發スレハ二番銃ハ機ヲ失セス之ニ次ク而シテ銃の中スレハ鯨ハ尾ヲ以テ激シク水ヲ打チ水爲ニ飛揚シテ忽チ倒懸ノ小瀑布ヲ起スカ故直チニ網ヲ投シ鯨ノ曳キ去ルニ委セテ之ヲ延ハシ若シ一艘分遣リ盡クレハ他船來リテ網ヲ繼キ足スナリ

既ニ確乎命中シタル時ハ突キタル船ハ轍ヲ揚ケテ之ヲ他船ニ報ス他船之ヲ見レハ急漕シテ之ニ赴キ再ヒ鯨ノ浮ヒ出ツヘキ處ヲ計リテ各位置ヲ占メテ其浮フヲ待ツ浮ヘハ急ニ近寄リテ發射ス銃ヲ受クルヤ鯨ハ再ヒ沈降シテ網ヲ曳キ行ケトモ既ニ大ニ衰弱シテ進行漸々遅ク網ヲ曳クヲ大ニ減ス

各船更ニ位置ヲ取り浮出ルヲ待チテ發射ヲ加フ此時ニハ勢力大ニ減シ唯體ヲ搖スノミニシテ又沈走スルノ餘力ヲ存セス稀ニ一二房ノ網ヲ曳キ行クモノアレトモ多クハ体ヲ水面上ニ出シテ跳上ルナリ劍ヲ刺スヘキ急所ハ肋骨間ノ凹所ヲ第一

トス

鯨ノ將ニ死セントスルヤ頭体半許ヲ水面上ニ上ケ左右ニ動搖シツ、前後左右時ニ左右ニ回旋スルヲ一二分乃至五六分尾羽ヲ以テ頻リニ水ヲ打チ間モナク全ク斃死ス

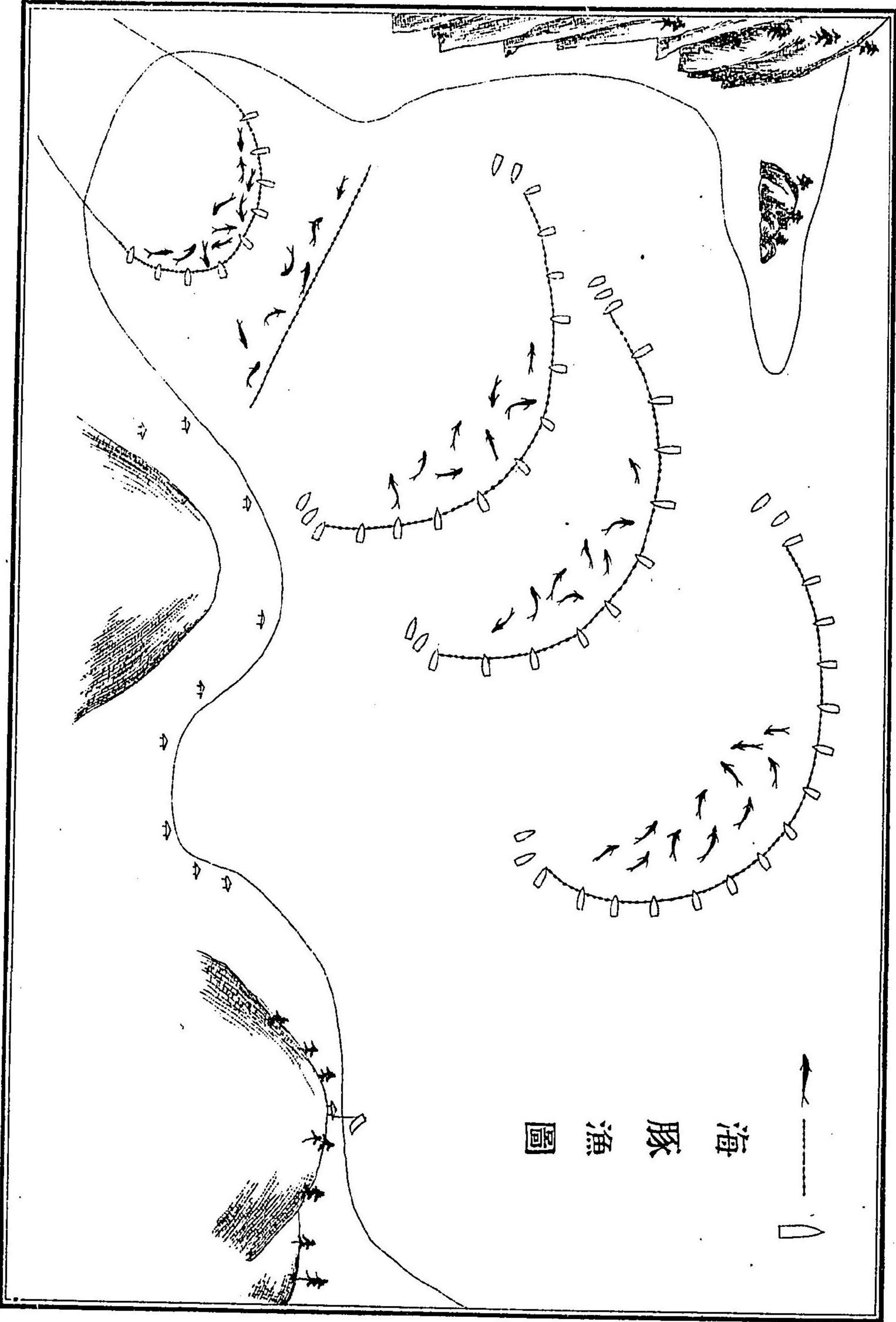
鯨ヲ殺シ了レハ船中ニ備ヘアル「マニラ網」ヲ以テ兩胸鰭ニ纏ヒ之ヲ鼻端ニ持來リテ括リ附ケ又胸ニモ繩ヲ掛ケ廻ハシテ之ヲ胴船梁ニ尾部ニ掛ケ廻ハシタル繩ヲ船船梁取ニ著ク鯨體ハ船ノ風上ニ在ラシメ腹ヲ上向ニスルヲ曳キ易トス是鯨ノ尾羽ニテ楫ノ作用ヲ妨クルヲ以テナリ引キ行クニハ船ニ艘若クハ三艘ヲ用ユ引乘リテ濱ニ歸著スレハ胸部ヨリ肛門迄ヲ切開シテ腹ヲ取去リ以テ腐敗ヲ防ク

海豚漁業 石川縣能登海豚漁業者出品ノ海豚網ハ三百網留網寄七網ノ三種ニシテ共ニ現形ノ一班ヲ出シ以テ海豚漁業ノ狀況ヲ示セリ而シテ三百網ハ藪拔穂三本子繩ニテ八寸目六十個掛ニ製シタルモノ三百尋ヲ以テ縱目縫ニナシ上縁ニハ桐ノ浮子ヲ付ケ下縁ニハ素焼ノ沈子ヲ付ケ仕上二百五十五尋ヲ一把トシ十把ヲ以テ一揃トナス是逐網ニ使用スルモノナリ留網ハ藪繩一尺目六十掛ケ三百尋ヲ圍井之ヲ二百五十五尋ニ縮縫シ使用ニ際シ適宜ニ浮子沈子ヲ付ク是遮斷網ニ用フルナリ寄七網ハ藪繩三寸目百個掛七十尋ヲ中央ニ用井六寸目五十個掛五十尋ツ、ヲ左右ニ繼續シ總テ百七十尋ヲ以テ一揃トス使用ノ際適宜ニ沈子ヲ付ケ上縁ハ船線ニ釣上ケ浮子ニ代フ之ヲ捕網トナス以上三種ノ網相俟テ其効力ヲ奏スルモノナリ抑能登國珠洲郡ハ我邦著名ノ海豚漁業地ニシテ年々漁利ヲ收ムルコト尠シトセス蓋其地勢海灣ヲ擁シ最モ海豚漁ニ適スルニ原クト雖モ亦共同一致克ク其業ヲ保持シ多年經驗ノ結果ニアラスンハ今日ノ盛況ヲ見ル能ハサルナリ今回出陳ニ係ルモノ其構造精密ナラス出品ノ用意亦周到ヲ欠クト雖モ其地漁業ノ狀況ヲ窺知スルニ足ル今ヤ各地海豚漁ノ必要ヲ感スル時ニ方リテ此種ノ出陳アリ以テ斯業ニ裨益スル尠カラストス而シテ解説ニ載スル所ノ珠洲郡高倉村海豚漁業ノ沿革及漁法ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

往古ノ創業ニ係リ其年代詳ナラズト雖モ初メハ苧麻網ヲ使用セシカ後蘆網ニ改造シ且ツ複雑ナル附屬具ヲ漸次改良シテ簡易輕便ノモノヲ使用スルニ至レリ而シテ創業以來毎年ノ捕獲少クモ三千圓ヲ下ラス時ニ壹萬圓以上ニ上ルコトアリ明治二十三年ノ如キハ貳萬圓ニ達セリ然レモ二十七八年以後海豚ノ來游大ニ減少シ二十九年以来ハ全ク認めサルニ至レリ捕獲ノ方法ハ四五里以内ノ沖合ニ於テ海豚ノ游泳ヲ認ルトハ三人乗漁船凡四五十艘ニテ左右ヨリ之ヲ圍ミ漸次磯邊へ逐寄セ群游ノ厚薄ト海況トヲ計リテ三百網ニ把若クハ三把ヲ繼キテ之ヲ打廻ハシ海豚ヲ脅嚇シテ灣内ニ逐込タル後留網ニテ建切リ入道海豚ナレハ寄網ヲ用ヒスシテ直ニ砂濱へ曳揚ケ捕獲スレモ小海豚即チ眞海豚ハ場合ニヨリ一時ニ三四十頭モ捕獲スルコトアルヲ以テ寄網ヲ使用シ水深四尺許ノ所マテ引寄せザレハ捕獲ニ時間ト手数トヲ要スルカ故ニ通例寄網ヲ使用スルナリ(第九十四版參看)

遠洋漁業 北海道函館帝國水産株式會社ノ出品ニ係ル臘虎臘獸獵方法圖及捕鯨方法圖ハ獵具獵船獵法等ヲ圖畫ニ調製シ其實況ヲ示スモノニシテ臘虎臘獸ハ千島諸島ノ沿海ニ於テ營ミ臘獸ハ北太平洋ノ内主トシテ金華山沖以北千島近海ニ至ル洋海ニ於テ獵獲シ捕鯨ハ天鹽國苫前獵場ニ於テ營ム所ナリ該會社ハ明治二十一年ノ創設ニ係リ當時先ツ「スクーナ」ヲ形帆船第一千島丸其他二艘ヲ新營シ千島海ノ臘虎臘獸及天鹽國苫前ニ於ケル捕鯨等ニ從事シ二十六年ニ至リ更ニ金華山沖ノ臘獸獵ヲ創始シタリ千島海及金華山沖等洋海ニ於ケル臘業ハ全ク遠洋漁業ニ屬スルヲ以テ其獵船獵具獵法等之ニ適應スヘキ組織ヲ要スルハ勿論古來本邦ニ於テ經驗ニ乏シキ漁業ナルカ故ニ當時之ニ從事スルニ方リテハ獵船獵具ノ構造獵獲ノ方法等ノ如キ先例ノ據ルヘキモノ少キニモ拘ラス率先之ヲ計畫シ銳意實行シタルコト殆ト十有餘年其間幾多ノ困難ヲ排シテ經營持續シタリ是本邦遠洋漁業ノ率先者ニシテ他ノ後進者ノ模範タルニ至ル是ヲ以テ今回ノ博覽會ニ於テ金牌名譽賞ノ榮ヲ博セリ其廣告ニ曰ク「夙ニ千島ノ海獸獵業ニ從事シ銳意奮勵克ク幾多ノ艱難ヲ排シテ之ヲ今日ニ繼續シ又泰西ノ獵法ニ倣ヒ更ニ金華山沖調臘獸獵業ヲ創メ着々發達進步ヲ見ル洵ニ斯業ノ領袖ニシテ其功績極メテ偉ナ

版四十九第



リト而ノ今解説ニ記スル所ノ該會社創立以來臘虎臘豚獸等海獸獵ニ從事セシ沿革ノ概要ヲ掲クレハ左ノ如シ

臘虎獵業沿革及成績

臘虎獵ハ元開拓使ノ官業タリシカ明治二十一年農商務省ノ特許ヲ得テ風帆船第一第二第三千島丸ヲ新造シ二十二年之ニ着手シ臘虎五十餘頭臘豚三十餘頭ヲ得タリ然レニ當時斯業ニ熟練ナルモノ少ク其方法組織ニ至リ頗ル苦心セルノミナラス千島航海ノ危険多キヲ以テ進テ船長タラントスル者ニ乏ク經營上困難ヲ極メタリ二十三年ニハ不幸ニシテ第二千島丸ハ獵季中船長外四名溺死ノ悲惨ニ遭ヒタルモ辛シテ臘虎四十餘頭臘豚獸四百頭ヲ獲タリ翌二十四年ハ臘虎五十七頭臘豚獸四十四頭ヲ獲タリシモ此年第二千島丸ハ千島海ニ於テ難破シ船体ト共ニ船長以下十名ヲ亡ヘリ二十五年ハ前年度ノ災厄アリシニモ拘ハラズ第一第三千島丸ノ二艘ヲ以テ營業シ臘虎五十四頭ヲ獲タリ二十六年五月特許満期ニ至リタルヲ以テ更ニ出願シテ三十年十二月迄ノ延期ヲ得タリ爾來春季ハ太平洋ニ於ケル臘豚獸獵ニ從事シ秋季ハ千島諸島ノ臘虎獵ニ從事セリ二十八年十二月農商務省令ニヨリ特許權ヲ解カレ更ニ所有ノ獵船第一第三千島丸海王丸順天丸ノ四艘ニ臘虎臘豚獸兼業ノ免許ヲ得タリ而シテ近年ハ千島近海ニ臘虎ノ棲息減少セルヲ以テ唯一隻ノ帆船ヲシテ専ラ之ニ從事セシムルコトニセリ左ニ創業以來ノ臘虎獵獲數ヲ掲ク

臘虎獵獲數統計表

年 度	廿二年	廿三年	廿四年	廿五年	廿六年	廿七年	廿八年	廿九年
頭 數	五一	四七	五七	五四	二五	一五	一二	一〇

臘豚獸獵業沿革及成績

從來我國ノ臘豚獸獵ハ千島群島ニ於テ撲殺スルノ外噴火灣ニ於テ土人ノ槍殺セシニ過キサリシカ明治二十四五年ノ交ヨ

リ英米諸國ノ獵船我近海ニ出沒シ該獸ヲ捕獲シ去リ爾來益々彼等ノ跋扈ヲ恣ニシタリ當社之ヲ慨シ二十六年四月初テ一艘ノ獵船ヲ派遣スルコトニ決ス時恰モ農商務省ヨリ水産調査ノ囑托ヲ受ケ五月金華山沖以北襟裳岬附近ノ遠洋臘臘獸獵業ヲ開始セリ然レトモ該獵ノ經驗ニ乏シク獵船ノ方法共ニ不完全ノ點多カリシヲ以テ出獵凡四十日間ニシテ僅ニ六十餘頭ヲ獲ルニ過キサリシ二十七年ハ前年ノ經驗ニ鑑ミテ端艇銃器等ヲ改良シ乘組員賃金支給ノ法ヲ改メテ歩合配當ト爲シ以テ獎勵ノ道ヲ開キ又英米人及小笠原島歸化人等ヲ銃手ニ採用シテ大ニ組織及獵法ヲ改革シ第一第三千島丸二艘ノ帆船ヲ出獵セシメ二月ヨリ六月マテノ獵期中殆ト九百頭ヲ獲タリ又二十八ハ更ニ一艘ヲ増加シテ二千餘頭ヲ二十九ハ更ニハ一千八百餘頭ヲ獲シ更ニ一艘ヲ新造シ今ヤ四艘ヲ以テ從事シツ、アリ而シテ技術成績共ニ外國獵船ニ遜ラサルニ至レリ特ニ方今他ノ獵船ニ雇ハル、本邦人ノ船長銃手或ハ水夫トシテ事ニ從フモノハ曾テ本社ニ在ッテ經驗熟練ノ功ヲ積ミタルモノ多キニ居ル創業以來ノ捕獲統計左ノ如シ

臘臘獸獵獲數統計表

年 度	廿二年	廿三年	廿四年	廿五年	廿六年	廿七年	廿八年	廿九年
頭 數	三六	三八一	四四	三	六五	八一九	二、一四八	一、八〇九

捕鯨業沿革及成績

捕鯨業ハ二十二年四月着手セル天鹽國苦前捕鯨場ニ於テハ六十五日間ニシテ坐頭兒鯨等三十頭ヲ獲二十三年ニハ四月ヨリ六月迄ニ巨頭鯨九頭兒鯨二十八頭ヲ獲二十四年ニハ四月ヨリ六月迄十二頭、二十五年度十五頭、二十六年十六頭、二十七年二十一頭、二十八年十三頭ヲ獲二十九年度ニ至リ多年ノ經驗ニ依リ改良ノ外國獵具ヲ採用セシモ鯨ノ來游多カラス且ツ通路沖合ナリシヲ以テ捕獲困難ナリシト雖モ熟練ノ結果十六頭ノ捕獲ヲ見ルヲ得タリ

山口縣通浦捕鯨場ハ二十二年十二月着手シ二十三年四月ニ至ルマテニ長須、白長須、座頭、青鷲等十一頭ヲ獲黃津立石捕鯨場ニ於テモ同季間兒鯨七頭、長須四頭、座頭一頭ヲ獲タリ然レモ二十三年度ニ於テ社務ノ都合ニヨリ共ニ之レヲ他ニ讓渡スニ至レリ長崎縣生月平戸ノ捕鯨場ハ二十二年十二月着手シ長須坐頭等五頭ヲ獲タレトモ二十五年ニ至リ監督不便ナルヲ以テ他ニ賣却セリ捕獲表左ノ如シ

捕鯨頭數統計表

年 次	廿二年	廿三年	廿四年	廿五年	廿六年	廿七年	廿八年	廿九年
坐 頭 鯨	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
兒 頭 鯨	二九	二八	一二	一三	一六	二一	二三	一六
巨 頭 鯨	〇	九	〇	〇	〇	〇	〇	〇
鯨	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇

以上掲クル所ノ臘臘獸獵ニ關スル獵具、獵法、獵場等ハ年々多少ノ差異アリ又經驗上改良進歩ヲ圖リタルモノアリト雖モ該會社ニ於テ實行セル所ノ概要ヲ掲クレハ左ノ如シ

臘臘獸獵ヲ營ムニハ帆船ヲ以テ本船トシ「ボウト」ヲ以テ附屬船トス帆船ハ「スクーナー」形ニシテ七八十噸ノ船用フ而シテ「ボウト」ハ本船一艘ニテ五個以上七八個ヲ備フ本船ノ大小ニ依リ其數異ナレリ「ボウト」ハ大小一ナラスト雖モ概テ艙ノ全長二十尺乃至二十二尺幅ハ艙間ニテ四尺五寸乃至四尺八寸深サ二尺乃至二尺二寸ニシテ長サ一丈四尺ノ一橋ヲ備ヘ風アルトキハ之ヲ樹テ帆ヲ卷キテ進行スルニ便ス彈テ「ボウト」ハ輕快ニシテ運用ニ便ナル構造ヲ撰ムヲ要ス銃砲ハ二連發ニシテ散彈ヲ用フルヲ常トス普通十番銃又ハ十二番銃ヲ適當トス又實彈ニテハ「ウインチヌスター」、ライフ

ル」ヲ用フ此銃ハ遠距離ニアルモノヲ射撃スル場合ニ使用スルナリ而シテ藥筒内ニ裝填スル彈藥ノ分量ハ概テ十番銃ニハ火藥凡一匁乃至一匁二分二號ノ散彈二十一粒ニ八號充填物ヲ用フ十二番銃ニハ火藥九分乃至一匁二號ノ散彈二十一粒ニ十號ノ充填物ヲ用フ

以上裝藥ノ分量ハ銃手ニ依リ多少ノ差異アリ而シテ散彈銃ヲ發射スルニハ狙ヲ定メ先ツ左方ヲ發シ次ニ右方ヲ發シ更ニ藥筒ヲ入換ヘ前ノ如ク發射スルナリ若シ散彈發射ノ力ヲシテ充分ナラシメント欲スルトキハ左右ニ發テ同時ニ發セシムルコトアリ臨機斟酌スルヲ要ス

出船シテ臘臘獸ヲ認ムレハ先ツ本船ヲ止メ「ボウト」ヲ卸シ之ニ銃手一名、柁取一名、桿撻一名乃至二名乘組ミ風下ヨリ徐々該獸ニ近寄り銃手ハ銃砲ヲ把ツテ船首ニ立チ僅ニ數歩ノ距離ニ至リテ狙撃スルナリ該獸ハ最モ聽能鼻官ノ鋭敏ナルモノナレハ微小ノ音響又ハ臭氣ニ感シ易ク忽チ熟眠ヲ覺醒スルモノナルカ故ニ船ヲ寄スルニハ必ス風下ヨリ進メ極メテ靜カニ桿ヲ使用スルヲ要ス而シテ一撃ニ一頭ヲ斃スヲ常トスレトモ相接近シテ眠ルモノハ一發ニテ二頭ヲ斃スコトアリ又二發二頭ヲ斃スコトアリ三三五五ニ連リテ睡眠スルモノアルモ一發ノ砲聲ニ驚キ盡ク四散スルカ故ニ一ヶ所ニ於テ數頭ヲ獵獲スルコト難シ而シテ射撃シタルトキハ「ボウト」ヲ寄セ鉤ヲ以テ之レヲ「ボウト」ニ引入レ復進シテ搜索スルコト前ノ如クス

此獸ハ睡眠スルトキニハ徐ニ風下ヨリ「ボウト」ヲ進メ接近スルコトヲ得ルカ故ニ散彈銃若クハ投銃ヲ用フルニ利アリト雖モ睡眠セサルモノハ出沒游泳自在ニシテ近ク「ボウト」ヲ寄セ難キヲ以テ遠距離ヨリ實彈ニテ狙撃スルヲ常トス然レトモ此射撃法ハ熟練者ニアラサレハ命中セシムルコトカタク
游泳スルモノヲ銃殺スルニ方法ハ先ツ急ニ「ボート」ヲ進メテ該獸ニ近寄レハ喫驚皆水中ニ沈ミ須臾クシテ再ヒ其近傍ニ浮ミ出テ四邊ヲ窺フモノナレハ其機ヲ失ハス散彈ヲ發シテ之ヲ斃スコトアリ

又銃ヲ投シテ獵獲スルハ從來北海道土人ノ營ム所ニシテ其銃ニ數種アレハ北海道土人ノ使用スルモノハ柄ノ長サ一丈乃至一丈二尺太サ徑八九分許ニシテ其前端ニ長サ一尺許ノ三ツ股ヲ具ヘ其光ニ鐵ノ銳利ナル穂ヲ付ケ其穂元ニ一筋ノ細キ網ヲ付ケ其網ノ一端ヲ柄ニ括リ付ケタルモノナリ之ヲ使用スルニハ船首ニ立チ眠ル所ノ獸ヲ狙ヒ三四間ノ巨離ニ達シタルトキ兩手ニ力ヲ込メテ之ヲ投シ獸體ニ刺セハ穂先ハ体中ニ止リ銃柄ハ水面ニ浮フカ故ニ假令狂奔スルコトアルモ網ト柄トニ支ヘラレ逃亡スル能ハスシテ遂ニ捕獲セラル、ナリ

銃ニテ捕獲スルハ銃砲ヲ用フルカ如ク空シク海底ニ墜沈ムルコト少キノミナラス音響ノ爲メ群獸ヲ恐怖セシムルコトモ亦多カラスト然レトモ銃ハ三四回ノ近距離ニ「ボウト」ヲ寄スルニアラサレハ用井カタシ故ニ眠ニ就キタルモノヲ捕獲スルニ適スレトモ浮遊スルモノニ適セス且銃ヲ投シテ之ヲ刺スモ狂奔シテ容易ニ死セス爲メニ多クノ時間ヲ費スノ不利アリ斯ル場合ニハ銃殺シテ捕獲スルヲ良トス故ニ銃ト銃砲トヲ併用スルヲ便宜トス數個ノ「ボウト」本船ヲ離レテ獵場ニ向フニハ豫メ方向ヲ定メテ進行シ而シテ本船ハ最モ風下ニアル「ボウト」ニ追躡シテ進ムヲ要ス「ボウト」ハ東西區々ニ進マズ本船亦「ボウト」ノ風下ニ進ムル所以ノモノハ「ボウト」ノ本船ニ歸着スルニ風力ヲ藉リ行走スルノ便宜アルカ故ナリ又獵場ニ於テハ「ボウト」ト「ボウト」ノ位置ヲ成ルヘク離隔セシメ互ニ接近スルヲ避ケ且風下ニアル「ボウト」ハ漫ニ風上ニ進ミ或ハ他ノ「ボウト」ノ進路ヲ横切リテ行走スルトキハ爲ニ獵機ヲ失フモノナレハ互ニ之ヲ避ケサルヘカラス又風上ニアル「ボウト」ハ砲聲其他ノ音響ノ爲メニ妨ケラル、コト少シト雖モ風下ニアル「ボウト」ハ風上ニアル「ボウト」ノ爲ニ妨ケラレ獵機ヲ失フコトアルカ故ニ毎ニ風上ニアルモノ利アリテ風下ニアルモノ不利トス故ニ日々順番ニ交代シテ「ボウト」ノ位置ヲ定ムルヲ要ス

此獵業ヲナスニハ快晴ノ日微風ヲ送リ海面小波ヲ起ストキニ利アリ風波高キトキ又ハ降雨アルトキニ利アラズ何トナレハ微風アレハ帆ヲ揚ケ徐々ニ「ボウト」ヲ進行セシムルニ便アリ小波アレハ該獸ノ眠ニ就キタルモノ波聲ノ爲メニ他ノ音

響ニ感スルコト少ク「ボウト」ヲ寄スルニ利アリ之ニ反シ風浪高キトキ又ハ降雨アルトキハ睡ニ就クモノ少キノミナラ
 ス「ボウト」ノ進退ニ困難アリトス
 此獵業ハ遠洋ニ出テ浩漠タル洋上ニ於テ彼此ニ進行シテ獸群ヲ探シ之ヲ認ムレハ本船ヲ止メ「ボウト」ヲ仰シテ狩獵スル
 モノナレハ毎ニ天測ニ依リ經緯度ヲ知リ若クハ推測ニ依リテ本船所在ノ位置ヲ確ムルヲ要ス而シテ獸群アル場所ニ至リ
 數日間同所ニ止リテ狩獵スヘキ見込アルトキハ本船ノ「メンセル」ヲ收メ「ボウセル」ノミヲ揚ケ舵ヲ取切リテ躊躇ス
 ルヲ常トス然レトモ潮流ト風力トニ依リテ一夜間ニ十數海里ノ外ニ推移セラル、コトアリ斯ル場合ニハ遂ニ獸群ニ離隔
 シ獵機ヲ失フニ至ル是本船運用上最モ注意ヲ要スヘキ點トス又此獵業ニ最モ戒ムヘキハ濃霧ニ閉チラル、コト是ナリ
 「ボウト」ノ本船ヲ離レテ狩獵スルノ際濃霧俄ニ起リ爲メニ本船ノ位置ヲ見失ヒ本船ニ歸着スル能ハスシテ非常ノ危險ニ
 陥ルコト往々之アリ故ニ「ボウト」ニハ必ス「コンパス」及「ラツバ」ヲ備ヒ本船ニハ大砲及「ラツバ」ヲ搭載シ一朝濃霧ニテ
 咫尺ヲ辨セサルニ至レハ「ボウト」ハ「コンパス」ノ方針ニ基キ本船ニ向ケ進行シ本船ハ大砲ヲ放チ「ラツバ」ヲ吹キ互ニ相
 圖ヲナシテ其位置ヲ知ラシムルヲ要ス是最モ警戒スヘキ點トス

臘虎獵業

臘虎ハ古來弓矢銃網銃砲ニテ獵獲シ又ハ棍棒ヲ以テ撲殺シタリシカ近年ハ多クハ銃砲ノミヲ用フルニ至レリ方今ノ獵法
 ニ依レハ此獵業ハ本船ト附属船トノ二種ヲ用フ而シテ本船ハ「スクーター」形帆船附属船ハ「ボウト」ヲ用フルヲ例トス大
 低一艘ノ本船ニ「ボウト」三隻以上ヲ備ヒ其一隻ノ「ボウト」ニハ銃手ノ外舵取擡搔等四名乃至五名乗組ミ「ボウト」ノ數三
 隻ヲ以テ一組トナスヲ通例トス

臘虎獵場ハ北海道千島諸島ノ内ウルツア、ウスシリ、スレード、ラシユウ、ホロムシリ、ケイト、マトウワ、ムシリ等
 ニシテ殊ニウルツア、ウスシリ、スレード、ラシユウノ諸島ヲ以テ好獵場トセリ是等ノ諸島ニハ終年接息スルカ故ニ四
 時之レヲ獵獲スヘシト雖モ十一月ヨリ翌年四月ニ至ル間ハ風波激シキト海面氷結シテ爲メニ獵船ノ渡航ニ困難ナルトヲ
 以テ獵業ニ適當ノ時期ハ五月ヨリ九月ニ至ルノ間ニアリトス
 臘虎ハ島嶼ノ周邊ニシテ海草ノ繁茂シ潮流ノ能ク通スル所ニ接息スルモノナリ而シテ「ボウト」ヲ乗出シ搜索シテ獵獲ス
 ルカ故ニ本船ハ獵場ヨリ遠ク離レタル所ニ碇繫シ先ツ「ボウト」三隻ヲ卸シ每隻ニ銃手一名、舵取一名、擡搔四名都テ六
 名乗組ミ三隻鼎足狀ニ並ビ獵場ニ向フ其海岸ニ沿フテ行クヲ地乗ト稱シ沖ヲ行クヲ沖乘中央ノモノヲ中乗ト稱ス而シテ
 徐々「ボウト」ヲ進メ該獸ノ游泳スルヲ認ムルハ舵ヲ揚ケテ他ノ「ボウト」ニ合圖ヲナシ先ツ最近ノ「ボウト」ヨリ射撃ス臘
 虎ハ其砲聲ニ喫驚シテ海中ニ沈ミ數分時間ヲ經レハ再ヒ浮ミテ海面ニ頭ヲ出スヲ以テ又最近ノ「ボウト」又ハ其浮出タル
 ヲ早く認メタル「ボウト」ヨリ之ヲ射撃ス斯ノ如ク三隻ノ「ボウト」ヨリ發射スル毎ニ海中ニ沈ミ浮メハ復發射スルコト數
 回ニ及ヘハ呼吸漸ク逼迫シ順次ニ浮ミ出ル時間ノ早マルニ從ヒ射撃ノ度益々急ナルヲ以テ漸ク疲勞シ浮ミ出ルノ度數倍、
 多クナレハ愈々狙撃ニ便利ヲ與ヘ終ニ銃殺セラル、ニ至ルナリ射撃法ハ能ク狙ヲ定ムルノ暇ナク成ルヘク速射法ヲ用フ
 ルニアラサレハ該獸ヲシテ逃亡ノ機會ヲ得セシムルモノナリ故ニ一頭ノ臘虎ヲ銃殺スル三隻ノ「ボウト」ヨリ發射スルコ
 ト數十回若クハ數百回ニ及フコトアリ或ハ僅ニ一二發ニテ命中セシムルコトアリ臘虎ノ性質及機會ニ由テ異同アレトモ
 屢々銃撃等ニ逢ヒ軀體ニ彈痕ヲ存スルカ如キ臘虎ニ敏捷ニナリテ容易ニ捕獲スルコト能ハサルヲ常トス臘虎ハ砲聲ヲ聞
 クカ又ハ船ヲ見レハ驚怖シテ忽チ海中ニ沈ミ沖合ニ向ケテ逃避スルモノナリ然レモ久シク海中ニ在テ呼吸ヲ保ツコト能
 ハス浮出テ、呼吸スルカ故ニ其機ヲ失ハス射撃スルヲ要ス又砲聲ニ驚キ沖合ニ向テ疾走シ激浪中ニ遁入りタル場合ニハ
 「ボウト」ニテ遠ク追撃スルハ危險ノ恐アリトス乳兒ヲ抱キ或ハ幼獸ヲ伴フモノニアリテハ砲聲ヲ聞ケハ兒ヲ抱テ逃走シ
 追撃スルコト益々急ナルニ至レハ兒ヲ棄テ、遁ルレトモ慈愛ノ情ニ堪ヘサルニヤ其舉動甚々遲鈍ナルヲ以テ最モ射撃シ
 易ク遂ニ其兒ト共ニ獵獲セラル、ニ至ル

銃器ハ「ウインチスター、ライフル」及「レミントン」銃ヲ用フルモノ多シ「ウインチスター、ライフル」ハ後裝連發銃ニシテ臺身ニ六發乃至十二發ノ藥筒ヲ裝入シタルモノ最モ速射法ニ便利アリトス又「レミントン」銃ハ後裝單發銃ナレハ連射ニ使ナラスト雖モ狙撃ニ適スルヲ以テ從來獵業ニ使用スルコロナリ臘虎獵ニハ「ポウト」ノ運用ニ輕快ナラシムルト同時ニ銃砲ノ發射ヲ急速ニナスヲ好要トス故ニ銃手及舵取ノ熟練ヲ要スルハ勿論銃砲其他「ポウト」ノ構造ヲ撰マサルヘカラス

遠洋漁業 東京市青木孝ノ出品ニ係ル遠洋漁業成績ハ油繪ノ扁額三面ニ漁獵ノ方法ヲ摸寫シ添ルニ臘肭獸劊製及獸皮ヲ以テシ一見該臘業ノ實況ヲ窺知スルノ便ニ供セリ出陳ノ用意周到ト云フヘシ同人ハ我邦未タ遠洋漁業ノ振ハサルニ際シ英米二國ノ獵船カ我近海ニ出沒シ臘肭獸劊ヲ獵獲シ巨多ノ利ヲ收ムルノ狀況ヲ探知シ茲ニ志ヲ立テ爾來幾多ノ困難ヲ排シテ遠洋漁業ニ從事シ漸次實効ヲ奏スルニ至レリ今回ノ博覽會ニ於テ其成績ノ特ニ稱贊スヘキ點アリトシ進歩一等賞ノ榮ヲ受ケタリ其廣告文ニ曰ク「本邦四面皆海ニシテ水産ノ豐富ナルニ拘ラス遠洋漁業ノ未タ振ハサルヲ慨ヒ銳意海獸獵ヲ企圖シ遠ク東北海ノ漁獵ニ從事ス創始日尙淺シト雖モ捕獲漸ク増加スルヲ見ル進歩ノ績特ニ著シ」ト而シテ解説書ニ記スル所ノ本人カ遠洋漁業ニ關スル經歷書ノ概要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

會テ本人米國在學中彼國水産業ノ盛大ヲ見聞シ他日歸朝ノ後我國水産ノ振起ニ盡瘁センコトヲ企圖シ同國ノ捕鯨船ニ乘組ミ二ケ年間ノ航海ニ從事シ北水洋ノ探見ト捕鯨ノ實驗ヲ爲シ二十六年歸朝シテ北海道ニ遊ヒシニ時恰モ七八月ノ交ニシテ外國獵船函館ニ輻輳シタルニ際會シタルヲ以テ水夫銃手トシテ是等ノ獵船ニ乘込ミタル本邦人ニ就キ彼ノ獵船ノ年々本邦近海ニ於テ莫大ノ臘肭獸劊ヲ獵獲スルヲ探知シタリ越ヘテ二十七年函館ニ寄港セル英領ヱイクトリア出帆「オトシヨンプリース」號乗組ノ本邦人ヲ介シテ同船ニ乘込ミ諸種ノ經驗ト調査トヲ積ミ水夫銃手等ノ經驗熟練ノ極ヲ必要ナルコトヲ認メタリ而シテ遠洋漁業ニ從事センニハ先ツ臘肭獸劊ヲ始メテ臘肭獸劊ニ及ホシ然後捕鯨等ニ着手スルノ順

臘肭獸劊每年ノ成績

年度	種目	船數	頭數	賣價	總額
明治二十八年	壹艘	二二八	一七七五	三、八六九	〇〇
明治二十九年	壹艘	六五八	一四六七	九、七九九	五六〇
明治三十年	參艘	二、〇〇〇	一八〇〇	三六、〇〇〇	〇〇〇

序タルヲ知リ明治二十八年一隻ノ臘肭獸劊ヲ出シ二百十八頭ヲ獲二十九年六百五十八頭ヲ獲三十年度ニ至リ三艘ニ増加シテ臘肭獸劊ニモ着手シ臘肭獸劊二千頭臘肭虎十一頭ヲ獲タリ其乘組船員等ハ外國船ノ獵業ニ從事シテ多少經驗ト熟練トヲ有スルモノヲ撰ヘリ左ニ創業以來ノ成績表ヲ掲ク

臘肭獸劊每年ノ成績

年度	種目	船數	頭數	賣價	總額
明治二十八年	壹艘	二二八	一七七五	三、八六九	〇〇
明治二十九年	壹艘	六五八	一四六七	九、七九九	五六〇
明治三十年	參艘	二、〇〇〇	一八〇〇	三六、〇〇〇	〇〇〇

外國獵船ノ所謂日本三「ステーシヨン」ト稱スルハ金華山沖凡三百哩厚岸沖凡二十哩及千島群島近海等ヲ以テ主ナル獲區トストモ臘肭獸劊ノ海流ノ模様ニ從テ游泳ノ場所ヲ變スルヲ以テ常ニ必スシモ之ヲ一定ノ處ニ求ムルコト能ハス然レモ本邦近海ニ於テハ大吹仰附近ヨリ金華山沖及北海道ノ東南海ヲ經テ千島海ニ至ルマテ盡ク獲區タルカ如シ

臘肭獸劊ノ好テ游泳スルトコロハ水温四十度内外ニシテ少シク濁黒ヲ帶ヒ潮勢較ニ緩慢ナル所ニアリ故ニ潮流急ナルカ風

波高キ時ハ水面ニ眠ルヲ見ス又海水清淨ナルカ若クハ五十度以上ノ海中ニハ棲息セサルカ如シ而シテ海温ハ僅々ノ距離ニシテ相異ルヲアレハ獲船ハ常ニ其冷温ヲ驗スルヲ要ス

臘腸獸ハ其性極メテ敏捷ニシテ其聽官嗅官ハ頗ル銳利ナリ故ニ「ボウト」ノ接近スルヤ人体又ハ火藥ノ臭氣ヲ嗅知シ若シクハ操縦ノ音響ヲ聞キテ忽チ潛沒スルヲ以テ出獵中ハ力ノテ靜肅ヲ守リ談話ヲ嚴禁シ僅ニ手眞似ヲ以テ所在ヲ報知シ徐ニ接近シテ射擊スルナリ斯ノ如クナルカ故ニ獵船ノ操縦亦從テ輕快ナラサルヲ得ス是レ本船「ボウト」ト共ニ特ニ船足ノ迅速ナルヲ貴フ所以ナリ

出船中該獸ノ游泳ヲ認ムルヤ本船ハ直ニ進行ヲ止メ急ニ「ボウト」ヲ捕シ風下ヨリ徐ニ之ニ接近ス其法一番艇ヲ以テ先ツ風下ヨリ進ミ二番三番ト風上ニ排列シ雁行シテ進ム此場合ニ於ケル「ボウト」操縦ノ巧拙ハ大ニ獵獲ノ如何ニ關係スルモノナレハ乗組員ハ其銃手タルト權漕キタルトヲ間ハス各共職分ヲ守リテ互ニ相犯サス又多數ノ獵船互ニ交叉スルヲアルモ順序ヲ亂シテ錯雜ヲ生スルカ如キコトナキヲ要ス

本船モ亦「ボウト」出獵後ハ風ノ方位ニ依テ操縦スルハ勿論ナレトモ普通風下ノ「ボウト」ヲ標準トシテ其位置ヲ進メ若シ中途ニシテ風位變更スルトキハ風上ノ「ボウト」ヲ目標トシテ追尾スルナリ若シ此操縦ヲ誤ルトキハ「ボウト」ヲ見失フノ虞アルヲ以テ用意最モ周到ナルヲ要ス特ニ北海道附近ノ海ノ如キ濃霧時々海面ヲ鎖スコトアリ斯ル場合ニハ信號砲ヲ放チテ各艇ニ本船ノ所在ヲ知ラシムルヲ要ス然ラサレハ隔離スルニ從テ次第ニ本船ノ位置ヲ失シ途ニ歸船スル能ハスシテ或ハ不測ノ危險ニ陥ルコトナシトセス尤モ斯ル場合ニ備ルカ爲メ「ボウト」ニハ二三日間ノ糧食飲料水ヲ積載スルヲ常トシ本船ニ於テモ亦絶ヘス出來得ル限り信號ヲ以テ之ヲ搜索スルナリ蓋シ號砲及其他ノ信號ニ關スル要具ハ飲食ニ次ク所ノ必須物件ナリトス

臘虎獵船ノ構造ハ二本マスト、スクーナー形ニシテ大体臘腸獸獵船ニ異ナルナシト雖モ小形ノモノヲ用ルノミ實驗ニ徴スルニ三分一四分一ノ小形ノモノニテ足レルカ如シ隨テ「ボウト」モ臘腸獸ノ如ク多キヲ要セス三四隻ニテ充分ナリ而シテ臘虎ヲ認ムルキハ一番「ボウト」ハ其前面ニ向ヒ二番三番ト左右ニ排列シ三方ヨリ包圍シテ一方ノ通路ヲ殘シ距離漸ク宜シキヲ得タルトキハ一番「ボウト」ヨリ發砲ヲ始メ續テ二番三番ト左右ヨリ發射スルナリ最モ能ク命中シタルトキハ一發ニテ斃ル、コトナキニアラサレトモ普通ハ二三發以上ニアラサレハ捕獲スルコト難シ銃丸命中スレハ海面ヨリ凡ソ三尺許高ク飛上リ而シテ海中ニ沈ムコト三分許ニシテ復浮ミ轉輾シテ止マス浮沈三四回ニテ漸ク勢力ヲ失ヒ体ヲ横ニシテ流ル乃チ艇ヲ進メ鉤ヲ以テ引上ルコト臘腸獸ニ異ナラス而シテ捕ヘタル臘虎若シ雌ナルトキハ通常一頭ノ幼兒其死体ニ纏ヒ居リテ離レヌ爲メニ生ナカラ獲ラル、コトアリ又發射ノ前後瞬間ニ於テ頭ノ一頭ハ必ス倉皇波ヲ潜リテ開放ノ一路ニ向ケ逃逸スルコトアルカ故ニ二番三番ノ「ボウト」ハ疾漕追擊捕獲ヲカムルナリ

遠洋漁業 若手縣氣仙郡小松駒次郎ノ出品ニ係ル臘腸獸皮ハ該縣下ニ於ケル遠洋漁業ノ成績ヲ示スモノニシテ協贊人同縣柴山英三出品ノ臘腸獸圖畫ヲ併セ彼此對照スレハ遠洋漁業ノ實況ヲ窺フニ足ル夙ニ本人ハ意ヲ水産業ニ注キ殊ニ近年外國獵船ノ金華山沖以北ノ洋海ニ出沒シ臘腸獸ヲナシ頗ル跳梁ノ狀況アルヲ慨ヒ遂ニ意ヲ決シテ海獸獵業ヲ企テ孜孜經營能ク實効ヲ奏セリ柴山英三亦其企業ニ與テカアルノミナラス自ラ獵船ニ乘組ミ實地踏査スル所アリ共ニ今年ノ博覽會ニ於テ褒賞ノ典ニ與レリ其廣告文ニ曰ク「多年意ヲ水産業ニ注キ孜孜々撓マス更ニ同志相謀リテ東北海ノ海獸獵業ニ從事シ奮勵能ク實功ヲ奏ス創始日尙淺シト雖モ其進步特ニ著シ」而シテ解説書ニ載スル所ノ海獸獵業沿革ノ大要ヲ摘記スレハ左ノ如シ

我邦遠洋漁業ノ不振ト外國獵船ノ跋扈トヲ見テ大ニ悟ル所アリ遠洋漁業ヲ起サント欲シ函館水産會社其他ニ就キ調査ヲ遂ケ同志相謀リテ一會社ヲ組織シ「スクーナー」形獵船ノ新造ニ着手セシニ資本ノ不足ヲ生シタルヲ以テ更ニ明治三十年一月許可ヲ得テ若手漁業合資會社ヲ設立セリ然ルニ獵期ニ切迫シタルヲ以テ釜石嶺山所有船回漕丸ヲ借受ケ同年四月一

日ヨリ五月初旬迄出獵シ五月十五日ニ至リ新造船成リ六月一日出獵臘臘獸六十餘頭ヲ獲テ八月上旬歸船セリ
 右ノ如ク三十年ニハ獵期ノ後レタルト船員ノ未熟ナルトニヨリテ不結果ニ終リシヲ以テ船長以下總テノ船員ヲ撰ミ銃手
 ニハ外國人ヲモ雇入レ二月中旬萩ノ濱ヲ出帆セシカ出獵中八戸沖ニ於テ二船ノ短艇ヲ見失ヒシモ共ニ鮫港ニ安着セリ爾
 來本船ハ絶ヘス沖合ニ出獵シ六月三日函館寄港船体ヲ修繕シ更ニ出獵シテ千島海ニ向ヘシ而シテ二月中旬ヨリ六月三日
 迄捕獲高三百八十餘頭ニ上リ唯惜ラクハ出獵中船員ノ天然痘ヲ發セルモノアルト前述ノ如ク短艇ヲ見失ヒシ爲メ獵業
 上不少ノ障礙ヲ受ケタリ云々又柴山英三協贊賞ノ薦告文ニ曰ク「夙ニ遠洋漁業ノ起ラザルヲ慨ヒ小松駒次郎ヲ扶ケテ海
 獸獵ヲ企テ自ラ之ヲ督勵シテ經營宜キニ適フ其協贊ノ勞著シ」ト

遠洋漁業 北海道廳占守島報効義會ハ臘臘獸大中小五種ノ鞣皮ヲ出陳セリ抑報効義會ハ千島群島ノ寒煙荒草ノ間ニ
 委シ彼地特有産タリ臘臘獸ノ如キ貴重ナル海獸類ヲシテ空シク外國獵船ニ獵獲シ去ラル、ヲ慨シ團體ヲ組織シ一ハ
 遠洋漁業ニ從事シ一ハ千島ノ拓殖ヲ圖リ彼外國船ノ跋扈ヲ制スルノ端ヲ開カント欲セリ而シテ明治九年六月官廳ヨリ登
 簿噸數百十六噸ノ帆船石川丸ヲ貸與ヲ受ケ獸獵ニ從事セリ今回出陳ニ係ルモノハ其獵業ノ結果ヲ示スモノニシテ其事蹟
 ノ最モ嘉スヘキモノアルヲ以テ進歩褒賞ノ典ニ與カレリ其薦告文ニ曰ク「克ク時流ニ拔ンデテ千島群島水産業ノ忽セニ
 スヘカラサルヲ察シ團體ヲ組織シテ奮勵斯業ニ從事幾多ノ艱苦ニ遭フモ堅忍屈セス更ニ進テ遠洋海獸獵ヲ起シ着々實
 効ヲ奏ス創業日尙淺ント雖モ其進歩特ニ著シ」而シテ解説ニ述フル所ノ業務沿革ノ概要ヲ摘記スレハ左ノ如シ
 曾テ千島群島ノ拓殖ヲ圖リ併テ遠洋漁業ヲ開始スヘキ目的ヲ以テ彼力ヲ願ミス團體ヲ組織シタルモ資力ハ常ニ志ト協ハ
 ス加之障礙百出ノ間ニ立チテ經營慘憺素志ノ貫徹ヲ期セシカ幸ニシテ明治廿九年北海道廳ヨリ千島群島水産調査ノ命ヲ
 蒙リ帆船石川丸ヲ貸與セラレ爾來着手ノ準備ヲ爲シ短艇八隻各艇ニ「ウヰンチスター」十六連發銃其他十二番徑及十番徑
 二連發ヲ備ヘ船長以下熟練ナル船員ヲ乘組マシメ函館ヲ出帆シ水産調査ノ傍臘臘獸獵業ニ從事セリ而シテ今後ハ獨此海

獸獵ノミナラス更ニ新ナル遠洋漁業ヲ開始セント欲ス云々

海獸獵業

靜岡縣田子村漁業組合大綱部出品ノ海獸網ハ鎌海獸網眞海獸網二種ノ雜形ニ添ユルニ漁初ヲ以テス該地

ハ從來海獸網漁業ヲ以テ著明ニシテ年々ノ漁獲高尠カラスト是レ畢竟地勢ノ便與ツテ力アリト雖モ抑亦組合ヲ組織シ
 舊來ノ弊習ヲ矯正シ又漁具ヲ改良セル等平素業務ニ勉勵スルニ歸因セスンハアラス左ニ網具ノ構造法ヲ掲ク
 鎌海獸網ハ全部ヲ分チテ麻網部葉網部ノ二種トシ麻網部五反葉網部六反計十一反ヲ以テ半帖ト爲シ都合二十二反ヲ以テ
 全部即チ一帖トス一反ノ長ハ總テ廿五尋トス麻網部ハ三寸五分桁六十掛長廿五尋ノモノ三反六寸桁廿五掛三反同十掛同
 長ノ網各一反計五反ノ内六十掛三反ヲ中網トシ廿五掛ヲ浮子方拾掛ヲ沈子方トシテ網ニ縫合セ一反分トシト同様に四
 反ヲ横縫ト爲シ麻網部ノ五反トス浮子繩ハ市皮製三寸拾二寸周リ浮子撻繩ハ同二寸拾一寸周リ浮子ハ桐製長二尺幅五寸
 五分厚二寸五分浮子繩長百尋浮子間ハ八尺ツ、トシ浮子計百一枚撻繩ニテ浮子繩ハ撻付ケ之ヲ浮子方ノ廿五掛網ヘ撻付
 ク之ヲ太駄ト云フ沈子繩モ全市皮製ニシテ三寸拾二寸五分周リ長九十四尋之ヲ沈子方ノ拾掛網ヘ撻付ス斯ノ如ク沈子方
 へ用ル網ヲ地摺ト云フ網ノ縮結ハ浮子方二割沈子方二割五分トス葉網部ハ六寸桁六十掛一反同五十五掛一反一尺桁十四
 掛大駄一反各長二十五尋網ノ大駄ヲ浮子方トシテ網ニ縫合セ一反切分トシト同様に四切ヲ横縫トナシ又一反二寸桁
 五十掛網一反ヲ横縫トシテ端網ト爲スナリ浮子繩ハ葉製三寸拾三寸周長百二十七尋半浮子及浮子間ハ麻網同様に葉製三寸
 拾二寸三分周ノ撻繩ヲ以テ浮子繩ヘ撻付大駄ヘ撻付ルナリ沈子繩ハ長其他浮子繩同様にシテ周四寸之ヲ浮子方ヘ撻着ス
 ルトキハ浮子沈子共等シク一割半ノ縮結トナル而シテ其三反合ノ方ヲ麻網部ヘ横縫トナストキハ之レ半帖ヲ形成ス又之
 ト同一ノ半帖ヲ作り合セテ以テ完全ノ一帖トナスナリ網細ハ麻細ノ別ナク總テ二寸撻ニシテ麻製中網分ハ百尋量三百五
 十目同大駄分四百五十目同地摺分四百目葉製中網分百尋六百目大駄同八百目端網尺二桁一反分モ同様に沈子石ハ濱河ノ小
 石ニシテ一個ノ量一貫目位ノモノヲ沈子繩三尋間毎ニ一個ツ、ヲ撻付スルナリ

眞海豚網ハ二子捻ノ藁繩ニシテ百尋ノ重量ハ八百目位一尺二寸桁五十掛長二十五尋網九反ヲ各々鼻繼キ即横縫トシ亦二尺桁廿五掛廿五尋網一反ヲ同鼻繼キト爲ストキ長計二百五十尋トナルナリ浮子繩ハ藁製三子捻二寸五分周長二百十二尋半浮子及浮子間其搔付方等ハ鎌海豚網同様ニシテ搔繩ハ同藁三子捻一寸五分周此浮子繩ヲ網長一方ハ縫付ルトキハ内一割半ノ縮結トナルナリ沈子繩ハ同藁製ニシテ二子捻四寸周長二百十尋ヲ結着スルニ與二切即網五十尋分ヲ二割ノ縮結トシ他ハ浮子同様一割半トス之レ半帖ノ製作ニシテ之ト同一ノ半帖ヲ製シ以テ完全ノ一帖ト爲スナリ海豚捕網ハ二子捻ノ藁繩ニシテ百尋ノ重量三貫目位三寸五分桁百掛百十五尋網一反亦六寸桁五十掛十尋網一反ヲ鼻繼ト爲ストキハ長二十五尋トナルヲ浮子及浮子繩藁製三子捻各三寸五分周二筋用ヒ長ハ浮子繩十五尋沈子繩十四尋ニ縮結スルトキハ浮子方四割半トナルナリ沈子石ハ一個二貫目位ノモノ三個ヲ與ヨリ浮子繩一尋間毎ニ結付シ浮子方ハ浮子ナシニシテ藁製三子捻二寸五分周リノ手細長一尋半位ノモノ五筋ヲ與ヨリ浮子繩一尋半間ノ處ヘ一筋他ハ之ヨリ二尋半間ツトス之レ半帖ノ構造ニシテ之ト同等ノ半帖ヲ製シ一帖トナスコト前記ノ構造ニ異ナラス亦付屬大網二房周一尺長各百尋トス而シテ解説ニ載スル所業務沿革及漁法ヲ摘記スレハ左ノ如シ

從來海豚網ヲ使用スルニ大組仲組ノ二團躰アリテ各別ノ組織ヲ爲シ漁具漁船等ハ半數ツ、出シト雖モ漁夫ノ數ハ一定ノ割合ナク其執業ノ際ニ當リ兩組ノ水夫互ニ協同一致ヲ欠キ動モスレハ紛擾ヲ生シ易ク水揚金額ハ之ヲ兩組ニ平分シテ更ニ之ヲ其出船水夫數ニ配分スルカ故ニ常ニ各自所得ハ其屬スル組ニヨリテ大差ヲ生ス故ニ益々兩者ノ關係ヲ疎隔セシムルノ弊アルヲ以テ近年ニ至リ新ニ規約ヲ制定シテ組織ヲ一變シ漁具漁法役員配當等各其處ヲ得セシメダリ爾來事業圓滑ニ行ハレ現今ノ隆盛ヲ致スニ至レリ鎌海豚ハ古來其性質猛烈ニシテ網獲シ御サルモノトシ灣内ニ入リルモ空シク傍觀シテ捕獲ヲ試ムルモノアラサリシカ明治十年ノ捕獲ヲ試ミタルニ幸ニ四百餘頭ヲ獲壹千餘圓ノ收利ヲ占メタリ爾來該漁ノ等閑ニ附スヘカラサルヲ覺リ種々工夫ヲ凝ラシ十二年遂ニ一種ノ網ヲ創製セリ現今行ハル、モノ即チ之ナリ

捕獲ノ方法ハ網船二艘ヘ眞海豚網半帖ツ、ヲ分載シ二艘ノ曳船ヲ以テ各別ニ之ヲ曳行キ海豚群ノ灣口ニ入ルヲ計リテ兩船ノ網ヲ縫合セテ一張トナシ以テ灣口ヲ遮斷シ同時ニ貳拾艘ノ小傳馬船ヲ浮子繩際ニ排列シテ海ノ深淺ニ應シテ或ハ浮子ノ沈ムヲ支ヒ或ハ網ヲ釣リ揚ケテ逃遁ヲ防カシム若シ眞海豚ニシテ大群ナルカ又ハ鎌海豚ナルトキハ此内ヘ更ニ鎌海豚網ヲ入レテ二重ニ張り漸ク陸地ニ達スルトキハ諸船ノ壯丁網船ニ乘リ移リ總掛ヲテ網ヲ曳寄セ麻網部ニ至レリ更ニ其内側ニ取網ヲ入レ漸次之ヲ引寄セ網ノ兩端海濱ニ達スルニ至リテ之ヲ止メ壯者各裸体ニテ海中ニ飛入り海豚ヲ抱キテ濱ニ揚ルナリ大ナルモノニハ鐵鈎ヲ用ユ

第一區第六類及第二區第十七類

漁具原料

茲ニ漁具原料トシテ報告スル事項ノ範圍ハ部類目錄ニ示ス第一區鹹水漁業第六類及第二區淡水漁業第十七類ノ二類ニ屬スル漁具構成ノ材料ニシテ其類別左ノ如シ

第一區第六類

網地、網絲、縀絲、網、釣鈎、釣竿、浮子、沈子其他天蠶絲等ノ漁具製作原料

第二區第十七類

網地、網絲、縀絲、網、釣鈎、釣竿、浮子、沈子其ノ他ノ漁具製作原料

前記ノ如ク鹹水、淡水漁業ノ分區ニ從ヒ之ヲ分別セラレタリト雖トモ蓋出品物ニ於テハ敢テ著シク差異ナク僅カニ粗密輕重アルニ過キスシテ用途ノ目的及其關係ニ至ツテハ全ク同一ナルヲ以テ重複ノ煩ヲ避ケ之ヲ合同シテ左ノ七種ニ大別シ以テ本報告ノ據ル處トナス

一 纖維料

二 網絲及網

三 網地

四 縀絲

五 釣鈎、釣竿

六 浮子、沈子

七 類聚品

抑、漁具原料ノ出品ハ之ヲ既往ノ内國動業博覽會成績ニ徵スルニ網絲、網地、縀絲、釣鈎等ノ數種ニシテ其數亦數百點ニ過キサリシカ今回ハ獨リ其種類ノ増加シタルノミナラス點數亦頗ル夥多ニシテ出品ノ數實ニ四千〇十四點ニ達シ漁業

部總出品數ノ約三分ノ一以上ヲ占ムルニ至ル是レ今回ハ各地方漁業組合等ヨリ漁具類聚ノ出品多キニ由ルト雖トモ蓋此類ニ屬スルモノハ多ク商品ニ係ルヲ以テ出品者各自相競テテ廣告ノ出品ニ勉メタルノ形跡ヲ存セリ故ニ其出陳ノ方法モ亦各地共ニ他ノ漁具出品ト趣向ヲ異ニシ配置ノ巧妙ナル裝飾ノ華美ナル頗ル觀覽者ノ視線ヲ惹ケリト云フヘシ而シテ漁具原料ハ漁撈上經濟上共ニ關係重大ニシテ其所用物質ノ適否ハ間接的漁業改良ノ基礎タルヘキヲ以テ需用者ノ意向常ニ茲ニ存シ日ニ倍々便益ノ品質ヲ撰擇使用スルニ勉メリ之ト同時ニ供給者ニ於ケル製作上ノ變遷モ近來殊ニ著ク進シテ紡績、撚糸、製網、編網ノ如キ器械的ノ作用ニ由リテ產出セルモノアルニ至レリ且ハ世運ノ變遷交通ノ開發ト共ニ甲乙相互ニ需用ノ地區ヲ擴メ近年著ク進步發達シタル綿絲網地或ハ海外輸入ノ麻類ノ如キハ既ニ一地方的賣買ノ慣習ヲ脱シテ今ヤ全國的乃至世界的賣買競争ノ趨勢トナリ全然營業者ノ意向ヲシテ一新セシメタルヲ徵ス自然漁具ノ構成漁撈上ニ及ホスノ利益亦大ナルヲ知ルヘシ今各府縣別出品數及褒賞數ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一部第一區第六類出品點數及授賞件數表

府縣	出品數	名譽進歩			有功協贊			褒狀	授賞總數
		金	銀	一等	二等	三等	一等		
東京府	八五								三
神奈川縣	四四								二
靜岡縣	四七								五
愛知縣	五七								三
三重縣	二五								四

千葉縣	五八									一	六	七
茨城縣	一一											
福島縣	二											
宮城縣	五五											
岩手縣	五〇											
青森縣	一〇〇											
山形縣	五四											
秋田縣	五九											
長野縣	三											
栃木縣	四一											
岐阜縣	二											
新潟縣	三三											
富山縣	四六											
石川縣	一四											
福井縣	一一三											
京都府	一八七											
鳥取縣	八二											
島根縣	八〇											

山	大	兵	岡	廣	和	德	香	愛	高	長	佐	福	大	熊	宮	鹿	北
口	阪	庫	山	島	歌	島	川	媛	知	崎	賀	岡	分	本	崎	兒	海
縣	府	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	島	道
一〇七	二一九	二七四	一八七	二四四	三八	二〇	八六	二三	四八五	六二	二二	三二	六五	八八	八八	四五	五
一	一																
五	四	三	五	〇	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	〇	〇
六	二	五	一	三	三	三	一	六	七	六	二	二	四	三	三	〇	〇

第一部第二區第十七類出品點數及授賞件數表

府	縣	出品數	授			賞			總授	計
			金	銀	進	一等	二等	三等		
東	京	一八								三
神	奈	二								
靜	岡	一								
愛	知	六								
茨	城	四								
岩	手	三								
山	形	五								
秋	田	四								
埜	玉	二								
長	野	一								
枳	木	三								
滋	賀	二								
岐	阜	一								
合	計	三、四五			一	一	一	三	三	二八四

合	宮	大	高	香	德	和	廣	岡	兵	大	山	島	島	京	福	石	奈
計	崎	分	知	川	島	歌	島	山	庫	阪	口	根	取	都	井	川	良
	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	府	縣	縣	縣	府	縣	縣	縣
七 六 九	三 九	二	二	一	八	一	二 八	三 一	二 五 五	一 五	一	八	一	九 七	一 六	三	七
一																	
五			一						一				二				
二 七	三		三		二		三	一	六						二		
三 三	三		四		二		三	一	七					二	二		

織維料

織維料ハ漁具ノ構成ニ供スル絲、網、網地等ノ原料トシテ頗ル必要ノモノナレトモ其漁業トノ關係間接的ニ屬スルヲ以テ從來内國觀業博覽會等ニ於テハ之ヲ農産部ニ出陳シ水産部ニハ會テ之ヲ認メサリシカ今回ハ其出品ヲ見ルニ至レリ然レトモ網絲網地ノ添出ニ係ルモノ多クシテ單獨ノ出品ハ總數僅ニ三十八點トス而シテ其種類ハ大麻、苧麻、黃麻、月桃、芭蕉、藥心等アリト雖トモ就中多數ナルハ大麻ニシテ苧麻、黃麻、月桃ノ三種ハ臺灣總督府民政局ノ出陳ニ係レリ今其種類ニ從ヒ論評ヲ下セハ左ノ如シ

大麻ハ製絲、製網等ノ原料トシテ從來頗ル貴重シ各府縣殆ント之ヲ栽培ヲ勉メサルハナシト雖トモ今回ノ出品ハ僅カニ數縣ニ止マリ廣ク各地ノ製品ニ就キ優劣比較ノ便ヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル處ナリ而シテ其出品ハ新潟一栃木一六鳥取一四德島一高知一ノ五縣三十三點ニシテ之ヲ製造法ニヨリ區別スレハ新潟、栃木、德島ノ三縣ハ金引製ニシテ鳥取高知ノ二縣ハ扱製トス更ニ現品ニ就テ概言スレハ栃木縣出品ハ製造宜シキニ適シ概シテ精良ニシテ他縣出品ニ凌駕シ全縣重要物産ノ面目ヲ失ハス殊ニ福田勇七出品ノ如キハ織維長ク強靱ニシテ彈力ニ富ミ光澤ヲ有シテ能ク用途ニ適セルヲ見ル高知縣上原兵三郎出品ハ今回板製中ノ最上位ヲ占メ織維均整頗ル彈力ニ富ミ縞絲ノ原料トシテ尤モ適切ナルヲ見ル鳥取縣出品中ニモ亦佳品ナキニアラサルヘシト雖トモ普通品ノ佳良ナルモノヲ多シトス之ヲ要スルニ今回ノ出品ハ概シテ精良ニシテ縞絲或ハ投網、刺網用ノ如キ特ニ強靱ノ細絲ヲ要スルモノ、原料トシテハ頗ル稱揚スヘキモノナリト雖トモ其價格ノ不廉ナルヲ憾ム且一般ノ網絲或ハ網ニ供用セラル中等品ノ少キハ以テ出品者ノ用意茲ニ到ラサリシカ如シ將來能ク其用途ヲ鑑ミ適當ノ製造ヲ施シテ需用供給相互ノ便益ヲ謀ルヲ要ス漁具ノ原料トシテハ美麗ト織維ノ長キヲ貴フヘキモノニアラス要ハ織維整然トシテ分裂シ易ク強靱ニシテ彈力ニ富ムルモノヲ佳良トス製造者茲ニ注意スヘシ

苧麻ハ從來本邦ニ於テモ之カ栽培ヲナスモノアリト雖トモ主トシテ織物ノ原料ニ供シ漁業上ニ需用スルコト僅少ナルヲ以テ今回ハ臺灣總督府民政局ノ出品僅カニ一點アルノミ今其現品ヲ驗スルニ索引力ニ富ミテ磨擦力ニ乏シク晒白至ラサルカ爲メ青色ヲ帶ヒ質全ク南京産麻ニ均シ故ニ之ヲ俗ニ青南京ト稱スルモノアリ而シテ此種ノ栽培ハ墜地ニ適シ一年間六、八、十月ノ三回採收スルモノニシテ土人ノ賣買上製品ヲ區別スル處ニ由レハ上等品ヲ佳苧種トシ中等品ヲ蕃苧種下等品ヲ烏麻苧種トナセリ該品ハ臺灣ニ於ケル纖維料ノ重要ナルモノニシテ其產地ハ新竹縣管内ニ在テハ樹杞林、北埔、日眉、新埔、咸菜碑、頭份、三灣、南庄、南埔苗栗ヲ最トシ宜蘭支廳管内ニ在テハ紅芝林附近ヨリ羅東地方ヲ最トス需用ノ途ハ該地ニ於ケル各種ノ織物又ハ漁網ノ原料ニ供スルノミナラス舊港、基隆等ヲ經テ清國泉洲、福洲地方ニ輸出スルコト年々拾萬圓ニ達スト云フ然ルニ本邦内地ニ於ケル麻ノ需用ハ近年著シク増加シテ不斷供給ニ不足ヲ告ケ大麻ノ價格頗ル昂騰シタルノ結果價格低廉ノ南京麻、馬尼刺麻ヲ輸入スルコト年々約六七拾萬圓ノ多額ニ在ルヲ以テ本品モ亦清國輸出ヲ一轉シテ之ヲ内地ニ輸入スルニ至ラハ唯ニ臺灣ニ於ケル苧麻ノ販路ヲ擴ムルノ便益ノミナラス南京麻ノ輸入ヲ減少セシムルノ一助タルヲ信スベシ當業者一番茲ニ注意シテ可ナリ

黃麻、月桃ノ二種ハ臺灣總督府民政局出品ニシテ黃麻ハ英名「ジュート」ト稱シ苧麻ニ比スレハ纖維遙カニ劣ルト雖トモ價格頗ル低廉ナルヲ以テ漁具ノ原料ニ供スルコト少カラズ月桃ハ其質良好ナラサレトモ臺灣ニ於テハ蕃山ノ各處ヨリ採收シテ網ノ曳網又ハ罽網等ニ使用ス蓋此種ハ内地ニモ産シ沖繩ニテハ沙仁ト云ヒ伊豆諸島ニテハ山芭蕉ト云フ鹿兒島、宮崎兩縣ニ於テモ植ヘテ繩索又ハ草履ノ原料トナスト云フ芭蕉ハ一種ノ纖維料ニシテ鹿兒島縣ノ出品トス其調製宜シキニ適ヒ頗ル美麗ノ纖維ナレトモ産額少キト質脆弱ナルヲ以テ漁具ノ原料トシテ茲ニ評スルノ價值ヲ有セス

網絲及網

網絲及網ノ出品ハ前數回ノ内國勸業博覽會ニ於テハ其數僅少ニシテ毎回網地ニ合同セラル故ニ茲ニ計數的ノ比較ヲ示ス

コト能ハサルベシト雖トモ今回ハ大ニ其數ヲ増加シテ三百九十八點ノ多キニ及ヒ各府縣殆ント之カ出品ナキハナシ而シテ其出品ノ原質ヲ鑑査スルニ内外國産各種ノ麻、綿及生絲、櫻栢、葉、樹皮等各種ノ纖維ニシテ方今實用ニ供セラル重要ノ種類ハ殆ント之ヲ網羅セリ更ニ現品ニ就テ概言スレハ其紡績均整ナラス或ハ原絲ノ撰擇ニ注意セス又ハ撚合其度ヲ失シ所謂粗製濫造ノモノ無キニアラサレトモ概シテ良好ノ精品ニ乏カラス殊ニ著シク進歩發達シタルモノハ綿絲製網絲トス該品ハ從來ト雖トモ敢テ使用者ナキニアラサレトモ僅ニ一地方ニ止マリ一般ノ趨勢ハ明治二十八年第四回内國勸業博覽會ノ成績ニ徴スルニ當時漸ク實地ニ應用スルノ狀況ニシテ且其出品ノ數寥寥僅ニ屈指スルニ過キサリシカ今回ハ然ラスシテ麻絲百九十三點ニ對シ綿絲百五十九點ノ多キニ達セシノミナラス用途適切ノ製品多クシテ今ヤ已ニ麻絲ヲ凌駕セントスルノ勢アリ是レ漁業改良上ノ一現象ナリトス今左ニ府縣別種類出品表並三等賞以上ノ品名授賞者ヲ掲ク

網絲及網出品點數表

道府縣	種別	總點數	麻製	綿製	生絲製	棕栢製	葉製	樹皮製
東京	京	三一	三	二八	一			
京都	都	六	一		六			
大阪	阪	八七	五	八二				
神奈川	奈	一六	二					
兵庫	庫	一一	五			二		
新潟	潟	一二	九				三	
千葉	葉	一	一				三	

第二回水産博覽會審査報告 網絲及綱

物名	褒賞	住	所	姓名	網絲及綱三等以上受賞表										
					計	德	香	愛	高	福	佐	熊	宮		
漁網用麻絲三種	有功三等	東京市本所區綠町		小島庄七	二	二	二	二	二	二					
全 綿絲十八種	有功三等	全 下谷區上野町二丁目		西田嘉兵衛											
漁網用綿絲	有功一等	大阪府西成郡傳法村		大阪燃絲株式會社											
全 麻絲十六種	有功二等	大阪市西區薩摩堀北之町		石井孝太郎											
全 綿絲十種	有功三等	全 東區南久寶寺町二丁目		吉田長七											
		大阪府中河内郡八尾村		日本カタン絲株式會社											
					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
					一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九
					六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
					三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

第二回水産博覽會審査報告 網絲及綱

網絲及綱																								
歌		和	山	廣	岡	島	島	富	石	福	秋	青	岩	宮	靜	愛	三	柄	茨					
		山口	島	山	根	取	山	川	井	田	森	手	城	岡	知	重	木	城						
		八	二	二	六	一	六	二	三	一	五	三	三	七	三	二	二	三	三	一	〇	二	〇	一
		五	二	三	六	一	三	一	三	七	一	一	二	三	二	一	一	〇	一					
		一	三	一				一	〇									一	〇					
		三					二							三	二	一								

大敷網用五種ニシテ三子撚リノ太絲トス該品ハ全縣山縣高宮郡ニ産スル扱製麻ヲ原料ニ供シタルモノニシテ紡績均整
 撚合亦佳良能ク其用途ニ適スルヲ見ル和歌山縣松宮太郎兵衛出品ハ各種ノ漁網ニ供スルニ子三子撚ノ網絲五種ニシテ
 但馬、安藝産ノ麻ヲ原料トシ撚合佳良ナルモノナリ高知縣安岡喜會太郎出品ハ普通各種ノ網ニ用フルモノ三種ニシテ
 原料紡績共ニ佳良ナリ其撚合ニ近來各地ニ用フル簡易ノ撚絲器ヲ用フルニ至リタルハ製絲上ノ一進歩トナスヘシ全縣
 小松龜次出品ハ其細微美麗ナルコト一見絹絲ノ如ク今回出品ノ麻絲中之ニ比スヘキモノナシ多年ノ經驗手練ニ由ラス
 ンハ何ソ此ノ良品ヲ出スコト能ハス然レトモ其價格絹絲ノ上位ニアルヲ以テ特ニ麻絲ノ必要アルモノ、外其需用多カ
 ラサルヘキヲ知ルヘシ

綿絲ノ出品ハ東京、大阪、三重、静岡、石川、富山、廣島ノ二府五縣ニシテ之ヲ麻絲ニ比スレハ出品ノ地方甚タ狭少ナ
 リ故ニ綿絲ノ發達ハ今尙遲緩ナルカ如シト雖トモ決シテ然ラス今回ノ出品ニ徴スルニ顯然タル進歩發達ニシテ其製品ノ
 概括精良ナルノミナラス麻絲ノ如ク精粗ノ懸隔甚ダシカラス是レ必竟綿絲ハ麻絲ノ如ク本邦古有ノ手工的紡績ニ在テハ
 殆ント網絲ノ用ヲ爲サ、ルヨリ之カ原絲ハ專ラ内外國紡績會社等ノ産出ニ係ル一定ノ製品ヲ用フヘカラサルト一ハ其撚
 合法ニ器械ヲ要スルカ爲メ麻絲ノ如ク各自容易ニ之ヲ製造スル能ハサルニヨレリ而シテ從來會テ漁網ニ顧慮セサル處ノ
 三重紡績株式會社、大阪撚絲株式會社等ニ於テ近年盛ニ漁網用綿絲ノ製造ニ從事シ廣ク需用ニ應スルニ至リシハ綿絲ノ
 發達上著シキ現象ニシテ今ヤ真正ノ目的ヲ達スルノ近キニ至レリ左ニ出品ノ概要ヲ記ス

綿絲ノ出品ニシテ今回有功一等賞ヲ得タルハ大阪撚絲株式會社及三重紡績株式會社トス而シテ此二會社ハ他ノ綿網絲
 製造者ト異ナリ自己ノ紡績ニ係ル原絲ヲシテ直ニ之ヲ撚合シ以テ需用ニ應スルモノニシテ歐米各國ニ於ケル漁網絲製
 造者ト其規模ヲ同フシ事業ノ組織上前途頗ル望ヲ屬スヘキモノト云フベシ
 大阪撚絲株式會社ハ明治二十年ノ創立ニシテ當時ハ各種ノ縫絲、帆布、小倉織等機業用撚絲ヲ製造シ漁網用綿絲ノ製

造ハ翌二十二年標品ヲ英領加奈太ニ徴シテ試製シタルニ胚胎セリ然レトモ網絲ハ普通撚絲ト異リ特殊ノ撚合ヲ要シ本
 社在來ノ機械ニ在テハ到底漁網適切ノ製品ヲ出スコト能ハサルヲ察知シ明治二十九年ニ至リ英國ヨリ漁網用撚絲機械
 ヲ購入シテ製造ニ從事スルニ至リ製品ニ一新面目ヲ呈シテ噸ニ需用ヲ増加シ今ヤ本社ハ擧テ之カ事業ニ從事スルノ趨
 勢ナリトス其紡績ノ原料即チ綿花ハ埃及、米國、印度、支那産ニシテ網絲ノ原絲ハ右撚二十手或ハ二十二手トス撚合
 法ハ最初數條又ハ十數條ヲ合シテ右撚トナシ更ニ之ヲ三條合シテ左撚トス而シテ今回出陳ノ製品ヲ檢スルニ往々緊縮
 (俗稱ひり)ノ個處ヲ存スルト上撚ノ稍々強キニ過クルノ感ナキニアラサレトモ概シテ佳良ナルト其價格ノ低廉ナルハ
 將來倍々需用ノ廣キヲ徴スルニ足ルベシ

三重紡績株式會社ニ於テ漁網用綿絲ノ製造ニ着手シタルハ明治二十五年ニ係ルト雖トモ其製品ノ原料佳良ナラス撚合
 法片撚ナル等甚タ不完全ニシテ從テ需用僅少ナリシカ全二十七年ニ至リ社員ヲ各地ニ派シテ實地ノ調査ヲ施シ製品ニ
 一新面目ヲ呈スルニ至リ噸ニ需用ヲ増加シ到底在來設備ノ機械ノミニテハ普ク之ニ應スル能ハサルヲ以テ全二十九年
 ニ至リ更ニ機械ヲ増設シ今ヤ全社ニ設備セルモノ英國アランデル、ホールデン、ボイド三會社製造ニ係ル撚絲機械十
 臺ニシテ一ヶ年ノ製造高八十五萬磅ニ達スルニ至レリト云フ實ニ盛況ナリト云フベシ而シテ全社ニ於ケル紡績ノ原料
 綿花ハ亞米利加及印度産ヲ混用セルモノニシテ網絲ノ原絲ハ十八手ヲ用ヒ撚合法ハ三子撚四子撚ノ二種トス製品ハ概
 シテ佳良價格亦低廉ナレトモ將來望ムヘキハ一層原料ノ撰擇ニ勉メ上撚ノ過度ナルヲ適當ナラシムルニアリ
 又今回有功二等賞ヲ得タル大阪府石井孝太郎全三等賞ヲ得タル大阪府日本カタン絲株式會社麻田德平、齋藤孝三、東
 京府西田嘉兵衛ノ一社三名ハ他ノ各紡績會社ノ製造ニ係ル原絲ヲ購入シテ之ニ撚合ヲ施シ以テ自己製網ノ原料ニ供シ
 或ハ網絲トシテ供給スルモノニシテ從來各地共ニ行フベキ方法異ナラス石井孝太郎ハ祖先來漁網ノ製造ニ從事シ關西
 地方ニ於ケル漁網用綿絲創製者ノ一人ニ屬ス而シテ今回ノ出品ニ徴スルニ其細絲ニハ外國太絲ニハ内國各紡績會社ノ

製造ニ係ル二十手ヲ原絲ニ用ヒ概シテ佳良ニシテ前條ニ會社ノ製品ニ讓ラス寧ロ之ニ凌駕スルノ精品ヲ出セリト雖モ蓋然絲ノ方法タルヤ前記ノ如ク本邦在來ノ手動器械ニ係リ從テ勞力ヲ費スコト多ク且其工場ニ延長ノ場處ヲ要スル等ノ如キ事業組織ノ上ニ於テハ今尙改良ヲ要スベキ點少シトセス

日本カタン絲株式會社出品ハ大阪地方ニ於ケル紡績會社ノ製品ヲ原絲トシ在來手動器械ヲ用ヒ三子或ハ四子ニ撚合セラルモノニシテ十種ヲ出品ス製品概テ佳良ナリ就中一種ハ外國製瓦斯絲六十手ヲ用ヒテ撚合シタル細絲ニシテ品位頗ル佳良ナリ本品ハ製造日尙淺ク需用多カラザルカ如キモ蓋將來綿絲ノ改良上大ニ見ルベキモノナリトス麻田德平出品ハ二子撚或ハ三子撚十三種ニシテ原絲ハ內國製二十手ヲ用ヒ原質ノ選擇撚合共ニ普通ノ製品ニ比スレハ優ルトコロアルモ今尙一層撚合ニ注意スルヲ要ス齋藤孝三出品ハ鹹水淡水區共ニ之レアレトモ敢テ其製品ニ差異アルヲ見ス而シテ其出品ハ細太二十種ニシテ原絲ハ多ク天滿、大阪兩紡績會社ノ製品ヲ採用スレトモ就中細絲ハ外國製瓦斯絲ノ晒白シタルモノヲ用ヒタルカ爲メ頗ル美麗ナレトモ網絲トシテハ敢テ其美ヲ貴ハサルヲ以テ將來原質ノ強韌ナルモノヲ選擇シ一層撚合法ニ注意スルヲ要ス

西田嘉兵衛出品ハ自己ノ製造ニ係ル三子撚製ノ細太ナルモノ十八種ニシテ原絲ハ內國製二十手ノ佳良ナルモノヲ用ヒ普通ノ製品ニ比スレハ其撚合亦可ナリト雖トモ蓋下撚稍々弱キニ過キテ製品柔軟ナルヲ惜ム

其他發狀以下ノ出品ハ静岡、石川、富山、廣島ノ四縣ニシテ概シテ之ヲ既往博覽會等ニ於ケル出品ニ比スレハ品位遙ニ上進セルヲ見ルモ原絲ノ選擇ニ注意セス或ハ撚合其度ニ適セスシテ玆ニ評論スルノ價值ヲ有スルモノ少シ

本邦ニ於ケル漁網用綿絲ノ發達ハ前條記載ノ如ク近年紡績業ノ發達ニ伴ヒ顯著タル長足ノ進歩ニシテ其精品ニ乏カラス從テ需用ヲ増加シ今ヤ數年ヲ出スシテ麻絲ノ位置ヲ奪ハントスルノ趨勢ニ達セリト雖トモ要スルニ現今ノ綿網絲ハ多ク二十手内外ノ太絲ヲ原料トシ細絲ヲ撚合シタルモノハ大阪府日本カタン絲株式會社齋藤孝三出品ノ如キ試製品ア

ルニ過キス然レトモ之ヲ歐米各國ニ於ケル情況ニ徵スレハ現今本邦使ニ用スル處ノ二十手内外ノ太絲ヲ撚合シタルモノハ鮭網用等ニ供シ鰹網用等ニハ百六十手ノ細微ナル原絲ヲ撚合セシモノアリテ其原質殊ニ佳良ナルヲ以テ比較的強韌ナルヲ見ルベシ故ニ將來本邦ニ於テモ綿網絲ハ特ニ原質ノ精撰ヲ要スルハ勿論可及的細絲ヲシテ多數ノ絲條ヲ撚合スルヲ肝要トス是レ網絲ノ細キモノハ假令其原質ノ精良ナルヲ用フルモ重量ヲ減スルカ爲メ價格ニ著シキ差異ナクシテ使用上ニ於ケル勞力ヲ減少スルト漁獲上頗ル利便ナルトハ到底在來品ノ遠ク及フ處ニアラサルヲ以テナリ

絹絲ハ從來遊漁ニ用フル投網等ノ原絲ト爲スニ過キサリシカ近來漁業ノ發達ト共ニ河湖内海ノ漁業ニハ鱸、鰯刺網ノ如キ特ニ細微ノ網絲ヲ要スルモノ乃至網ノ形体小ナルモノニ使用スルコト少カラス然レトモ今回ノ出品ハ京都市ニ止マリ其點數僅ニ六點ニ過キス就中褒賞ヲ得タルモノハ渡邊仙太郎、永田定次郎トス渡邊仙太郎出品ニハ二子撚、三子撚ノ二種ニシテ二子撚ハ從來ノ右撚ヲ左撚ニ改メ三子撚ハ近年ノ創製ニシテ共ニ品質佳良撚合亦可ナリ永田定次郎出品ハ二子撚及片撚ノ二種ニシテ品質佳良撚合能ク其用途ニ適セリ

細網ハ從來各地方共ニ粗造廉價ノ纖維ヲ用ヒテ製作使用スルヲ常トセシカ近來漁業ノ發達ニ伴ヒ自然使用繁激ナルヲ以テ麻網ヲ用ユルモノ漸々増加スルニ至レリ然レトモ今回ノ出品ハ櫻柁製、藻製、藻心製、松皮製ノ四種ニシテ麻網ノ出品ハ絶テ之ヲ見ス是レ甚タ遺憾トスル處ナリ

櫻柁製ニハ製網、製網用ノ二種アリテ共ニ兵庫縣ノ出品トス而シテ櫻柁網ハ普通ノ製品ニシテ特ニ見ルベキノ點ナシト雖トモ製網用櫻柁網ハ全縣白木長次郎出品ニシテ該品ハ其撚合容易ナラサルモノナレトモ原質ノ撰擇宜キヲ得テ撚合佳良能ク用途ニ適スルヲ見ルベシ

藻製ニハ網ノ曳網ト及製網ノ原料ニ供スル細繩ノ二種アリテ細繩ノ出品中佳良ナルモノハ愛媛縣柴田吉太郎、西村助八トシ亦曳網ノ佳良ナルモノハ新潟縣猪股淺吉徳島縣植田勇藏出品トス猪股淺吉ハ地方所産ノ莖ヲ原料トシ三ツ打ニ

製セルモノニシテ原質撚絢共ニ可ナリ殊ニ從來ハ採收シタル藁ヲ其儘使用シタリカ強韌ナラサルヲ以テ近年ハ打撚テ原料トスルニ至レリ用途ハ海鼠網用ニシテ主トシテ北海道ニ輸出ス植田勇藏出品モ亦原質佳良ニシテ撚合適當普通ノ製品ニ比スレハ遙ニ見ルベキ處アリ

藁心製ハ主トシテ製網ノ原料ニ供シ其需用大且甚タ廣シ從テ今回出品ノ地方モ十三縣ニ涉リ前記ノ品種ニ比スレバ點數稍々多クシテ三十餘點ニ達セリ而シテ神奈川、兵庫、新潟、和歌山、島根ノ各縣出品ノ如キハ其精品ニ乏カラスンテ能ク用途ニ適スルヲ見ル然レトモ之カ製作ハ從來單ニ手工ニ係ルヲ以テ概シテ繩條均整ナラス結束ノ内外ニ於ケル精粗混交甚シクシテ下等品ニハ往々其用ヲ爲サ、ルノ部分アルガ如シ是レ素ヨリ本品ハ其纖維ノ粗體ナルト價値低廉ナルヲ以テ特殊ノ製造ヲ施スノ違ナキニ由ルト雖製造者ハ將來此點ニ注意シ成ルヘク一様ノ製品ヲ出スニ勉メ將亦藁心繩ノ用途多ク荒手網ニ使用シテ魚ヲ恐怖セシムルノ目的ニ出ツルヲ以テ品質佳良ニシテ光澤ヲ有スルモノヲ撰用スルコト尤モ必要ナリトス

松皮製ハ網ノ曳網ニシテ從來關西地方ニ於テハ之ヲ用ヒ今回ノ出品ハ兵庫、愛媛ノ二縣トス然レトス該品ハ普通ノ製作ニ係リ且其生産多カラサルヲ以テ茲ニ詳論セス

網地

網地ノ出品ハ其數第四回内國勸業博覽會ニ在テハ三百七十四點ナリシカ今回ハ大ニ増加シテ六百四十九點ニ達シタルノミナラス原質ノ種類極メテ多シ而シテ此種ニ於ケル進步ノ功蹟著シキモノハ機械製網地ノ出品ト綿絲網地ノ増加シタルコト是ナリ機械製網地ハ東京機械網工場出品ニ係ル綿絲網地ニシテ從來ハ専ラ手工ノ製作ニ係リシモ今ヤ此出品ヲ見ルニ至ル實ニ本邦製網業ノ一紀元ニシテ多年ノ宿望ヲ達スルノ緒ニ就キタルモノト云フベシ洵ニ稱揚スヘキノ一事ナリ而シテ綿絲網地ハ已ニ網絲ノ條下ニ於テ記載シタル如ク從來僅ニ識者ノ試製ニ止マリシカ昨今ノ實況ニ照シ今回ノ出品ニ

徵スルニ麻絲網地ノ數三百六十四點ニ對シ綿絲網地百九十七點ニシテ過半數ヲ占メ實ニ歷然タル長足ノ進步發達ニシテ今ヤ麻絲網地ニ比較シ綿絲網地ノ便益ナルコト全ク定説トナリ倍々需用ノ途ヲ擴張シテ將來麻絲網地ノ位置ヲ奪ハントスルノ趨勢アリ然レトモ惜ムヘキハ之レカ製造ニ從事スルモノ今尙少數ナルヲ以テ不斷供給饒多ナラス爲メ明治二十九年中ニ於ケル本邦漁網地需用額ヲ見ルニ麻絲網地四百五十三萬餘圓ニ對シ綿絲網地三十四萬餘圓ニ過キスシテ其割合僅ニ約七分五厘ニ過キス今左ニ網地出品種別點數表并ニ三等賞以上ノ品名授賞者ヲ掲ケテ參考トス

網地出品點數表

道府縣	種別	總點數	麻絲製	綿絲製	生絲製	棕柁繩製	藁繩製	麻	綿	藤	楮	麻	綿	藤	芭蕉
北海道		四		四											
東 京		一六		一六	二										
東 都		二													
大 阪		五八		五二		六									
神 奈 川		一													
兵 庫		一													
長 崎		五													
新 潟		九					五								
千 葉		二八	一八	一〇											
茨 城		三													

物	名	褒	賞	住	所	姓	名	計	網地三等以上受賞表											
									鹿兒島	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	徳島				
綿絲製網地	綿絲製網地	進歩一等	一等	東京市本所區柳原町		東京機械網工場		六												
全	全	有功三等	二等	大阪府西成郡傳法村		大阪撚絲株式會社		一三												
全	全	有功三等	二等	大阪府中河内郡八尾村		石井孝太郎		一四												
全	全	有功三等	二等	新潟縣佐渡郡松ヶ崎村		日本カタン糸株式會社		二〇												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		一八												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		一												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		四												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		五												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		二												
全	全	有功三等	二等	全縣	那荒濱村	牧口友太郎		二												

第二回水産博覽會審査報告 網地																				
和歌山	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	青森	岩手	宮城	長野	静岡	愛知	三重	三	三	三	三
三〇	二	一五四	三五	四九	一二	二〇	七	四	四二	四二	二三	二	二三	七	二六	一				
二六		九七	二四	一三	九	一〇	六		四二	三七	二三		一九	六	一五	一				
三	二	四五	九	二八	二				五											

新	群	千	炎	奈	三	愛	靜	滋	岐	長	宮	福	岩	青	山	秋	福
渦	馬	葉	城	良	重	知	岡	賀	阜	野	城	島	手	森	形	田	井
一〇二七四一	一四三九九	四〇三一七七	四八一二二八		一八五一三五	一三〇五五六	一四四六五二	一三四六五	三九一二	三二二八	二九六四三六	三五〇五〇	六一五八三	七三三四八	七六八五	一三九九八五	一三五五七七
														一八三〇四			
二六四	九	九五七	五七〇八		一一一七	一四三三	一二九八五	一〇五七	一二三	六		六八二	二〇〇				二五九
	三七二	一五七五			八二五	四八〇	六八九八	四四五	七〇六二	四五六	二三〇七	四二	二七二				
一五六二		一〇二六	一四一五			二〇五六	四八九	七三三七九	五二			三五一五八	二六四九	一五五四	二二七〇	六八	六五二六
一〇四九三八	三〇二二	四〇五一六〇	四八八二五一		一八二五	一九七八八八	一三九三七六	二二九四六一	二〇六三六	八五九一	五五四一	三三一六一八	三八六五三	六三三三七	九二〇三三	七七五三	二二一一三
一五五三七		一五五三															一五五三七

石	富	鳥	島	岡	廣	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿
川	山	取	根	山	島	口	山	島	川	媛	知	岡	分	賀	本	崎	島
五五九〇七	九九八四八	二八四五七	九六六九六	六六〇二三	四一一七〇	一一八〇九六	五九二一八	二四三五九	六九〇一一	一〇二四七四	一五〇二八九	九七五四八	七〇八八一	二八二三〇	二四六一二	七六五六三	二四一〇四
八〇四		一三三二	一二八七二	二二四六八	六二二九一	一一三三七	三八六六	五八三四	一九四八四	二二七八八	一〇七六	四三六七	六二二六	七八一	七七二五	一五六	一五〇
一六九六		一七〇	四九一二	四九六九	三二二	一一五五	一一三〇	一〇〇	三九八七	三三四	四〇	九七四	一七二〇				
八二九一	九三七三四	三六五	一六九四五	二二二九	三六〇一九	一九四〇六	五五二一	三一七八	一四七〇二	一九三四五	一〇七二五	四三三九	六〇〇一	二五六〇二	四六〇	一一四七	八五九五
六六六九八	一九三五八二	二九一一四	一三二四二五	九五六八九	一三九七九二	一五〇〇四四	六九七三五	三三四七一	一〇七一八五	一四四九四一	一六二二二〇	一〇七二二八	八四八一八	五四六一三	三二七八七	七七八六六	三二八四九

沖	繩	四二八七七	四九	一一八	四二九四四
計		四、五三九〇九九	三四三六五九	五八五五〇	五五二八二四
					五、四九四一三二

麻絲網地ハ漁網地ノ各種中需用大且最モ廣キヲ以テ從テ今回出品ノ地方モ神奈川外二十二縣ノ廣キニ涉リ就中新潟、千葉、愛知、岩手、廣島諸縣ノ如キハ從來網地ノ生産夥多ナルヲ以テ製作自ラ精巧ナルモノ多シ然レモ其製法ニ至テハ皆手工ニ依テ製作シタルモノニシテ特殊ノ改良ヲ見ス今三等以上ノ賞ヲ得タルモノニ就キ概評ヲ下セハ左ノ如シ

今回有功二等賞ヲ得タルモノハ愛知縣山本太次兵衛廣島縣製網合資會社トス山本太次兵衛出品ハ野州産麻ヲ原料トシテ子撚絲製六種ニシテ幅目ハ皆百掛トス其二十三節十九節十六節十三節ノ四種ハ本目結ニシテ八節及二寸二分目ノ二種ハ蛙股結トス該地方ノ習慣トシテ從來比較的多額ノ重量ヲ有スル網地ノ需用多キヲ以テ他ノ出品ニ比スレハ重量殊ニ多ク龜揚操網用十六節網地ニシテ一尋六十夕ノ多量ヲ有スルモノアルヲ見ル從テ其延長ニ對スル價格不廉ノ嫌ナキニアラスト雖モ原質ノ撰擇宜シキヲ得テ紡績撚合能ク其度ニ適シ結節亦整然、麻絲網多數ノ出品中此右ニ出ツルモノナシ故ニ將來價格低減ノ方策ヲ求メ販路擴張ヲ致サハ需用決シテ鮮少ナラサルヲ知ルベシ製網合資會社ハ備後鞆町漁網商佐藤甚右衛門、太田源四郎、桑田清右衛門ノ協力一致ニ依ルモノニシテ創業日尙淺シト雖モ着々事業ノ改善進歩ヲ致セリ今回ノ出品ハ十八種ニシテ原料ハ廣島、島根、栃木、長野、新潟ノ諸縣及清國芝罘産荒苧トス製品ニハ片子撚ニ子撚三子撚アリテ幅目ニ五十掛百掛ノ二様アリ網目ハ用途ノ目的ニ從ヒ細大各種トス而シテ同社ノ製品ハ現品ニ徴スルニ概シテ佳良ニシテ其生産多キヲ以テ唯ニ近縣ニ供給スルニ止マラス北海ノ需用ニ應スルモ亦少カラスト

亦有功三等賞ヲ得タルモノハ新潟、福岡、岩手、廣島、和歌山、高知ノ六縣トス新潟縣收口友太郎出品ハ鱧小舌網ニシテ同縣柴野香藏出品ハ鱧蓋網地トス共ニ原料ハ同縣所産ノ金引製荒麻ヲ用ヒテ製作シタルモノニシテ製品佳良能ク

其用途ニ適スルヲ見ル唯ニ價格不廉ナルヲ惜ムヘシ静岡縣中山清作出品ハ該地方ニ於ケル節、鯉揚操網用網脇ト網地ノ二種ニシテ原料ハ野州麻引束ヲ用ヒ原絲ハ自己ノ工場ニ設備セル手動器械ニヨリテ紡績撚合セルヲ以テ絲條、均整特ニ見ルヘキノ點トス結節ハ本目結ニシテ兩線ノ二重編ナルハ用意周到ナルヲ徴スベシ岩手縣木村卯之助鈴木由松、千葉壽七、佐々木惣右衛門出品ハ概シテ同一ノ製品ニシテ廿三節廿節ノ細目ナルモノニ良品多シ原料ハ從來同縣膽澤郡及東磐井郡産麻ヲ用ヒシモ近來其生産饒多ナラサルヲ以テ野州地方ヨリ購入スルモノ少カラス而シテ製品ハ主トシテ三陸沿海ノ需用ニ應スレドモ北海道ニ輸出スルモノ多シ廣島縣佐々木孝太郎出品ハ四種ニシテ二種ハ普通ノ十節網地ノ製作佳良ナルモノナレドモ他ノ二種ハ鱧大敷網用ニシテ近年ノ創製品トス其幅目ハ百掛ニシテ二寸五分目ハ本目結六寸五分目ハ蛙股結トス原麻ハ地方所産ノ扱製麻ニシテ製作亦特ニ見ルベシ九州東岸ニ於テハ之ヲ使用スルモノ年一年ニ増加シテ其販額少カラサルベシ大石慶三郎、多賀谷協一、野間圓助、大多儀助ノ出品ハ普通細目ノ網地ニ佳良ナルモノ多クシテ從來該地方ノ需用少カラスト雖モ蓋シ其幅目ハ慣習ニ從ヒ七十五掛乃至百六十掛ノ各種アリテ殆ント一定セサルハ將來需用ノ途ヲ擴充スルニ於テ一ノ支障タルヲ察スヘシ木下善之助出品ハ十七種ニシテ皆荒苧製ニ係リ原絲ニ片子撚ニ子撚アリテ幅目ニ五十掛八十八掛百掛等アリ製品ハ概シテ佳良ニシテ殆ント製網合資會社出品ニ同シ細目ノ網地ハ主トシテ該地方ノ需用ニ應スレトモ粗目ノ網地ハ北海ニ輸出スルコト年々鮮少ナラス其業ニ精勵スルノ厚キヲ徴スルニ足ルヘシ和歌山縣松宮太郎兵衛ハ二子麻絲製ニシテ網目ノ粗密ナルモノ十一種ヲ出品ス其製作ハ特ニ見ルベキノ點ナシト雖モ概シテ佳良ニシテ湯淺網地ノ面目ヲ失ハス高知縣上原兵三郎出品ハ幅目九十八掛廿六節網地ニシテ原料編製共ニ佳良ナリ惜ムヘキハ其價格ノ稍、不廉ナルニアリ

其他衰狀以下ノ出品ハ其數夥多ニシテ從テ製作上見ルヘキモノ少カラス然レトモ僅ニ自己所用ノ網地ヲ調製スルニ止マリ或ハ商品ナルモ産額少クシテ廣ク需用ニ應スル能ハサルモノアルヲ以テ茲ニ評論セス

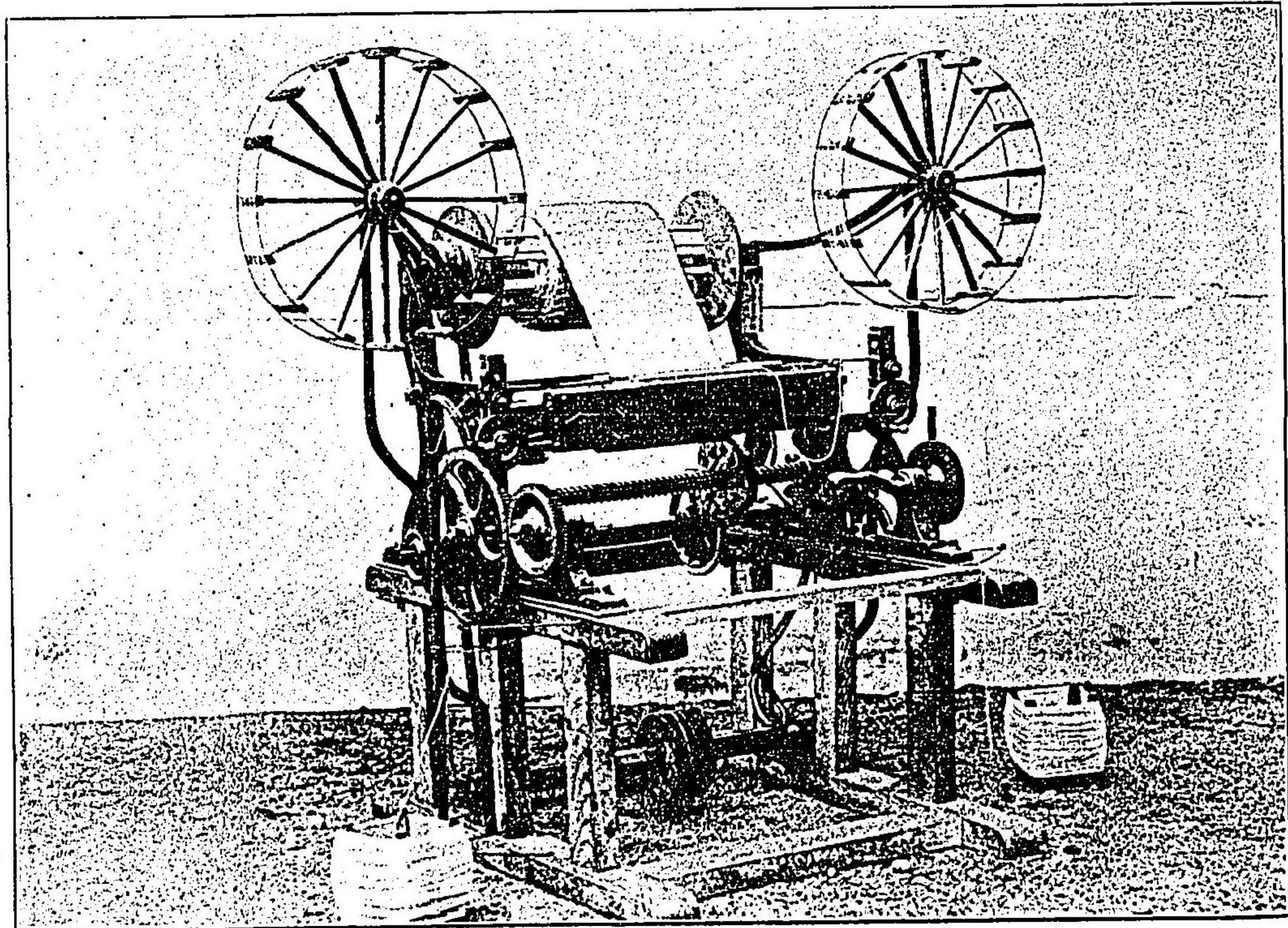
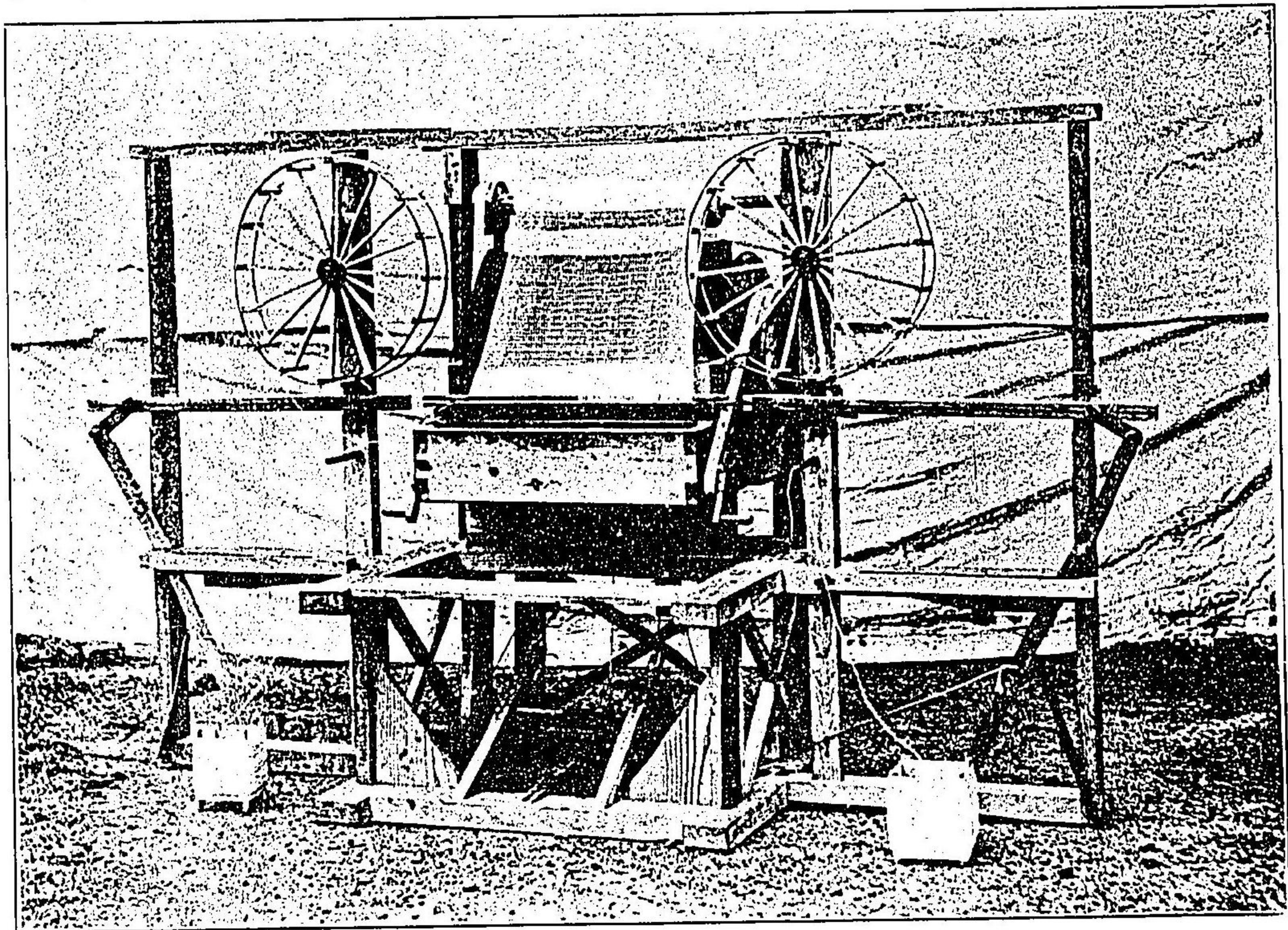
綿絲網地ハ總論ニ於テ記述シタル如ク各種ノ漁具原料中獨リ其製作上ノ變遷進步ノ蹟著シキモノニシテ網具ノ改善上麻糸網地ノ代用トシ有益至便ナルモノナリ是レ全ク其原質ノ依テ然ラシムルニ由ルト雖モ蓋其紡績撚合法ノ機械的作用ニ出ルヲ以テ製品ノ絲條自ラ均整ヲ極メ在來手工製麻絲ノ如ク一條ノ絲繩ニ於テ細太不同ノ部分ナク從テ之ヲ網地トナスモ原料ヲ徒費スルナク重量ヲ増サ、ルノ利便アルニ由レリ而シテ其製網上東京機械網工場ノ如キ機械ヲ用フルニ至リシハ顯然タル一進步ニシテ唯々勞力ヲ遞減スルノ硬益ニ止マラス其製品ノ結節ハ整然トシテ頗ル見ルヘキモノナリトス今回ノ出品ハ北海道外十五府縣ニ涉リ就中東京、大阪、三重、廣島、島根ノ二府三縣多數ヲ占ム現品ハ概シテ佳良ニシテ麻絲網地ノ如ク精粗ノ懸隔甚カラスト雖モ前記各府縣ニハ特ニ見ルヘキモノ多シ今三等以上ノ賞ヲ得タルモノニ就キ概評ヲ下セハ左ノ如シ

進歩一等賞ヲ得タル東京機械網工場ハ明治二十九年二月ノ創立ニ係リ日尙淺ク從テ網地ノ生産多カラスト雖モ事業ノ進行上前途頗ル多望ナリトス工場設備ノ機械ハ巽ニ岡田莞爾發明ニ係ル第二二九五號特許網編成機及ヒ平牛定次郎發明ニ係ル第二九五四號特許製網機ノ二種(第九十五版參照)ニシテ撚絲器ハ之カ附屬器トナシ在來手動器ヲ備ヘリ(第九十六版參照)而シテ今回ノ出品ハ主トシテ前者ニヨリテ編製シタルモノニシテ十五種トス其幅目數ニ五十掛百掛ノ二様アリ網目ハ皆本目ニシテ其大サニ二十四節乃至八節又ハ四寸乃至二寸二分目ノ各種トス原絲ハ鐘淵紡績株式會社ノ製品又ハ舶來メーラー綿絲ニシテ凡テ左ニ二十手ヲ撚合セシモノナリ更ニ製品ニ就テ概評ヲ下セハ一定ノ機械ニ由リテ生産スルカ故ニ手工ニ由リテ製作シタルモノ、如ク節毎ニ結節ノ表裏ヲ現ハスコトナク首尾均整ニシテ原絲ノ繫節少ク幅目數ノ不足又ハ目落等ノ弊習ハ絶テ之ナキノミナラス一帶延長ノ網地更ニ精粗混交スルコトナシ是レ機械製ノ長所ニシテ手工製ノ到底及フ所ニアラザルヘシ

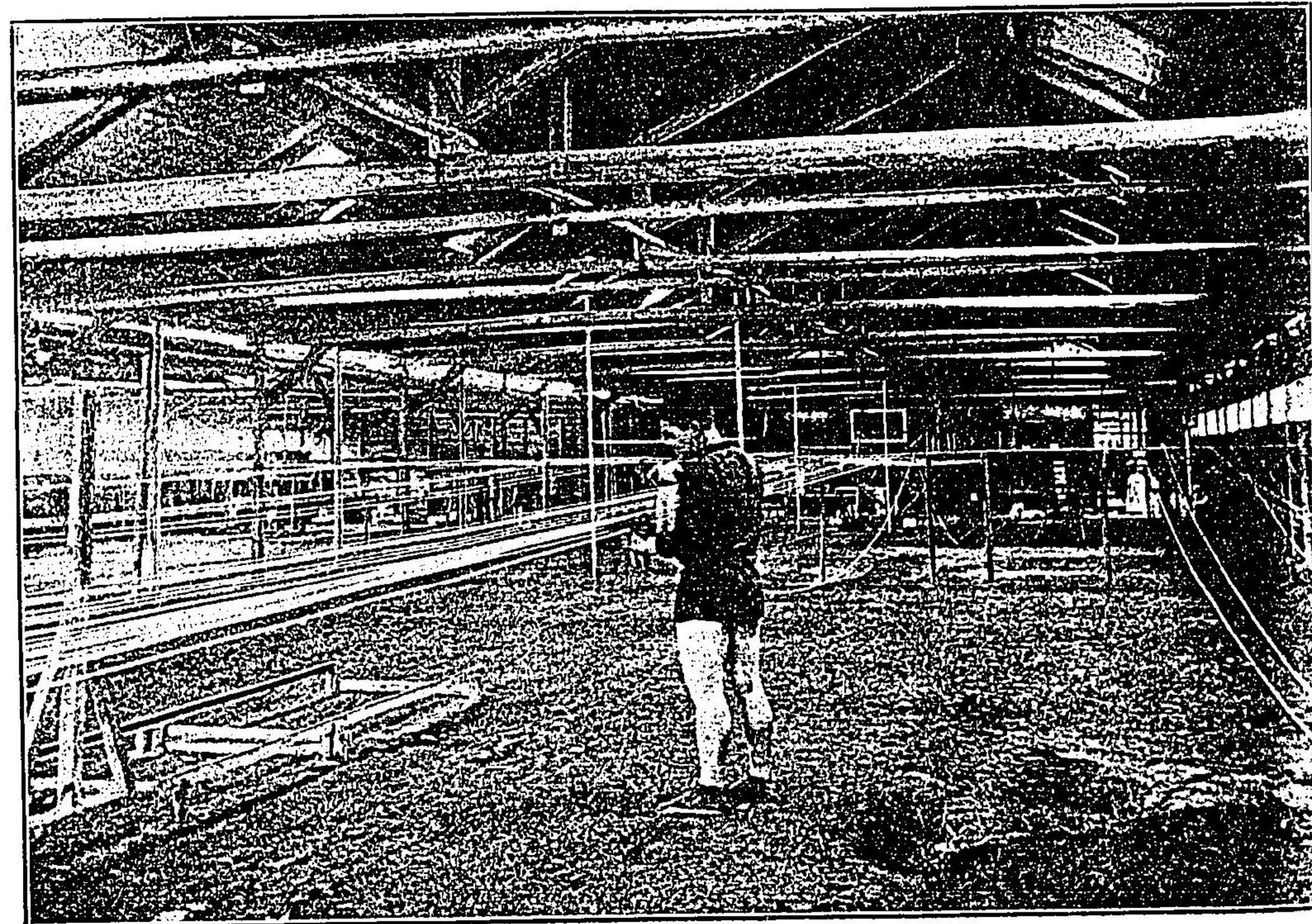
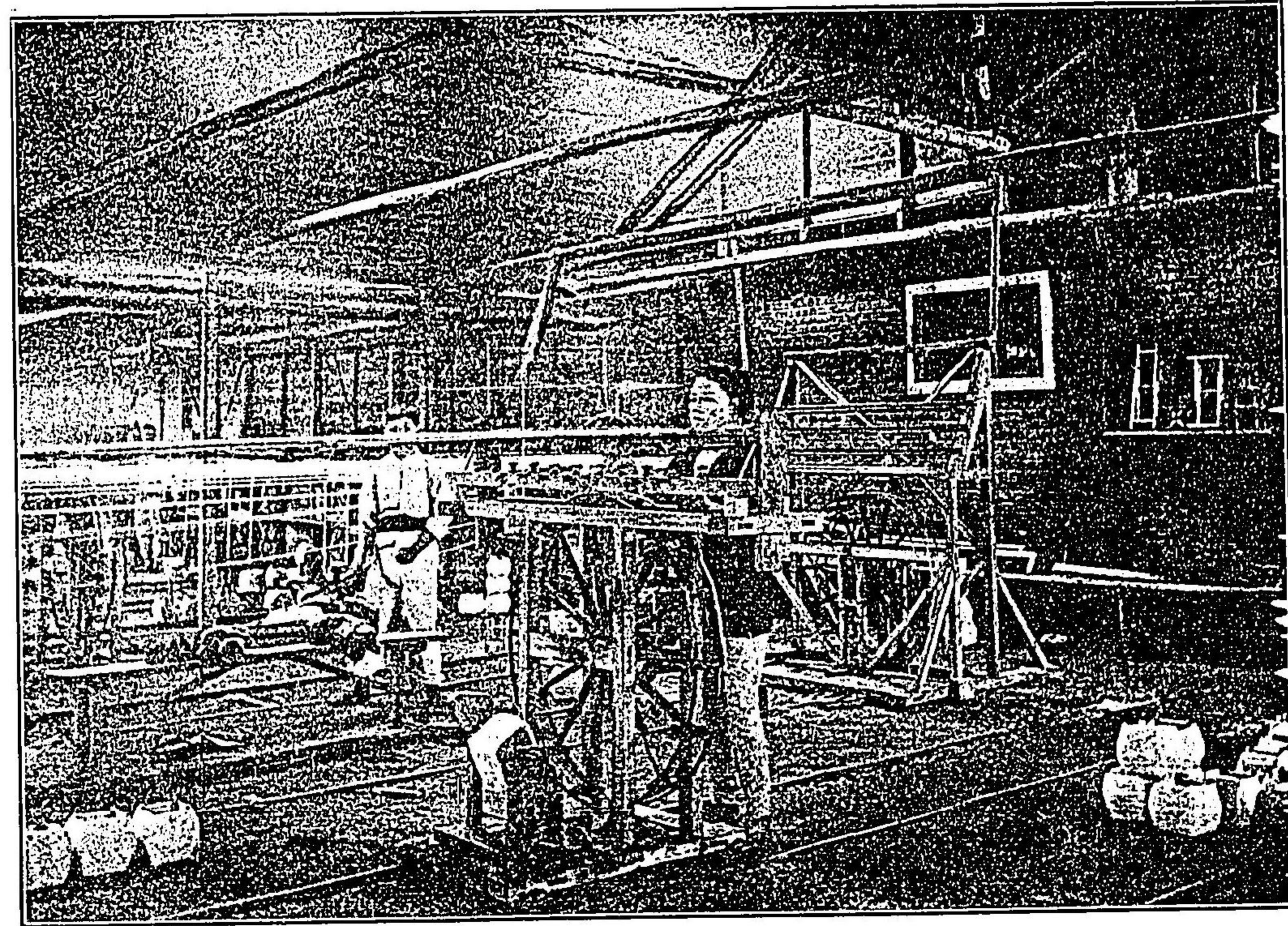
有功一等賞ヲ得タルハ大阪撚絲株式會社及三重紡績株式會社トス此二會社ハ已ニ網絲ノ條下ニ於テ記載シタル如ク紡

版五十九第

機網製明發爾莞岡



機網製明發郎次定牛平



場工網城機京東

小川一眞製

績及撚絲業ヲ以テ本務トナシ網地ノ製造ハ殆ント其兼業タルニ過キヌシテ製造ノ方法モ普通ノ手工製ニ係レリ然レトモ原絲ノ製造自己ノ工場ニアルヲ以テ撚合ノ硬軟ハ能ク種類ニ適應スルヲ得ヘク之ヲ他ヨリ購入スルモノニ比スレハ自ラ其間ニ於テ便宜ヲ有セリ而シテ製品ハ概シテ佳良ニシテ産額亦少カラサルベシ需用ハ主トシテ北海道ニ輸送スト雖モ近年東海、中國、四國諸縣ニ於テ需用スルモノ亦少カラス

有功二等賞ヲ得タルハ大阪府石井孝太郎、廣島縣鞆製網合資會社トス石井孝太郎出品ハ各種ノ網具ニ用フル網目ノ細大ナルモノ四十種ニシテ原絲ハ主トシテ自己ノ工場ニ於テ撚合セシモノニ係リ廣島、山口兩縣沿海村ニ於テ編製セシメタルモノナリ製品ハ近來著シク上進シテ能ク其用途ニ適フ出品中瓦斯絲ヲ用ヒテ編製シタル細目ノ網地ハ漁網地改善上前途望ヲ屬セリ鞆製網合資會社出品ハ二十四種ニシテ自己ノ工場ニ於テ撚合セルモノヲ原絲トシ鞆町及其附近村落ニ於テ編製セシメタルモノナリ製品ハ各種共ニ佳良ニシテ價格亦低廉廣ク需用ニ應スルヲ得ヘシ尙一層原質ヲ精撰シテ品位ノ上進ヲ謀ルヲ要ス

有功三等賞ヲ得タルモノハ大阪府日本カタン絲株式會社千葉縣福原忠平島根縣島田慎二郎廣島縣大石慶三郎、多賀谷協一和歌山縣松宮太郎兵衛高知縣上原兵三郎トス日本カタン絲株式會社出品ハ五種ニシテ全社ノ製造ニ係ル撚絲ヲ原料トシ廣島縣下ニ於テ編製セシメタルモノニ係ル製品ハ普通ニシテ敢テ特産ノ點ヲ見サレトモ瓦斯絲製二十節網地ハ將來漁網地改良上大ニ參考ニ資スルニ足ル福原忠平出品ハ廿五節廿節十四節ノ三種ニシテ原絲ハ舶來編絲三ツ撚トス製品ハ頗ル佳良ナリト雖モ今尙ホ試製ニ過キヌシテ從テ産額少キヲ憾ム島田慎二郎出品ハ十三種ニシテ原絲ハ大阪府下ヨリ購入シ自村ニ於テ編製セシメタルモノニ係ル製品ハ概シテ佳良ニシテ之ヲ從來該地方ニ於ケル綿絲網地ニ比スレハ遙ニ優等ノ佳品ナリト雖モ原絲ノ撚合ニ於テ上撚ノ過度ナルヲ見ル元來島根縣下ハ本邦ニ於ケル綿絲網地ノ創始ニシテ明治初年ノ頃ヨリ已ニ使用セシモノアリシカ如シ大石慶三郎多賀谷協一出品ハ各四種ニシテ普通ノ製品ナレト

モ自ラ見ルヘキ處アリ松宮太郎兵衛出品ハ五種ニシテ其原絲ハ大坂府出品ニ同シク編製亦見ルヘシ上原兵三郎出品ハ廿四節網地ニシテ原絲ノ撚合編製共ニ佳良ナリ
 其他衰狀以下ノ出品ニハ前記各府縣ノ外岩手、富山、岡山ノ諸縣ニモ見ルヘキモノ少カラスト雖モ昨今漸ク着手シタルニ過キス又ハ僅ニ試製スルニ止マリ廣ク需用ニ應スル能ハサルヲ以テ茲ニ啓ス
 以上ハ出品ノ概評ニ過キス而シテ今日綿絲網地ニ就キ必要ナルハ各地ニ其製造者ヲ増加セシムルト編製上ニハ原絲ノ細微ニシテ強靱ナルモノヲ選擇スルト一ハ編網器ヲ使用シテ勞力ヲ省キ製品ノ價格ヲ遞減シ且ハ一定ノ生産力ヲ保有セシムルコト是ナリ昨今ノ實況ヲ查察スルニ綿絲網地ノ生産地ハ主トシテ東京、三重、大坂、廣島等ニシテ之カ需用ハ今ヤ殆ント全國ニ涉リ爲メニ不斷供給ニ不足ヲ告ケ偶々之カ使用ヲ希企スルモノアルモ麻絲網地ノ如ク各地容易ニ購入シ得ラルヘキ便ヲ欠ケリ之レ製造者ヲ増加スルノ必要ナル所以ナリ而シテ現今使用ノ綿絲網地ハ和製紡績ノ二十手内外ナル太糸ヲ撚合シテ原絲ニ供スルモノ多シ故ニ將來原質ヲ精撰シ成ヘク細糸ヲシテ多數ノ糸條ヲ撚合シタル網糸ヲ用フルヲ必要トス編網器ハ僅ニ端緒ヲ開キタルニ過キサレハ將來倍々之カ利用ヲ勉ムルコト尤モ肝要ナリトス
 生絲網地ハ近來内海河湖ノ如キ漁業ノ進歩稍、其極ニ達シタル處ニ於テハ使用スルコト少カラスト雖モ今回ノ出品ハ僅ニ京都府二點福井縣一點合計三點アルノミ京都府出品ハ鱒刺網地ニシテ原絲ハ片撚網目ハ一寸六分六厘三十五掛長サ武十尋トス武田嘉平出品ハ其製作殊ニ可ナリ福井縣出品ハ鱸殘魚用四ツ手網地ニシテ製作普通ナリトス
 棕梠繩網地ハ大坂府笹村竹造出品ニシテ二子繩製網目ノ細大ナルモノ六種トス該品ハ主トシテ北海道ニ需用セラレ藻心繩網地ノ代用トシテ編製シタルモノニ係リ製作佳良ニシテ保存期長ク實用ニ適スルヲ見ル然レトモ其價格ノ不廉ナルヲ惜ムヘシ
 蠶繩網地ノ出品ハ新潟、静岡、秋田、廣島ノ四縣ニシテ其點數十三點トス新潟縣佐渡ハ從來蠶繩網地ヲ以テ主要物産ト

ナシ年々北海道ニ輸出スルコト實ニ多額ニ昇リ近來ハ露領陸哈噠島ニ輸出スルニ至レリ全縣青木長三郎出品ハ鮭網用四子繩製四寸目五十掛ニシテ品位尤モ佳良ナリ秋田慈善會出品ハ二子繩製三寸目三子繩製五寸目四子繩製六寸目ノ三種ニシテ各種共ニ製作青木長三郎出品ニ讓ラス之レ今回此種ニ於テ特ニ有功ニ等賞ヲ得タル所以ナリ其他ノ出品ハ概シテ普通品ノ佳良ナルニ過キサレハ茲ニ記述セス

綆地ノ出品ハ其數五十三點ニシテ麻綆、綿綆、藤綆、楮綆ノ四種アリト雖モ楮綆ハ僅ニ愛知縣ノ出品一點アルノミ而シテ麻綆ノ出品ハ鳥取、島根、岡山、廣島、福岡、熊本ノ六縣ニシテ就中見ルヘキモノハ鳥取廣島ノ二縣トス鳥取縣網谷金治出品麻絲製九ツ綆ハ原絲細微ニシテ組織整然尤モ用途ニ適フ産額亦少カラス廣島縣福島清次郎、住繁五兵衛出品ハ一重綆ノ細微ナルモノニシテ組織佳良ナリ而シテ綿綆ハ從來之ヲ使用スルモノ僅少ナリシカ今回ハ其出品ノ多數ナルノミナラス出品ノ地方モ亦廣クシテ兵庫、長崎、静岡、島根、岡山、廣島、愛媛、佐賀、熊本ノ九縣トス是レ綿絲網地ノ需用ニ隨伴シタル結果ナルカ如シ然レトモ製品ハ概シテ普通ニシテ特ニ記述ヲ要スルモノナシ藤綆ノ出品ハ鳥取、島根、佐賀ノ三縣ニシテ製品ノ佳良ナルモノハ佐賀縣ニ多シ全縣東松浦郡唐房及佐志ハ其原料ノ生産夥多ニシテ從來藤綆ノ生産地トシテ名アリ産額多クシテ廣ク各地ノ需用ニ應セリ布ノ出品モ亦其原料ニ麻、綿、藤、芭蕉等ノ各種アリト雖モ特ニ見ルヘキモノハ長野縣風間佐源治、福井縣福田彌三右衛門出品麻布トス風間佐源治出品ハ地方所産ノ青麻片撚絲ヲ用ヒテ組織セルモノニシテ原絲ノ撚合能ク其度ニ適シ品位頗ル佳良尤モ實用ニ適ス福田彌三右衛門出品ハ野州麻ヲ用ヒテ原絲ヲ製シタルモノニシテ紡績均整組織精巧ヲ極ム

縞絲

縞絲ノ出品ハ總數百九十點ニシテ之ヲ原質ニ由リテ區別スレハ麻絲製、生絲製、天蠶絲ノ三種アリ亦用途ニ由リテ區別スレハ延繩用、立釣用、竿釣用ノ各種トス然レトモ各地共ニ從來需用ノ多キハ麻絲製ニシテ生絲製、天蠶絲之ニ次ケリ蓋

繅絲ノ釣漁ハ主要品ニ屬スレトモ其原料ノ變換、乃至製作上ニ於ケル進歩ノ蹟甚々遲緩ニシテ今回ノ出品ニ於テモ製品ノ佳良ナルハ麻絲製ニシテ其他ノ種類ニハ特ニ見ルヘキモノ少シ今左ニ繅絲出品種別點數表并ニ三等賞以上ノ品名授賞者ヲ掲ケテ參考ニ資ス

繅絲出品點數表

道府縣種別	總點數	麻絲製	生絲製	天蠶絲
京都府	五九	四	五九	
大阪府	八五	四	一二	
奈良縣	四	二		
兵庫縣	二	一		
長崎縣	一			
埼玉縣	四			
千葉縣	一			
茨城縣	一			
愛知縣	一			
岐阜縣	一			
廣島縣	一			
計	一九〇	三三	八三	七四

繅絲、三等以上受賞表

物名	褒賞	住所	姓名
繅絲十一種	有功三等	京都市下京區柳馬場東入	兒島定七
麻製繅絲四種	全	大阪市東區南久寶寺町二丁目	吉田長七
磨天蠶絲	全	全市西區本町二丁目	清水五郎兵衛
麻製釣繩三種	全	神奈川縣中郡須馬村	杉山龜吉
麻製繅絲二種	全	兵庫縣城崎郡八條村	山川又右衛門
海鮑延繩用麻絲	全	廣島縣高宮郡三川村	福島清次郎
延繩用麻絲	全	全縣沼田郡川内村	住繁五兵衛
海鮑延繩用麻絲	全	全縣高宮郡三川村	原田讓兵衛

鯛	延	繩	用	麻	絲	全	廣嶋縣高宮郡口田村	田	中	源	之	助
鮪	用	繩	麻	繩	全	高知縣高岡郡須崎町	上	原	兵	三	郎	

麻絲製絹絲ノ出品ハ大阪、神奈川、兵庫、長崎、島根、廣島、香川、愛媛、高知、大分、鹿兒島ノ一府十縣ニ涉レトモ就中品位ノ佳良ナルハ大阪、神奈川、兵庫、廣島、高知ノ一府四縣ニシテ種類ハ延繩用ニ多シトス大阪府吉田長七出品ハ各種ノ釣具ニ用フルモノ四種ニシテ原料ハ野州産引田麻ヲ用ヒ摺合亦適當品位頗ル見ルヘシ主トシテ北海道ノ需用ニ應セリ神奈川縣杉山龜吉出品ハ鮪延繩用ニシテ原料ハ野州麻ヲ用ヒ自己ノ考案ニ係ル手動捲絲器ニ由リ製作セルモノトス原麻ノ撰擇宜シキヲ得テ摺合其度ニ適セリ兵庫縣山川又右衛門出品ハ細太十四種ニシテ本邦産支那産麻ノ二種ヲ原料トシ簡易ノ製網器ニ由リテ製作セシモノニ係レリ而シテ其摺合上見ルヘキモノハ但馬麻ヲ用ヒテ製作シタル細絲ニシテ他ノ製品ハ概テ普通トス廣島縣福島清次郎、住繁五兵衛、原田讓兵衛、田中源之助出品ハ皆延繩用ニシテ地方所産ノ扱製麻ヲ原料トシ紡績均一ニシテ摺合能ク其度ニ適セリ高知縣上原兵三郎出品ハ鮪繩用ニシテ製作精巧ヲ極メリ其他ノ出品ハ概テ普通品ノ佳良ナルモノナリト雖モ鹿兒島縣屋宮茂喜出品手釣絲ハ其防腐料ニ豚血ヲ施セルモノニシテ一種ノ製品トス製作亦佳良ナリ

生絲製絹絲ハ主トシテ河海共ニ一本釣具ニ供用スルニ止マリ延繩トシテ使用スルコト殆ント之ナキカ爲メ麻絲製ニ比スレハ其需用遙ニ少シトス今回ノ出品ハ京都、大阪、埼玉、愛知、島根、徳島、高知ノ二府五縣ニ涉リ製品ノ佳良ニシテ多數ナルハ京都ヲ最トシ大阪、高知之二次ケリ其他ノ諸縣ハ僅ニ一二點ニ過キスシテ從テ見ルヘキモノナシ京都府兒島定七出品ハ原質ノ撰擇宜シキヲ以テ摺合能ク其度ニ適ヒ産額少カラス大阪府藤田重三郎出品モ亦普通ノ製品ニ比スレハ遙ニ優等ナリト雖モ摺合上稍々缺クル處ナシトセス

天蠶絲ハ釣具ノ原料トシテ必要缺クヘカラサルヲ以テ從來支那、印度等ヨリ輸入スルコト年々五六萬圓ノ價額ニ達セリ

故ニ各地ニ於テ其採製ヲ試ムルモノアリト雖モ其製品ハ概シテ粗悪軟弱ニシテ實用ニ適スルモノハ極メテ少シ水産調査所出品ニ係ル蠶製天蠶絲ハ將來有望ノモノナレモ今尙其試用中ニ存シ茲ニ成績ヲ知ル能ハナルハ遺憾トス今回ノ出品ハ大阪、千葉、茨城、愛知、岐阜ノ一府四縣ニ涉レトモ千葉以下ノ各縣出品ハ各自ノ製品ニ係ルヲ以テ之ヲ海外輸入品ナル大阪府出品ニ比スレハ及ハサルコト遠シトス大阪府出品ハ磨製ニシテ原料ハ清國廣東産多シ全府清水五兵衛、龜山嘉兵衛ハ古來其製造ニ從事シテ頗ル經驗ヲ有シ今回ノ出品モ亦原質ノ撰擇宜キヲ得テ練磨精巧ヲ極メ販額尤モ多シ

釣鉤、釣竿

釣鉤ノ出品ハ其點數頗ル夥多ニシテ殆ント二千點ニ達スレトモ形小ナルモノニシテ特殊ノ製作ニ係ル擬餌鉤等ヲ除クノ外普通ノ釣鉤ハ概テ數十點ノ類聚ノ出品ニ係リ各個其異同ヲ論評セント欲セハ勢ヒ用途上ノ便否ニ及サ、ルヲ得ス故ニ之ヲ釣具ノ條下ニ於テ較評スルノ便ヲ謀リ茲ニ之ヲ省略セリ

釣竿ノ出品ハ從來内國勸業博覽會ニ於テハ毎回僅少ニシテ從テ製作精巧ナルモノ極メテ少カリシカ今回ハ唯々其出品點數ノ増加シタルノミナラス見ルベキモノ亦多シ而シテ出品ヲ大別スレハ一本竿、繼竿ノ二種トス繼竿ハ主トシテ遊漁用ニ供シ海外輸出スルモノ亦少カラス然レトモ從來ノ輸出品ハ概シテ粗製品ニアルヲ以テ近來外人ノ嫌忌ヲ受クルニ至レリ聞ク將來之カ改善ノ方策ヲ需メナレハ前途其需用ヲ閉塞スルノ患ナシトセス實ニ注意スヘキノ一事ナリトス今回ノ出品中繼竿ノ佳良ナルハ東京府ヲ最トシ高知、岩手、兵庫ノ各縣之ニ次ケリ東京府中村利吉出品鮪釣竿ハ多數ノ出品中殊ニ製作精緻ナルモノニシテ意匠斬新能ク歐米人ノ嗜好ニ適セリ中根吉吉出品ハ赤目鯛、鮒、黑鯛、釣竿ノ三種ニシテ竹質良好摺合堅固ニシテ塗漆頗ル美麗ナリ彦田茂八出品沙魚釣竿ハ良質ノ布袋竹ヲ用ヒ製作シタル跳竿ニシテ製作佳良ナレトモ塗漆ノ粗ナルヲ憾ムベシ高知縣山崎龜太郎出品ハ各種共ニ携帶ニ便ナルモノニシテ製作精巧意匠亦見ルベシ一本竿ノ出品ハ宮崎縣ヲ最トシ愛知縣之ニ次ケリ之レ兩縣所産ノ竿ハ竹質強ク節低クシテ生長直立ナルヲ以テナリ

浮子、沈子

浮子、沈子ハ漁具ノ構成上水中ニ於ケル浮沈ノ作用ヲ相互對反的ニ保有セシメ又ハ定置スヘキ碇トナシ或ハ其所在ヲ示ス目標トシテ必要ノ品物タリ然レトモ浮子、沈子ハ素網ノ附屬品ナルヲ以テ從來一般ノ意向網地、縞絲等ノ如キ用意周到ナラス從テ變遷、進歩ノ蹟極メテ遲緩ナリ而シテ今回ノ出品モ其多數ハ漁具ノ添出品ニシテ單獨ノ出品ニ係ルモノハ其數ノ寡ナルノミナラス種類モ概テ在來使用ノモノニ止マリ特ニ見ルベキモノハ寥々僅ニ屈指スルニ過キサルベシ

浮子ノ出品ハ其材質ニ桐、漆、檜、杉、檜、竹等アリ形狀ニ丸形、角形、小判形、柏子木形樽形等アリテ各種漁具ノ異ナルト用途ノ目的ニ從ヒ各其材質形狀ヲ異ニセリ今其一例ヲ舉グレハ長ク水中ニ置カサル網具ノ浮子ハ木質ノ輕キ桐材ヲ用ヒ長時間水中ニ沈下セル底刺網用ノ如キハ水分ノ滲透シ易カラサル漆材ヲ用ヒ又ハ臺網ノ浮子鱒漬木ノ如キ形大ナルモノハ杉丸材又ハ竹ヲ束テ用フル等ノ如シ然レトモ各地一般需用ノ多キハ桐材ニシテ杉材ハ東北地方ニ多ク南西地方ニハ稀ニ之ヲ使用スルノミ是レ杉材ハ價格低廉ナリト雖モ木質粗惡ニシテ水分滲透シ易ク浮子トシテ貴重スヘキモノニアラサルヲ以テナリ今回ノ出品中形狀製作ノ佳良ナルハ神奈川、山形、秋田、福井、岡山、徳島、兵庫、埼玉ノ八縣ニシテ各自ノ出品ハ形狀木質ノ異ナルモノ數個乃至十數個ヲ出陳セリ岡山縣眞田千次郎日生製網合資會社出品ノ各浮子ニ添フルニ其浮子網トノ結構ヲ示シタルハ用意周到ト云フベシ山形縣白幡彌兵衛出品手操網用溜塗浮子ハ長方形平浮子ニシテ漆材ヲ用ヒ兵庫縣新宅幸吉出品ペンキ塗浮子ハ楕圓形ニシテ木質ハ杉材トス元來浮子ニ價值低廉ノ輕粗ナル木材ヲ用ヒテ之ニ塗料ヲ施シ以テ水分ノ滲透ヲ防キ長ク同一ノ浮力ヲ保有セシムヘキ浮子ヲ製スルノ必要ナルハ常ニ識者ノ唱道スル所ナリシカ現ニ今回此種ノ出品ヲ見ルニ至リシハ尤モ賞揚スヘキノ事ニ屬ス故ニ前記二者ハ特ニ審査ノ際水分滲透ノ如何ヲ試ミシニ水分ヲ含有スルコト殆ソト之ナキカ如シ將來此種ノ製品ニシテ普ク需用スルニ至ラハ其利益鮮少ナラサルベシ

沈子ハ概テ大小乃至異形物ノ類聚ノ出品ニ係ルモノ多シト雖モ形狀概シテ圓形又ハ楕圓形ニシテ中心ニ網ヲ貫通スヘキ一孔ヲ有シ又ハ結縛ノ便ナル爲メ外面中部ニ凹處ヲ供フルモノ多シ而シテ其材質ニハ鉛、鐵、陶製、石等ノ各種アリテ鐵製ハ淡水漁業ニ於テ稀ニ之ヲ用フルノミ鉛ハ容積ニ對シ比較的多量ナルヲ以テ從來沈子トシテ貴重セシモ價值低廉ナラサルヲ以テ廣ク之ヲ用ヒサリシカ漁業ノ發達ト共ニ近年其需用ヲ増加セリ陶製及石ハ各地一般使用スルモノニシテ今回ノ出品モ亦此種ニ屬スルモノ多シ然レトモ石製ハ多ク其地方便宜有合ノ品物ヲ用フルヲ以テ茲ニ論評スルノ必要ヲ認メス陶製沈子ノ佳良ナルハ愛知縣内藤新三郎、福井縣中橋文太郎、岡山縣眞田千次郎、日生製網合資會社、香川縣河田初治出品トス福岡縣鮎川菊太郎ノ出品温石製沈子ハ其材質恰モ練土ノ如クシテ頗ル多量ヲ有シ形狀製作共ニ佳良ナリ其他此種ノ出品ニシテ特殊ナルモノハ東京府持田傳七出品漁網用撚取鐵高知縣益弘喜三郎、堀内熊太郎出品燈籠沈子トス漁網用撚取鐵ハ眞鍮製ニシテ網絲ニ備フル曳網ノ撚ヲ除外スヘキモノニシテ主トシテ其組合ニ附設ス頗ル有益ノ一具ナリ燈籠沈子ハ形狀其名ノ如ク梓及ヒ胴部ハ金屬線ヲ以テシ上下ハ鉛鑄製トス該品ハさは釣具ニ附設スル撒餌籠ニ沈子ヲ兼備スルモノニシテ頗ル經便ナリ

類聚品

漁具原料類聚ノ出品ハ網地、縞絲、釣鈎、釣竿、浮子、沈子等ノ類ニシテ各其地方在來ノ品種ヲ聚集シタルモノニ係レリ而シテ此種ノ出品ハ前内國勸業博覽會等ニ於テハ殆ソト之ヲ見サリシカ今回ハ其出品點數ノ夥多ナルノミナラス類聚ノ順序整然トシテ研究上參考資料ニ供フヘキモノ少カラス蓋今回ハ特ニ本會事務局ニ於ケル漁具出品ノ獎勵厚キノ結果ニ由ルト雖モ亦當路者ノ注意漸進シタルニ外ナラス今有功三等賞ヲ得タルモノニ就キ其概要ヲ左ニ記ス

宮城縣鈴木禎次、青森縣陸奥水産會、島根縣外海水産業組合聯合會議所ノ三者ハ網地、釣鈎、浮子、沈子ノ四種ニシテ類聚ノ數四十乃至七十五點トス出陳ノ方法ハ各種別ニ從テ額面ニ併列裝飾シテ品名ヲ付記シ一目其異同ヲ詳ニセリ

香川縣五十嵐高誠出品ハ釣鈎、浮子、沈子ノ三種ニシテ浮子、沈子ハ使用スヘキ網具ニ從ヒ釣鈎ハ延繩一本釣ヲ區別シテ其用途ヲ詳ニセリ愛知縣一色安茂出品ハ釣具原料類聚ニシテ鈎、鈎竿、縞絲、浮子、沈子ノ六種トス全人ハ自己ノ製作販賣ニ係ル品種ヲ類聚出陳シタルモノナリト雖モ其出陳方法類聚ノ順序ヲ失セス多年業務ニ勵精スルノ厚キヲ徵スルニ足ルヘシ

第一區第七類

● 漁業用餌料

釣漁ノ漁業上重要ナル位置ヲ有スル所以ノモノハ一ハ比較的ニ其業体ノ單簡ニシテ企業ニ多額ノ資本ヲ要セス隨テ漁場附近ノ居住者ハ極テ薄資ノ細民ト雖モ亦能ク容易ニ事業ヲ組織シテ自ラ之ニ從事シ以テ各獨立ノ營業ヲ爲シ得ルノ便アルト一ハ或ハ常ニ深海ノ底層ニ棲息シ或ハ個々離散シテ群ヲ爲サス或ハ群集浮游スルモ性質敏捷游行迅速ニシテ網獲シ難キ魚類又ハ磯際等崎嶇突兀タル岩礁ノ間若クハ潮流急駛シテ網具ノ使用ニ便ナラサル漁場ニ用テ漁利ヲ收メ以テ漁撈ノ目的ヲ完カラシムルニアリ然ト雖モ釣漁ノ法タル釣具餌料相須テ始テ其用ヲ爲スモノニシテ餌料ナキノ釣具ハ猶彈丸ナキ銃器ノ如キノミ彼ノ魚群ノ簇至スルニ拘ラス唯餌料ノ缺乏セルノミニシテ空シク大漁ノ好機ヲ逸シ去ルモノ各地往々見聞スルトコロニシテ餌料ノ應用及其貯藏ノ方法ハ漁業ノ經濟及ヒ發達上當業者ノ當ニ研究セサルヘカラサル急務ニ屬セリ而シテ之ヲ用ルヤ同種ノ魚類ニ同一ノ季節ニ用フルモノト雖モ各地ノ狀況慣習等ニヨリ其採取貯藏使用ノ方法等ヲ異ニスルモノナシトセス況ンヤ南海ノ魚類ト北海ノ魚類トハ其種類性質相同シカラサルノミナラス甲地方ニ於テ饑産スル餌料ノ種類モ乙地方ニ在リテハ其生産甚多カラサルモノアリ乙地方ニ得易キ餌料モ丙地方ニ在リテハ全ク缺乏スルモノアリ甲地方ニ於テ頗ル費用シ又ハ巧ニ貯藏シテ以テ不時ノ需用ヲ充スモノ乙地ニ於テハ未其利用若クハ貯藏ノ道ヲ知ラサルモノアリ故ニ汎ク各地方ニ行ハル、餌料ノ種類貯藏及ヒ使用ノ方法等ヲ比較對照シテ之カ研究ヲ遂ルヲ得ハ從來廢物タリシモノ、利用ヲ開キ高價ニシテ得難キモノニ代用スルニ低廉ニシテ供給豊富ナルモノヲ以テシ保存ノ手段ヲ加ヘテ季節以外ノ用ニ備ヘ或ハ繁殖飼育シテ適當ノ餌料ヲ得ル等斯業ノ發達ヲ裨益スルニ於テ益シ非常ノ効果ヲ見ルニ至ラン而シテ博覽會ハ實ニ此ノ如キ比較的研究ヲ爲シ得ヘキ最上ノ好機會ナリト雖モ從來是等餌料ノ出品極テ稀ニシテ僅ニ之アルモ資シテ以テ研究ノ料ト爲スニ足ラサリシカ今回ハ各地方ノ協會或ハ私人ヨリ類聚若クハ單一ノ出陳甚タ多

ク鹹水用ニ於テハ東京静岡等二十六府縣五百二十七點ノ出品アリ三等三百七十四點褒狀十六件三百二點ノ受賞ヲ出シ淡水用ニ於テ愛知外四縣三十八點ノ出品ヲ見ルニ至レリ就中兵庫愛知ノ出品ノ如キハ裝鈎ノ實況ヲ明示シテ一其用法ヲ瞭然タラシメ最モ周到ノ用意ヲ盡セリ又販賣多カラサレモ商品トシテノ餌料ヲ出陳セルモノアリ要スルニ之ヲ出品物及其解説書ニ徴スルニ輒近餌料ノ種類ヲ増加シ且生活ノ儘若クハ製造ヲ加ヘテ之ヲ貯藏スルノ方法モ大ニ發達進歩シタルノ跡歴々タリ今左ニ其審査成績表ヲ示ス

第一部第七類餌料出品表

出品府縣	種類	有	功	賞	褒	狀	摘	要
京 都							類集	二點
兵 庫							類集	
愛 知							類集	
靜 岡							類集	
宮 城							類集	
福 島							類集	
山 形							類集	
鳥 取							類集	
島 根							類集	
山 口							類集	二點

德 島	香 川	福 岡	大 分	佐 賀	鹿 兒 島	合 計
三〇	一一	四	一九	二一	二〇	四九六
						三
一	二	一	一	二	一	一八
類集	類集	類集	類集	類集	類集	六

以上表示スル出品ニシテ有功賞ヲ受ケタルハ愛知、兵庫、京都ノ一府二縣ノ類聚品トス而シテ是等出品ノ概要ヲ記スレハ左ノ如シ

愛知縣知多水産會出品ノ餌料類聚ハ汎ク管内ノ漁餌ヲ蒐集シ添ルニ圖書ヲ以テシ特ニ毎種餌料ヲ鈎ニ裝スルノ狀ヲ示ス又能ク使用ノ時期使用ノ鈎具其他鈎魚ノ種類及貯蓄法等ヲ知ルニ便ス凡ソ漁餌ニハ各地慣用ノ種類アリ用法亦地方ニ依リ多少ノ差異ナキヲ得スト雖モ彼是對照シ甲乙比較セハ或ハ彼ノ長ヲ取リテ我短ヲ補フモノアラシ或ハ甲地ノモノヲ乙地ニ移用シテ利益スルモノアラシテ該縣ノ出品ニ係ル餌料類聚ハ前記セルカ如キ研究ノ資料ニ供スルニハ最モ適當ノモノトス

兵庫縣大日本水産會兵庫支會ノ出品ニ係ル鹹水魚鈎餌料ノ類聚ハ同縣沿海漁村ニ於テ使用スル所ノ漁餌ヲ集メ酒精ニ浸シテ出陳セルモノニシテ能ク各種ヲ網羅シ縣下所用ニ係ル餌料ノ種類ヲ示スノミナラス併セテ漁餌ヲ鈎ニ裝スル狀ヲ明示シテ使用上ノ得失ヲ講究スルノ資ニ供ス其用意ノ周到ナルヲ見ル今ヤ各地漁業者ノ餌料ノ改良擴張ヲ圖ルヘキ必

要ヲ感スル時ニ方リスノ如キ出品アルハ最モ稱揚スルニ足ル
 京都府加佐郡漁業組合ノ出品ノ漁餌類聚ハ同縣牛窪其三男ノ採集ニ係ルモノニシテ丹後沿海ニ於テ從來慣用ノ漁餌ヲ蒐
 集シテ遺サス添ルニ使用地使用具使用時期ヲ區分セル細別表ヲ以テシ期節及ヒ土地ノ異ルニ隨ヒ漁餌及漁具ニ異同アル
 狀況ヲ明ニス其出品ノ用意周到ナルヲ見ル是丹後一國ニ於ケル釣具ノ名稱漁具ノ種類漁業ノ期節等ヲ詳悉スルモノニシ
 テ當業者ニ裨益スルコト尠カラストス

第一區第八類及第二區第十九類

漁船

總論

今回出品ノ漁船ハ鹹水用ノモノ二百七十點淡水用ノモノ二十一點アリ其他農商務省及ヒ臺灣總督府等官廳出品ヲ合スレ
 ハ無慮三百點ニシテ之ヲ第一回水産博覽會ノ出品數ニ比スレハ殆ソト數倍ノ多キニ達ス而シテ之ヲ概評スレハ船體ノ形
 式多クハ古來慣用ノモノニ基クト雖モ世運ノ進歩ト實地ノ必要トニ依リ構造及使用法共ニ漸進ノ域ニ向ヒ之カ改良ヲ扶
 翼スル種々ノ計畫モ亦漸次其効績ヲ收ムル氣運ニ際セリ殊ニ甲板若クハ舷側板ヲ設備シ以テ波浪ヲ凌クノ用ニ供シ助材
 梁隔壁ノ數ヲ増シ以テ船體ノ堅牢ヲ計リ或ハ中板ヲ設ケテ船體ノ動搖ヲ防キ風下ニ耐ヘ能ク前進駛航セシムルコトニ意
 ヲ用ヒ又ハ帆裝ヲ西洋式ニ改メタル等從來ノモノヲニ比スレハ其面目ヲ一新セルモノナキニ非ス蓋シ一般ニ沿海漁業ノ
 區域ヲ擴張シ沖合出漁ノ必要ニ迫リタルヤ知ルヘキナリ就中千葉縣ヨリ出品セル「スクーヤル」形漁船圖式ノ如キ船體堅
 牢ニシテ其構造能ク造船法ニ適ヘリ其他兵庫縣出品ノ「スクーヤル」形漁船雖形ノ如キハ實際工事中ニ屬シ實際使用スル
 ニ到ラサリシト雖モ其設計ヲ外國漁船ニ則リタルモノニシテ頗ル遠洋漁業ニ適スルヲ知ルヘシ今ヤ是等種類ノ出品ヲ見
 ルニ至リタルハ本邦漁業上ノ一進歩ニシテ漸ク遠洋漁業ノ氣運ニ向ヒタルヲ徵スルニ足ルヘシ又近海ニ於テ雜漁業ニ從
 事スル漁船ノ如キハ其地方沿岸ノ形勢潮流及波浪ノ狀況等ノ關係ニヨリ構造スルヲ以テ其形狀千差萬別アリト雖モ船中
 ノ一部ヲ改造セルモノアリ例セハ船首又ハ船尾ニ甲板ヲ張リ船側板ヲ設ケ或ハ帆裝ヲ西洋式ニナス等一局都ニ改良ヲ施
 シタルモノ尠ナカラストス
 古來本邦漁船ノ構造タル一般ニ簡易ヲ主トシ操縦ノ便ヲ圖ルヲ以テ或ハ粗笨脆弱ニシテ暴風激浪ヲ凌クニ堪ヘサルモノ

第二回水産博覽會審査報告 漁船

アリ凡ソ漁船ノ良否ハ漁業ノ發達進歩ニ最大ノ關係ヲ有スルノミナラス漁者ノ安全ヲ保ツ上ニ於テ頗ル緊要ノモノナレハ之カ構造ニ銳意改良ヲ施ス必要アルヤ論ヲ俟タス而シテ漁船ノ構造ハ地形海況等ニ關係ヲ及ホスノミナラス漁者ノ慣習漁業ノ組織等ニ鑑ミ取捨折衷セル所ナカルヘカラス故ニ一定ノ規矩ノ下ニ斷定スルゴト能ハスト雖モ從來ノ經驗ニ徴シ又之ヲ學理ニ照シ以テ改良ヲ施スニ至テハ利益スル所蓋シ鮮少ナラストス今回出品ノ漁船數及ヒ授賞點數ヲ表示スレハ左ノ如シ

第八類出品點數及授賞點數一覽表

府 縣	出品數	名 譽 進 步			有 功 協 贊			褒 狀	授 賞 總 計
		金	銀	一 等 二 等 三 等	一 等 二 等 三 等	一 等 二 等 三 等			
東 京 府	五							一	二
神 奈 川 縣	五							一	一
靜 岡 縣	一							一	一
愛 知 縣	四							一	一
三 重 縣	一							一	一
千 葉 縣	二							一	一
茨 城 縣	九							一	一
福 島 縣	九							一	一
宮 城 縣	〇							一	一
岩 手 縣	五							一	一

青 森 縣	山 形 縣	秋 田 縣	新 潟 縣	富 山 縣	石 川 縣	福 井 縣	京 都 府	鳥 取 縣	島 根 縣	山 口 縣	大 阪 府	兵 庫 縣	岡 山 縣	廣 島 縣	和 歌 山 縣	德 島 縣	香 川 縣
四	一	四	〇	九	七	八	六	五	六	四	四	二	三	三	八	一	一
三	一	二	四	一	二	三	三	一	一	六	一	二	二	三	一	一	一
三	一	二	四	一	二	三	三	一	一	六	一	二	二	三	一	一	一

第二回水産博覽會審査報告 漁船

府縣	出品數	名譽進歩有功協贊					褒狀	總授計
		金	銀	一	二	三		
愛媛縣	二							一
高知縣	八							三
長崎縣	四							二
佐賀縣	九							三
福岡縣	五							二
大分縣	五							二
熊本縣	二							三
宮崎縣	一							二
鹿兒島縣	四							二
沖繩縣	一							二
北海道廳	五							二
合計	二七〇							二二六

第十九類出品點數及授賞點數一覽表

府縣	出品數	名譽進歩有功協贊					褒狀	總授計
		金	銀	一	二	三		
宮城縣	三							一
岩手縣	一							
青森縣	二							
長野縣	一							
滋賀縣	二							
富山縣	一							
鳥取縣	一							
大阪府	二							
福岡縣	一							
合計	二二							四

以上各府縣ヨリ出品ノ漁船ニ付テ其種類ヲ大別スレハ手釣ニ用フル小漁船ヨリ遠洋漁業ニ用フル西洋形帆船ニ至ル隨テ其構造形式等素ヨリ異同アリト雖モ報告書記載ノ便ヲ圖リ之ヲ種別シテ左ノ七種トナス

- 第一 繩船
- 第二 鯉船
- 第三 打瀬船
- 第四 網船
- 第五 西洋形漁船